取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

ALPHARD

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	**安全・安心のために**	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	**メーターの見方**	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	**各部の操作**	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	**運転**	運転に必要な操作やアドバイス
5	**室内装備・機能**	室内装備の使い方など
6	**お手入れのしかた**	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	**万一の場合には**	故障したときや、緊急時などの対処
8	**車両情報**	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ 34
お子さまの安全のために 42
チャイルドシート 43
排気ガスに対する注意 66

1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 67
オートアラーム 68

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 72
計器類 76
マルチインフォメーションディスプレイ 80
燃費画面／ ESPO 画面 91

3 各部の操作

3-1. キー
キー 96

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 101
スライドドア 107
バックドア 125
スマートエントリー&スタートシステム 136

3-3. シートの調整
フロントシート 143
セカンドシート 148
サードシート 161
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー（フロントシート）／メモリーコール機能........... 163
セカンドシートポジションメモリー........... 167
ヘッドレスト 169
シートアレンジ 172

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 185
インナーミラー 187
ドアミラー 189
補助確認装置 193

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 194
ツインムーンルーフ 198

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって......202

荷物を積むときの注意......211

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ......212

オートマチックトランスミッション......218

方向指示レバー......224

電動パーキングブレーキ......225

ブレーキホールド......229

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ......232

オートマチックハイビーム......235

フォグランプスイッチ......240

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）......242

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）......246

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方......248

4-5. 運転支援装置について

Stop & Start System（SMART STOP）......252

クルーズコントロール......263

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）......267

クリアランスソナー......280

インテリジェントクリアランスソナー......292

インテリジェントパーキングアシスト 2......304

運転を補助する装置......356

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）......362

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転......368

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方

フロントエアコン......374

リヤエアコン......385

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター（セカンドシート）......388

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧......391

・室内灯......392

・マップランプ......393

・リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）......393

・読書灯......394

・ルーフカラーイルミネーション......394

5-3. 収納装備
収納装備一覧..........................396
・グローブボックス.............397
・コンソールボックス..........397
・カップホルダー／
ボトルホルダー.................399
・小物入れ 402
ラゲージルーム内装備 405
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備..................409
・サンバイザー.....................409
・バニティミラー.................409
・時計 409
・アクセサリーソケット......410
・アクセサリー
コンセント 411
・ワイヤレス充電器
(おくだけ充電).................413
・後席用サンシェード..........419
・サイドテーブル.................420
・買い物フック.....................422
・アシストグリップ.............422
・コートフック.....................423
・ステアリングスイッチ......424

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.......................... 426
内装の手入れ.......................... 430
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット.............................. 433
ガレージジャッキ.................. 436
ウォッシャー液の補充 438
タイヤについて 440
タイヤ空気圧について 444
エアコンフィルターの交換... 446
ワイパーゴムの交換 449
キーの電池交換...................... 452
ヒューズの点検・交換 455
電球(バルブ)の交換 458

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは......................470
非常点滅灯（ハザードランプ）...............471
発炎筒....................................472
車両を緊急停止するには.......474

7-2. 緊急時の対処法

けん引について......................475
警告灯がついたときは..........482
警告メッセージが表示されたときは......................487
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.........491
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.............504
エンジンがかからないときは...............517
シフトレバーがシフトできないときは.........519
電子キーが正常に働かないときは..................................520
バッテリーがあがったときは...................523
オーバーヒートしたときは....529
スタックしたときは..............532

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.................... 536

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.............................. 544

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.......... 552

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）........................ 554
車から音が鳴ったときは（音さくいん)................................ 557
アルファベット順さくいん............ 559
五十音順さくいん.......................... 561

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
  異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
  電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
  RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。
・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

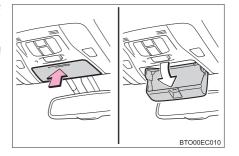
本書の見方

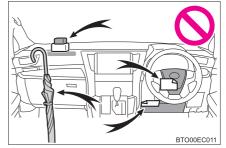
お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3 …　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

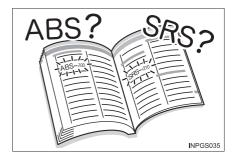
フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

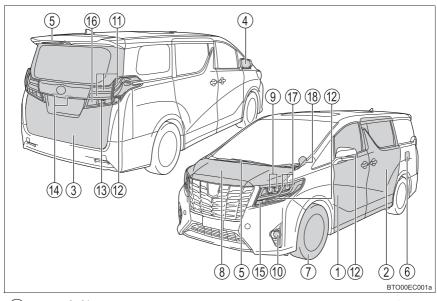
・五十音順さくいん...........561
・アルファベット順
さくいん..........................559

INPGS035

■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....................12

INPGS037

■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）...........554
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）..................557

INPGS038

■ タイトルから探す

・目次 2

INPGS039

イラスト目次

■ 外観

① **フロントドア ....P. 101**
施錠／解錠 ....P. 101, 103
ドアガラスの開閉 ....P. 194
メカニカルキーでの施錠／解錠 ....P. 520
警告灯・警告メッセージ ....P. 483, 487

② **スライドドア ....P. 107**
施錠／解錠 ....P. 107
ドアガラスの開閉 ....P. 194
車内から開ける....................................P. 110
車外から開ける....................................P. 108
警告灯・警告メッセージ ....P. 483, 487

③ **バックドア ....P. 125**
施錠／解錠 ....P. 125
車内から開ける....................................P. 125
車外から開ける....................................P. 126
警告灯・警告メッセージ ....P. 483, 487

④ **ドアミラー** .... **P. 189**
鏡面の角度調整 .... P. 189
ミラーの格納 .... P. 189
曇りを取る（ミラーヒーター）★ .... P. 190

⑤ **ワイパー** .... **P. 242, 246**
冬季の注意 .... P. 368
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ .... P. 377

⑥ **給油扉** .... **P. 248**
給油方法 .... P. 248
燃料の種類・燃料タンク容量 .... P. 248, 536

⑦ **タイヤ** .... **P. 440**
サイズ・空気圧 .... P. 541
冬用タイヤ・タイヤチェーン .... P. 368
点検・ローテーション .... P. 440
パンク時の対処 .... P. 491, 504

⑧ **ボンネット** .... **P. 433**
開け方 .... P. 433
エンジンオイル .... P. 537
オーバーヒート時の対処 .... P. 529
警告メッセージ★ .... P. 487

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 458, ワット数：P. 542）

⑨ **ヘッドランプ** .... **P. 232**
⑩ **フロントフォグランプ** .... **P. 240**
⑪ **尾灯** .... **P. 232**
⑫ **方向指示灯** .... **P. 224**
⑬ **後退灯**
シフトレバーを R にする .... P. 219
⑭ **番号灯** .... **P. 232**
⑮ **コーナーリングランプ★** .... **P. 233**
⑯ **リヤフォグランプ★** .... **P. 240**
⑰ **車幅灯／ LED デイライト★** .... **P. 233**
⑱ **補助確認装置★** .... **P. 193**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

① **エンジンスイッチ . . . . .P. 212**
エンジンの始動・モード切りかえ . . . . .P. 212, 213
エンジンの緊急停止 . . . . .P. 474
エンジンが始動できないときの対処. . . . . .P. 517
警告メッセージ . . . . .P. 487

② **シフトレバー . . . . .P. 218**
シフトポジションの切りかえ. . . . . .P. 218
けん引時の注意. . . . . .P. 475
シフトレバーが動かないときの対処. . . . . .P. 519

③ **メーター. . . . . .P. 76**
見方 . . . . .P. 76
明るさの調整 . . . . .P. 77
警告灯／表示灯. . . . . .P. 72
警告灯点灯時の対処 . . . . .P. 482

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . .P. 80**
表示内容. . . . . .P. 80
警告メッセージ表示時の対処. . . . . .P. 487

⑤ **方向指示レバー** . . . . **P. 224**

ランプスイッチ . . . . **P. 232**

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯 . . . . P. 232

フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ . . . . P. 240

⑥ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ** . . . . **P. 242, 246**

使い方 . . . . P. 242, 246

ウォッシャー液の補充 . . . . P. 438

ワイパーゴムの交換 . . . . P. 449

⑦ **非常点滅灯スイッチ** . . . . **P. 471**

⑧ **ボンネット解除レバー** . . . . **P. 433**

⑨ **給油扉オープナー** . . . . **P. 251**

⑩ **ハンドル位置調整レバー** . . . . **P. 185**

⑪ **フロントエアコン** . . . . **P. 374**

操作方法 . . . . P. 374

リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）. . . P. 377

⑫ **ナビゲーションシステム★※**

⑬ **パーキングブレーキ** . . . . **P. 225**

かける・解除する . . . . P. 225

冬季の注意 . . . . P. 369

警告ブザー・警告メッセージ . . . . P. 227, 487

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

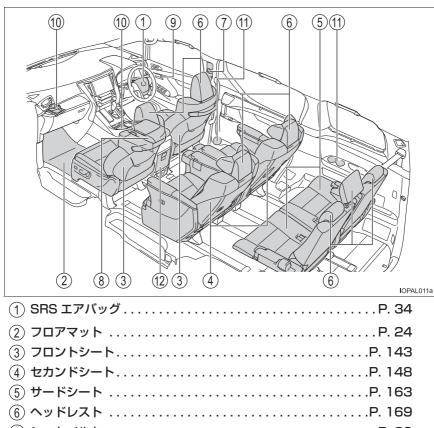
■ スイッチ類

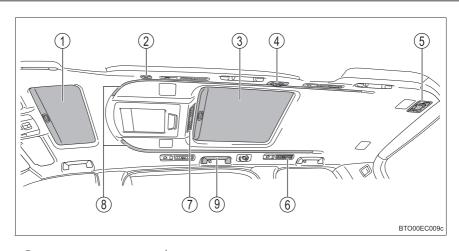
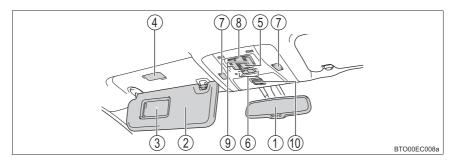
① ドライビングポジションメモリースイッチ★ ....P. 164
② ドアミラースイッチ ....P. 189
③ ウインドウロックスイッチ ....P. 194
④ ドアロックスイッチ ....P. 103
⑤ パワーウインドウスイッチ ....P. 194
⑥ オートマチックハイビームスイッチ★ ....P. 235
⑦ パワースライドドアメインスイッチ／
パワーバックドアメインスイッチ★................P. 111, 127
⑧ ステアリングヒータースイッチ★......................P. 389

① 時刻調整スイッチ . . . . .P. 409
② ブレーキホールドスイッチ . . . . .P. 229
③ Stop & Start キャンセルスイッチ★ . . . . .P. 255
④ VSC OFF スイッチ . . . . .P. 357
⑤ ECO MODE スイッチ . . . . .P. 219
⑥ メーター照度調整スイッチ . . . . .P. 77
⑦ オドメータートリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットスイッチ. . . . . .P. 77
⑧ ウインドシールドデアイサースイッチ★. . . . . .P. 377
⑨ IPA スイッチ★ . . . . .P. 306
⑩ 運転席側セカンドシートニュートラルポジションスイッチ★ . .P. 156
⑪ 助手席側セカンドシートニュートラルポジションスイッチ★ . .P. 156
⑫ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）スイッチ★ . . . . .P. 363

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

① **オーディオ操作スイッチ** . . . . **P. 424**
② **メーター操作スイッチ** . . . . **P. 82**
③ **車間距離切りかえスイッチ★** . . . . **P. 267**
④ **クルーズコントロールスイッチ**
クルーズコントロール★ . . . . **P. 263**
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★ . . . . . . **P. 267**
⑤ **パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）メインスイッチ★※**
⑥ **トークスイッチ★※**
⑦ **電話スイッチ★※**

■ 室内

① SRS エアバッグ . . . . .P. 34
② フロアマット . . . . .P. 24
③ フロントシート. . . . . .P. 143
④ セカンドシート. . . . . .P. 148
⑤ サードシート . . . . .P. 163
⑥ ヘッドレスト . . . . .P. 169
⑦ シートベルト . . . . .P. 28
⑧ コンソールボックス . . . . .P. 397
⑨ ロックレバー . . . . .P. 103
⑩ カップホルダー. . . . . .P. 399
⑪ ボトルホルダー. . . . . .P. 400
⑫ コンソールボックス後部小物入れ★ . . . . .P. 402

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

① フロントムーンルーフ★ ....P. 198
② 後席「ナノイー」吹き出し口★ ....P. 381
③ リヤムーンルーフ★..............................P. 198
④ 読書灯★ ....P. 394
⑤ 分離格納式シートベルト ....P. 29
⑥ リヤエアコン吹き出し口 ....P. 386
⑦ リヤエアコン ....P. 385
⑧ ルーフカラーイルミネーション ....P. 394
⑨ アシストグリップ ....P. 422

① インナーミラー……P. 187
② サンバイザー※1……P. 409
③ バニティミラー……P. 409
④ バニティランプ……P. 409
⑤ リヤムーンルーフスイッチ★……P. 198
⑥ 室内灯メインスイッチ……P. 392
⑦ マップランプ……P. 393
⑧ パワーバックドア開閉スイッチ★……P. 125
⑨ パワースライドドア開閉スイッチ★……P. 110
⑩ ヘルプネットスイッチパネル★※2

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※1：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 49)

※2：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に..............................24
安全なドライブのために 26
シートベルト..............................28
SRS エアバッグ........................34
お子さまの安全のために 42
チャイルドシート......................43
排気ガスに対する注意 66

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー
システム...................................67
オートアラーム..........................68

運転する前に

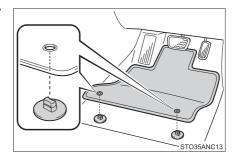
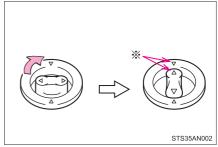
点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する
※ △マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

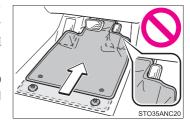
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

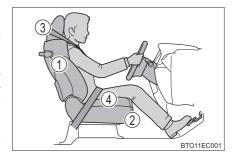
- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 143）

② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 143）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 169）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 43）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 187, 189）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

BTO11EC002

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

BTO11CE003

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

シートベルトの高さ調整（運転席／助手席★）

BTO11EC004

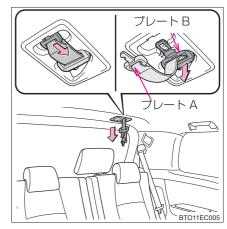
① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

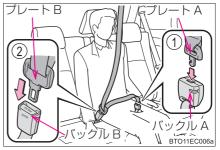
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

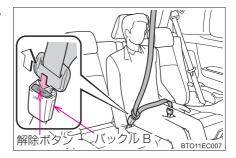
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

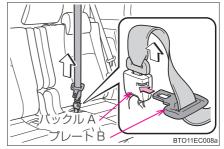
着け方（サードシート中央席）

1 プレートを取り出す

2 ベルトを固定するには、プレートA、プレートBの順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

① プレートA、バックルA

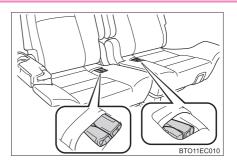
② プレートB、バックルB

はずし方・格納の仕方（サードシート中央席）

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する

2 メカニカルキー、またはプレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

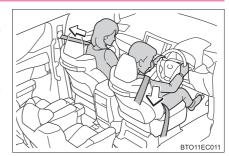
確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

4 バックルを格納する

BTO11EC010

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方、側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方、側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

BTO11EC011

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 43）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■シートベルトプリテンショナーについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠警告

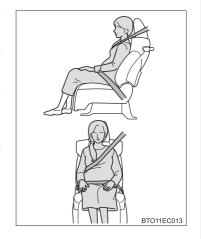
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 28）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付きシートベルトについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

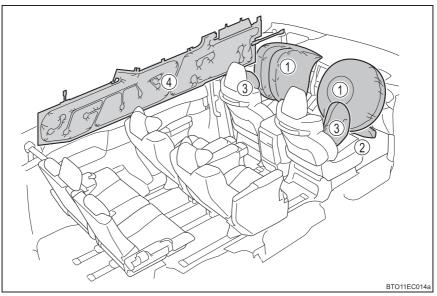
●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② 運転席 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→P. 43）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

BTO11EC015

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

BTO11EC016

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

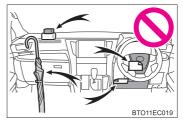
BTO11EC017

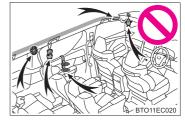
⚠警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

●助手席スーパーロングスライド設定車：助手席をエクストラスライドエリアまでスライドさせたときでも、助手席の前には何も置かない

●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く →P. 509）

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転席SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
  SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●T-connect をご利用のお客様は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

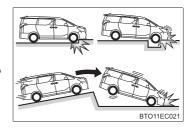
●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

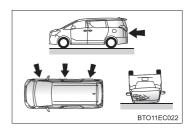
●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

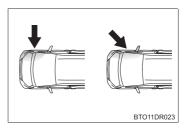
●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

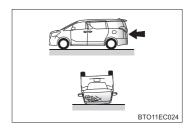
●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

BTO11DR023

SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●後方からの衝突

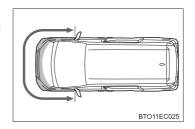
●横転

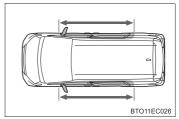
BTO11EC024

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

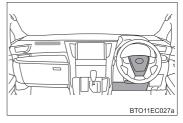
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

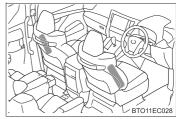
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

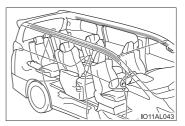
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO11EC025

●SRSサイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO11EC026

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO11EC027a

●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO11EC028

●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

IO11AL043

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 43)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 111）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 194）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 43 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと 43
チャイルドシートについて. 45
チャイルドシートを助手席で使用するときは 48
チャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートで
使用するときは 50
チャイルドシートの取り付け方法
・シートベルトで固定する 51
・ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する 58
・トップテザーアンカーを使用する. 64

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 車の取り付けに合った、ECE R44 ※に適合するチャイルドシートを使用してください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合ったチャイルドシートを使用してください。

※ ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ●トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりセカンドシートまたはサードシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- ●お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- ●チャイルドシートにはお子さまを１人だけ乗せて、チャイルドシートのベルトで体を固定してください。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- ●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P. 51, 58）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ●チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- ●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

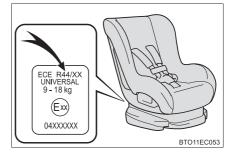
お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認の上、車に取り付けてください。

■ チャイルドシートの規格

ECE R44 ※[1] に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

ECE R44 認可マーク※[2]

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

※1 ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて

この質量グループは、「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」を確認する際に必要となります。「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」と合わせて確認してください。(→P. 52, 60)

ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0+	13kg まで	1 歳半頃まで
グループⅠ	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループⅡ	15 ～ 25kg	3 歳頃～7歳頃まで
グループⅢ	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 51
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 58
テザーベルトを固定する		P. 64

チャイルドシートを助手席で使用するときは

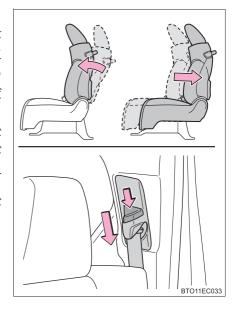
■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

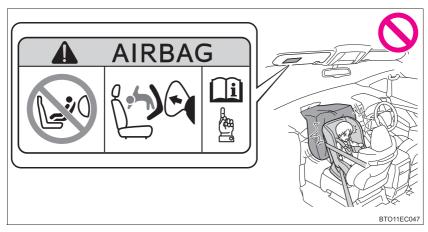
- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げるか、エクストラスライドエリア★（→ P. 181）に下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる★
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、次のことを必ずお守りください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

BTO11EC047

- 助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合には、シートをいちばんうしろに下げるか、エクストラスライドエリア★に下げて取り付けてください。
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

BTO11EC046

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

チャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートで使用するときは

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 52）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認してください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→P. 46）

(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→ P. 52）

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	—
0+ （13kg まで）	×	—
Ⅰ （9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	—
	前向き UF ※ 1	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	UF ※ 1	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ セカンドシート（7 人乗り車）

質量グループ	右席	左席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ セカンドシート（8 人乗り車）

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	U ※ 2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	U ※ 2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	×	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ サードシート

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	×	“トヨタ純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立位置にし、フロントシートをいちばんうしろまで下げてください。
シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 背もたれを直立位置にしてください。

※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 背もたれを調整する

▶ 7人乗りマニュアルシート装着車／8人乗り車

いったん背もたれを前に倒してから、1段目の固定位置まで起こします。

▶ 7人乗りパワーシート装着車

背もたれをいちばん前にします。

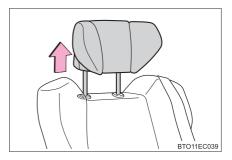
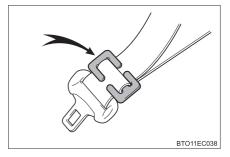
2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。(→ P. 169)

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

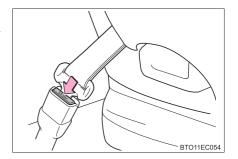
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番:73119-22010)

5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

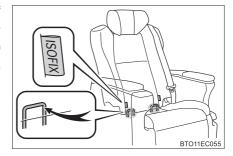
⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）

■ ISOFIX 対応チャイルドシートについて

ECE R44 ※に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
（→ P. 45）

※ ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→P. 60）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ･サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ ECE R44 チャイルドシートのサイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

サイズ等級	固定具	形状・大きさ	使用の向き	お子さまの大きさ
A	ISO/F3	全高	前向き	幼児
B	ISO/F2	低型	前向き	幼児
B1	ISO/F2X	低型	前向き	幼児
C	ISO/R3	大型	うしろ向き	幼児
D	ISO/R2	小型	うしろ向き	幼児
E	ISO/R1	—	うしろ向き	乳児
F	ISO/L1	キャリコット※	左向き	乳児
G	ISO/L2	キャリコット※	右向き	乳児

※ キャリコットはお子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることのできる乳児用シートのことです。詳しくはチャイルドシート製造業者または販売業者におたずねください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する
(→ P. 46)

(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。
(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 サイズ等級を確認する

手順 1 で確認した「質量グループ」と「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。
(→ P. 60) ※

(例 1)：質量グループが「0 +」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2)：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 60) で指定されている製品を使用してください。

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表 (ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート])

▶ セカンドシート

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置		推奨チャイルドシート
			右席	左席	
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	—
	G	ISO/L2	×	×	—
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	D	ISO/R2	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	C	ISO/R3	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
I (9 ～ 18kg)	D	ISO/R2	IL	IL	—
	C	ISO/R3	IL	IL	—
	B	ISO/F2	IUF ※	IUF ※	—
			IL ※	IL ※	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	ISO/F2X	IUF ※	IUF ※	—
			IL ※	IL ※	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	A	ISO/F3	IUF ※	IUF ※	—
			IL ※	IL ※	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”

表に記入する記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL：ISOFIX チャイルドシートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×：ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

● 背もたれをうしろに倒してからチャイルドシートを取り付けたあと、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、チャイルドシートと背もたれがよい接触位置になるまで背もたれを調整してください。

● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

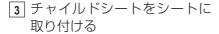
1 背もたれを調整する

チャイルドシートが取り付けられる角度まで倒します。

・マニュアルシートは背もたれが固定されていることを確認してください。

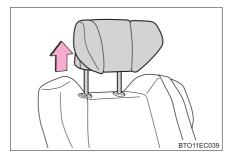
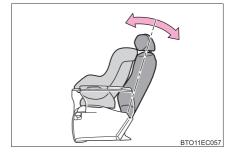
2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P. 169)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

4 背もたれを調整する

背もたれをうしろに倒してからチャイルドシートを取り付けたあと、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、チャイルドシートと背もたれがよい接触位置になるまで背もたれを調整してください。

・マニュアルシートは背もたれが固定されていることを確認してください。

5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

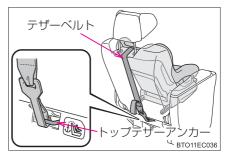
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
  チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
  その場合は、他の席を使用してください。
  お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

トップテザーアンカーを使用する

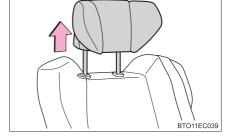
■ トップテザーアンカーについて

この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

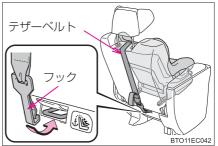
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P. 169)

2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム

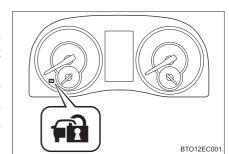
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。

BTO12EC001

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接しているとき

●キーが金属製のものに覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム★

オートアラームとは

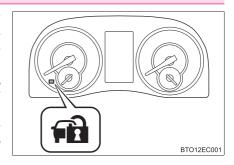
オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン･メカニカルキーを使わずに解錠、または開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ T-Connect をご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／サービスの使い方／マイカー Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア、バックドア、ボンネットを閉めスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとメーター内のセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたは、バックドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

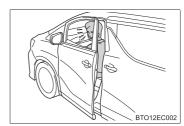
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

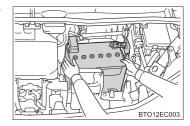
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア、バックドア、ボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき

BTO12EC002

- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき(→ P. 523)

BTO12EC003

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のようなときに自動的にドアが施錠します。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動した
- アラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠した

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧:→ P. 549)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**オートアラームを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

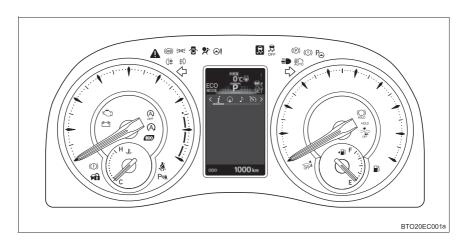
メーターの見方

2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯 72
計器類 76
マルチインフォメーション
ディスプレイ 80
燃費画面／ ESPO 画面 91

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※ 1
（赤色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 482）

燃料残量警告灯
（→ P. 483）

※ 1
（黄色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 482）

※ 2
油圧警告灯
（→ P. 483）

※ 1
エンジン警告灯
（→ P. 482）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 483）

※ 1
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯
（→ P. 482）

※ 1
マスターウォーニング
（→ P. 483）

※ 1
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 482）

※ 1
充電警告灯
（→ P. 483）

※ 1
（赤色 / 黄色）
パワーステアリング警告灯
（→ P. 482）

※ 1
HOLD
（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 484）

※ 1
（点滅）
PCS 警告灯★
（→ P. 483）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→ P. 484）

半ドア警告灯
（→ P. 483）

※ 1
（点滅）
ICS OFF 表示灯★
（→ P. 484）

※ 1
スリップ表示灯
（→ P. 484）

※ 2
高水温警告灯
（→ P. 484）

※ 1
（点滅）
Stop & Start キャンセル表示灯★（→ P. 484）

※ 2
ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／インテリジェントクリアランスソナー★警告灯
（→ P. 484）

※ 1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
(→ P. 224)

尾灯表示灯(→ P. 232)

ハイビーム表示灯
(→ P. 232, 235)

※ 1
オートマチックハイビーム表示灯★(→ P. 235)

フロントフォグランプ表示灯(→ P. 240)

リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 240)

※ 1
Stop & Start 表示灯★
(→ P. 252)

※ 2
エコドライブモード表示灯
(→ P. 219)

※ 2
レーダークルーズコントロール(全車速追従機能付)表示灯★(→ P. 267)

※ 1、3
Stop & Start キャンセル表示灯★(→ P. 255)

※ 1
インテリジェントパーキングアシスト2表示灯★(→ P. 308)

クリアランスソナー表示灯
(→ P. 280)

※ 1、3
ICS OFF 表示灯★
(→ P. 294)

※ 1
(点滅)
スリップ表示灯
(→ P. 357)

※ 1、3
VSC OFF 表示灯
(→ P. 358)

※ 1、3
PCS 警告灯★
(→ P. 363)

※ 1
エコドライブインジケーターランプ(→ P. 88)

※ 2
クルーズコントロール表示灯★(→ P. 263, 267)

※ 2
クルーズコントロールセット表示灯★
(→ P. 263, 267)

セキュリティ表示灯
(→ P. 67, 68)

※ 2、4
低温表示灯(→ P. 76)

※ 1
ブレーキホールド作動表示灯(→ P. 229)

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※2 スマートエントリー&スタートシステム表示灯（→ P. 212）

パーキングブレーキ表示灯（→ P. 225）

※1 ブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 229）

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます

※3 システムが OFF のときに点灯します。

※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

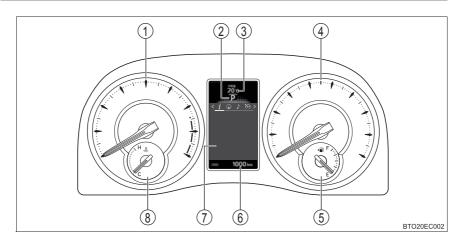
ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッションONモードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類

① タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します

② シフトポジション・シフト変速表示

選択されているシフトポジションまたはシフト変速を表示します。
(→ P. 219, 220)

③ 外気温

外気温を -40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。外気温が約３℃以下になると、低温表示灯（→ P. 74）が点灯し、５℃以上になると消灯します。

④ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。

⑥ オドメーター／トリップメーター／アイドリングストップ時間割り込み表示★

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

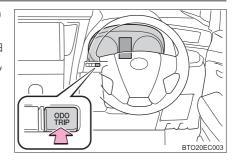
アイドリングストップ時間割り込み表示★：
現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ
- 走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 80）
- システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。（→ P. 487）

⑧ 水温計

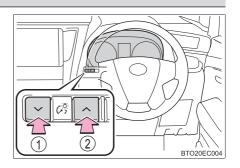
エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。

メーター照度調整スイッチ

メーターの明るさを調整できます。

① 暗くする

② 明るくする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■シフトポジション・シフト変速表示の背景色について

エコドライブモードを選択（→ P. 219）するとシフトポジション・シフト変速表示の背景色が青色になります。

■メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

■外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
  - ・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
  - ・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
  - ・“--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えばシフト変速表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフト変速の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったとき、またはマルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 529）

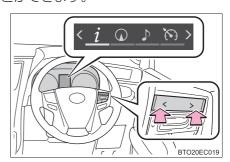
マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、車両に関するさまざまな情報を表示したり、設定したりすることができます。

● メニューアイコン

アイコンを選択して各項目を表示させます。(→ P. 82)

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。

ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 83)

ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して、方位計などを表示します。
また、ナビゲーションシステムで目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向きの切りかえなどについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

オーディオシステム連携表示★

選択されているオーディオソースの情報が表示されます。

・オーディオソースを切りかえるには、メーター操作スイッチ(→ P. 82)の を押してオーディオソース選択画面を表示し、 を上下に操作してご希望のオーディオソースを選択して を押す
・オーディオソースの変更を中止する場合は、オーディオソース選択画面でメーター操作スイッチの を押します。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クルーズコントロール表示★／レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）表示★

クルーズコントロール／レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）使用時に表示されます。（→ P. 263, 267）

アイコン表示は機能により切りかわります。

Stop & Start システム情報★

Stop & Start システムの作動状態を表示できます。（→ P. 259）

後席状態表示

後席に関する情報の表示、設定の変更ができます。（→ P. 84）

・ リヤエアコンの作動状態、後席パワーウインドウおよび、リヤムーンルーフ★の開閉状態を確認できます。
・ 後席の照明類の設定を変更できます。

警告メッセージ

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 487）

・ 警告メッセージがないときは、「メッセージなし」と表示されます。
・ 複数の警告メッセージがあるときは、メーター操作スイッチ（→ P. 82）の を上下に操作して警告メッセージを切りかえることができます。
・ 警告メッセージがあるときは が黄色になります。

設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。（→ P. 86）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

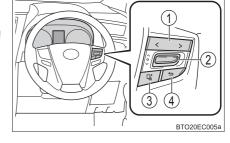
メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

① メニューの切りかえ

② 上下に操作：
画面の切りかえ・カーソルの移動

押す：
決定・次画面へ移動※・機能の ON ／ OFF
※ 一部の機能のみ

③ トップ画面に移動

スイッチを短く押すと に登録した画面が表示されます。

- 工場出荷時ではドライブインフォメーション画面が登録されています。
- トップ画面を変更するときは、登録したい画面を表示中に を長押しし、表示内容に従ってメーター操作スイッチの を上下に操作して「はい」を選択し、 を押します。
- 登録できない画面を選択しようとした場合、「この画面は に登録できません」と表示されます。
- 設定画面の スイッチ設定案内（→ P. 87）から スイッチの登録方法などを確認できます。

④ ひとつ前の画面にもどる

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの [スイッチ] を上下に操作することで項目を選択できます。

■ ドライブインフォメーション

下記の項目の中から、ドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 にそれぞれ 2 項目ずつ登録した画面を表示できます。
登録は設定画面から行えます。（→ P. 87）

項目		表示内容
瞬間燃費	バー表示	現在の瞬間燃費をバーグラフで表示
平均燃費※1	リセット間※2	リセット後の平均燃費を表示
	始動後	エンジン始動後の平均燃費を表示
	給油後	給油後の平均燃費を表示
平均車速	リセット間※2	リセット後の平均車速を表示
	始動後	エンジン始動後の平均車速を表示
走行時間	リセット間※2	リセット後の経過時間を表示
	始動後	エンジン始動後の経過時間を表示
距離	航続可能距離※3、4、5	燃料残量による走行可能な距離を表示
	始動後	エンジン始動後の走行距離を表示
その他	ブランク	表示なし

※1 表示される平均燃費は参考として利用してください。

※2 リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの [スイッチ] を長押しします。
画面に表示されている項目が 2 つともリセット可能な場合は、リセットする項目を選択する画面が表示されます。

※3 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。

※4 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

※5「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。
この場合は、すみやかに給油してください。

■ **エコドライブインジケーターゾーン表示**

→ P. 88

■ **4WD 作動状態表示★**

→ P. 89

■ **デジタルスピードメーター**

車両の走行速度を示します。

■ **非表示**

ドライブインフォメーションの表示をなしにします。

後席状態表示

後席に関する情報を表示したり、設定を変更することができます。

■ **後席エアコン状態**

リヤエアコンに関する次の情報が表示されます。

- 現在の吹き出し口のモード
- 設定温度
- AUTO 作動の有無
- 風量

リヤエアコンの操作については P. 385 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 後席窓開状態

後席パワーウインドウ・リヤムーンルーフ★が開いているときにメッセージが表示されます。

■ 天井照明設定

後席の照明類の設定を変更できます。

1 メーター操作スイッチの を上下に操作して変更したい項目を選択し、 を押す

2 表示内容に従って を上下に操作し、設定内容を選択して を押す

項目	設定内容	設定結果
照度調整	消灯	ルーフカラーイルミネーションを消灯する
	100%	選択した照度でルーフカラーイルミネーションを点灯する※
	75%	
	50%	
	25%	
照明色切替	全 16 色	選択した色でルーフカラーイルミネーションを点灯する※
パーソナルランプ★	消灯	・全てのパーソナルランプを消灯する ・ラウンジモードを解除する
	ラウンジモード（→ P. 393）	リヤパーソナルランプをラウンジモードに切りかえる

リヤパーソナルランプスイッチ（→ P. 393）、ルーフカラーイルミネーションスイッチ（→ P. 394）からでも操作できます。

※ ルーフカラーイルミネーションが消灯しているときに、照度調整または照明色切替の設定を行うと、ルーフカラーイルミネーションが決定した照度または色で点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定

各装備の機能の ON ／ OFF や設定変更などができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの を上下に操作して設定変更したい項目を選択し、 を押す

一部の装備で機能の ON ／ OFF を選択する項目では、 を押すたびに ON ／ OFF が切りかわります。

2 表示内容に従って を上下に操作し、設定内容を選択して を押す

項目	設定内容	設定結果
P	ON	クリアランスソナーを ON ／ OFF できます。(→ P. 280)
	OFF	
★	ON	インテリジェントクリアランスソナーを ON ／ OFF できます。(→ P. 294)
	OFF	
nanoe★	ON	「ナノイー」を ON ／ OFF できます。(→ P. 377)
	OFF	
A★	NORMAL	エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間を切りかえできます。(→ P. 258)
	LONG	
ECO	ON	エコドライブインジケーター (→ P. 88) を ON ／ OFF できます。
	OFF	
P リバース連動★	ON	シフトレバーを R にした時のインテリジェントパーキングアシスト2連動機能を ON ／ OFF できます。(→ P. 328)
	OFF	
ブザー音色	ブザー A	パワースライドドア作動開始／作動中のブザーの音色が変更ができます。(→ P. 113)
	ブザー B	
	ブザー C	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	設定結果
ブザー音量	ＯＦＦ	パワースライドドア作動開始／作動中のブザーの音量が変更ができます。（→ P. 113）
	小	
	大	
待ち時間★	0.5 秒	ウェルカムパワースライドドアの機能によるスライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間が変更できます。（→ P. 117）
	1.5 秒	
	2.5 秒	
言語	日本語	マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。
	English	
単位	km/L	マルチインフォメーションディスプレイ内の燃費表示の単位を選択することができます。
	L/100km	
スイッチ設定		トップ画面を変更する方法を表示します。
ドライブインフォ 1		ドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 にそれぞれ 2 項目ずつお好みの画面を登録できます。
ドライブインフォ 2		
割込表示	交差点案内★	選択した機能の割り込み表示（→ P. 89）を ON ／ OFF できます。
	電話着信★	
	作動時間★	
	状態通知★	
	照度調整	
カラー	全 4 色	マルチインフォメーションディスプレイ内のカーソル色を選択することができます。 また、カラーを変更すると、ナビゲーション画面★のテーマカラーも連動して変更されます。
表示設定初期化	はい	メーターの表示設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。
	いいえ	

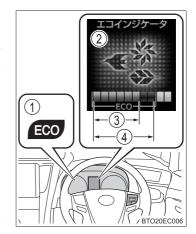
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターランプ※1
環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示※2
エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

※1 エコドライブインジケーターランプの作動／非作動を設定できます。(→ P. 86)

※2 トヨタ販売店でエコドライブインジケーターゾーン表示の作動／非作動を設定できます。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

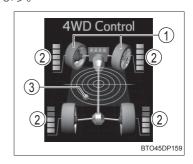
バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションの一部のデータ（メーター操作でリセット可能な項目）がリセットされます。

■4WD 作動状態表示（4WD 車）

4WD システム作動による走行状況を表示します。

① 操舵表示
操舵量・操舵方向をタイヤの切れ角で表示します。

② 駆動力表示
各輪にかかる駆動力を目もりの数で表示します。

③ G 表示
車両にかかる G の大きさをボールの位置で表示します。

■設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状態になると操作が一時中断されます。

●警告メッセージが表示されたとき

●走行し始めたとき

■割り込み表示について

次の機能の作動状況に応じてマルチインフォメーションディスプレイには、一時的に割り込み画面が表示されます。

●交差点案内★

●電話着信★

●Stop & Start システム作動時間★

●Stop & Start システム状態通知★

●メーター照度調整

割り込み表示の ON ／ OFF を設定できます。（→ P. 87）

■液晶ディスプレイについて

→ P. 78

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の警告**

メーター操作スイッチを使うときは、安全のため走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面★／ESPO 画面★

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

表示のしかた

1 画面外の「情報・TC」スイッチにタッチ、「情報」画面を表示させる

「オンライン」または、「Apps」画面が表示されたときは、「情報」を選択してください。

2 燃費画面：「燃費」を選択する
ESPO 画面：「 ESPO 」を選択する

燃費画面の見方

■ 毎分燃費の見方

区間燃費が表示されたときは、「毎分燃費」を選択する

① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
② 履歴消去
③ エンジン始動後平均車速
④ エンジン始動後走行時間
⑤ 航続可能距離（→ P. 83）

BTO20DP008

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費が表示されたときは、「区間燃費」を選択する

① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方

① ステータス／エコ運転スコア表示※

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにエコ運転スコアやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルメーター

エコ運転のレベルを表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

④ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good · Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑤ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

⑧ エコカルテスイッチ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

- ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認および、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
- エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作

3

3-1. キー

キー......96

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア......101

スライドドア......107

バックドア......125

スマートエントリー＆スタートシステム......136

3-3. シートの調整

フロントシート......143

セカンドシート......148

サードシート......161

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー（フロントシート）／メモリーコール機能......163

セカンドシートポジションメモリー......167

ヘッドレスト......169

シートアレンジ......172

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル......185

インナーミラー......187

ドアミラー......189

補助確認装置......193

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ......194

ツインムーンルーフ......198

キー

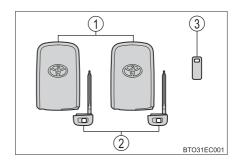
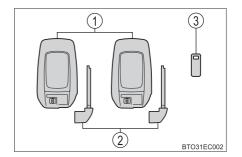
キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

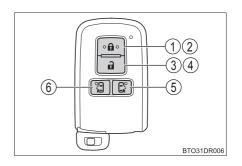
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 136）
- ワイヤレス機能の作動

② メカニカルキー

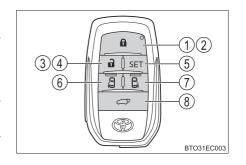
③ キーナンバープレート

▶ タイプ A

▶ タイプ B

ワイヤレスリモコン

▶ タイプ A

① ドアの施錠（→ P. 101）
② ドアガラスとリヤムーンルーフ★を閉める※（→ P. 101）
③ ドアの解錠（→P. 101）
④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★を開く※（→ P. 101）
⑤ 運転席側パワースライドドア★を開閉する（→ P. 108）
⑥ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 108）

※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 550）

▶ タイプ B

① ドアの施錠（→ P. 101）
② ドアガラスとリヤムーンルーフ★を閉める※（→ P. 101）
③ ドアの解錠（→ P. 101）
④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★を開く※（→ P. 101）
⑤ ウェルカムパワースライドドアを予約する（→ P. 112）
⑥ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 108）
⑦ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 108）
⑧ パワーバックドアを開閉する（→ P. 126）

※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 550）

メカニカルキーを使うには

▶ タイプ A

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

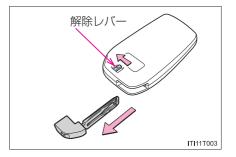
メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 520）

▶ タイプ B

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 520）

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
  - · スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
  - · 作動範囲が狭くなった
  - · 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。
  - · TV
  - · パソコン
  - · 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
  - · 電気スタンド
  - · 電磁調理器

■電子キーの状態や、エンジンスイッチのモードに関するメッセージが表示されたときは

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやエンジンスイッチなどの状態の確認を促すメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたときは

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。（→ P. 452）

■電池の交換方法

→ P. 452

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けない

■キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
  分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

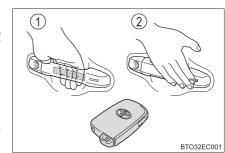
① ハンドルを使って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

BTO32EC001

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとリヤムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

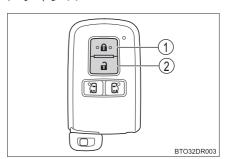
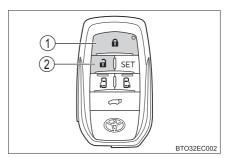
押し続けるとドアガラスとリヤムーンルーフ★が開きます。※

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 550）

▶ タイプ A

BTO32DR003

▶ タイプ B

BTO32EC002

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス：ブザーで知らせます。

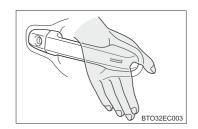
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないときは

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。

BTO32EC003

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラーム★の設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 68）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 520）

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 452）

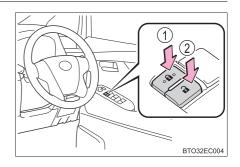
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

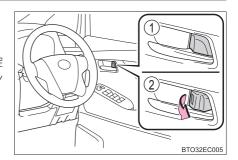
BTO32EC004

◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

BTO32EC005

キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

1. ロックレバーを施錠側にする
2. ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

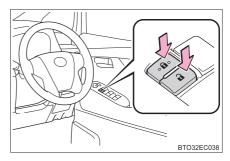
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの画面からでも、設定の変更が行えます。（→ P. 544, 545）

1 すべてのドアを閉め、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に 2 を行う）

2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック	P	🔒
シフト操作連動アンロック		🔓
車速感応オートドアロック	N	🔒
運転席ドア開連動アンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P. 520)

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア、またはボンネット★が確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。
開いているドア、またはボンネット★がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P. 139

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 101

◆ ワイヤレスリモコン

→P. 101

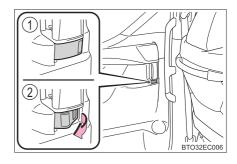
車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

→P. 103

◆ ロックレバー

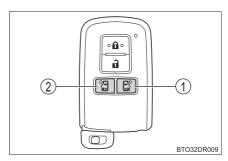
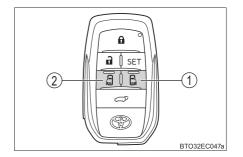
① 施錠

② 解錠

車外からスライドドアを開閉する

◆ ワイヤレスリモコン

① 運転席側パワースライドドア★を開閉する（長押し）

② 助手席側パワースライドドアを開閉する（長押し）

▶ タイプ A

▶ タイプ B

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ スライドドアハンドル

① スイッチを押して開閉する（パワースライドドア）

・ドア施錠時：電子キーを携帯し、スイッチを押すとスライドドアが開きます。

電子キーの検知エリア内（→ P. 136）でスイッチを押さないと、スライドドアは開きません。

・ドア解錠時：電子キーを携帯していなくても、スイッチを押すとスライドドアが開きます。

② ドアハンドルを引いて開閉する

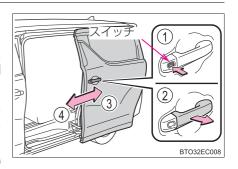
ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

▶ パワースライドドアメインスイッチ OFF 時

③ 開く

④ 閉じる

▶ パワースライドドアメインスイッチ ON 時

ドアハンドルを引くとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。
また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを引くと自動開閉作動が停止します。

車内からスライドドアを開閉する

◆ インサイドドアハンドル

▶ パワースライドドアメインスイッチ OFF 時

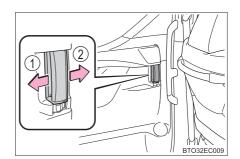
① 開く

② 閉じる

▶ パワースライドドアメインスイッチ ON 時

① 開く

② 閉じる

ドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。
また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。

◆ パワースライドドアスイッチ

① 開ける（助手席側）

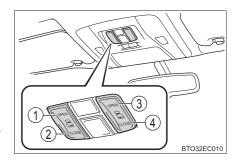
② 閉める（助手席側）

③ 開ける（運転席側）★

④ 閉める（運転席側）★

スイッチを長押しして開閉します

開閉作動中に再度スイッチを押すと、停止します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

パワースライドドアメインスイッチは、パワーバックドアメインスイッチ（→ P. 127）と兼用のため、OFF にするとパワーバックドア★も使用できなくなります。

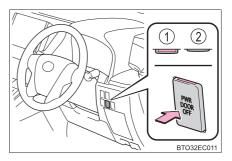
BTO32EC011

①ON※

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／スライドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドアスイッチの操作により、自動で開閉できます。

②OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。

※ ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、スライドドアが車内から開かなくなります。

BTO32EC012

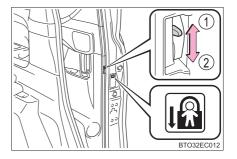
① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。

3

各部の操作

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ウェルカムパワースライドドア★

予約 (→ P. 112) が完了した電子キーを携帯して、予約した側のスライドドアのウェルカムパワースライドドアの作動範囲に入ると、すべてのドアが解錠し、そのままウェルカムパワースライドドアの作動範囲内で約 2.5 秒間※待つと予約した側のスライドドアが自動的に開作動します。

※ スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。(→ P. 86)

① 助手席パワースライドドアインジケーター

② 助手席パワースライドドアボタン

③ SET ボタン

④ 運転席パワースライドドアインジケーター

⑤ 運転席パワースライドドアボタン

■ 予約のしかた

1 電子キーの SET ボタンを長押しする

電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが点滅します。

2 インジケーターが点滅している間に、予約したい側のパワースライドドアボタンを押す

押された側のパワースライドドアボタンのインジケーターが約 3 秒間点灯し、消灯すると予約が完了します。

予約の有効時間は約 20 分間となります。予約を完了してから 20 分以上経過すると予約はキャンセルされます。

■ 予約の確認をする

電子キーの SET ボタンを長押しする

予約された側の電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが約 5 秒間点灯します。

予約確認をすると、予約の有効時間はそこから約 20 分間となります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 予約のキャンセル／変更をする

電子キーの SET ボタンを長押しして、電子キーのパワースライドドアのインジケーターが点灯している間に次の操作をします。

● 予約をキャンセルする場合：

予約されている側（点灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

● 予約を変更する場合：

予約されていない側（消灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

知識

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

ブザーの音量・音色を変更できます。（→ P. 86, 87）

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■中間ストッパー（パワースライドドアメインスイッチ OFF 時）

給油扉が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、いったんスライドドアを全閉にしてから、給油扉を閉じ再度スライドドアを開けてください。

■イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

●給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

●エンジンスイッチがイグニッションONモードのときは上記に加え、車速が3km/h以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

・シフトレバーが P のとき
・パーキングブレーキがかかっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

●パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、ハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワースライドドアメインスイッチがOFFのときは、手動でのみ開閉できます。

●給油扉が開いているときに、自動で助手席側パワースライドドアを開けようとすると作動を中止します。

●助手席側パワースライドドア開閉中に給油扉を開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します
逆方向に動く：
・アウトサイドハンドルを引くまたはスライドドアハンドルのスイッチを押す
開方向に動く：
・インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す
閉方向に動く：
・インサイドハンドルを閉方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

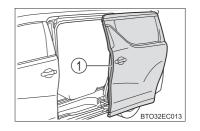
挟み込み防止機構作動後、電子キーのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、下記の操作で初期設定を行ってください。

●スライドドアのドアハンドルを操作して、手動で一度全閉にする

■挟み込み防止機構

パワースライドドアの前端部には、センサー（①）が付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは 10cm 位反転作動したあとに停止します。

■サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートが完全に上昇しきっていない状態で、スライドドアを閉めようとしても、ブザーが鳴りドアは閉まりません。

■予約ロック機能について

スライドドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。
次の操作をすると、スライドドア以外のすべてのドアが施錠され、スライドドアが閉まると同時にスライドドアも施錠されます。

1. スライドドア以外のすべてのドアを閉じる
2. スライドドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→ P. 101）または、スマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→ P. 101、125）

● 予約ロックをしてスライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。

● 予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子キーを車内にもどすと、車内に電子キーが閉じ込められることがあります。
予約ロック機能を使用するときは、必ず電子キーを携帯した状態で行ってください。

● 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■スマートオープン機能

電子キーを携帯してスライドドアハンドルのスイッチ（→ P. 109）を押すことで、すべてのドアが解錠され、スライドドアが自動で開きます。

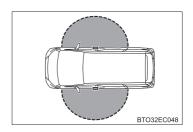
■ウェルカムパワースライドドア★の作動可能条件

すべてのドアが施錠されているときに作動可能です。
ただし、次のときはすべてのドアが施錠されていてもウェルカムパワースライドドアは作動しません。

- ●ドア施錠操作後、5 秒以内
- ●カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき（→ P. 547）
- ●電子キーが節電モードに設定されているとき（→ P. 138）
- ●車内に電子キーがある状態で施錠操作をしたとき

■ウェルカムパワースライドドア★の作動範囲

：作動範囲

フロントドアハンドルから周囲約 150cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

■ウェルカムパワースライドドア★の作動について

●ウェルカムパワースライドドアの作動範囲内に入ってからスライドドアの開作動が開始するまでの間に次のことを行うとウェルカムパワースライドドアの機能がキャンセルされ、スライドドアの開作動は行われません。

- ・電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲内から離れた
- ・ドアを施錠した
- ・ワイヤレスリモコンを操作した
- ・エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにした

●ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの自動開作動中に次のことを行うと、スライドドアの開作動は停止します

- ・電子キーの SET ボタンまたは、パワースライドドアボタンを押した
- ・パワースライドドアの停止操作を行った
- ・挟み込み防止機能が作動した

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ウェルカムパワースライドドア★が正常に働かないおそれのある状況

●複数の電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲内にある

●スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 139）

●隣接する車両でウェルカムパワースライドドアが作動している

■電子キーの電池の消耗について（ウェルカムパワースライドドア★使用時）

通常のスマートエントリー＆スタートシステム機能と比べて電子キーの電池を多く消耗します。
ウェルカムパワースライドドアの使用頻度が多いほど、電子キーの消耗は早くなります。

■ウェルカムパワースライドドア★使用時の電子キーについて

●予約は 1 つの電子キーで行ってください。複数の電子キーに予約した場合、先に検知されたほうの電子キーの予約内容でウェルカムパワースライドドアが作動します。

●電子キーの電池が切れたり、電子キーの電池を交換すると予約はキャンセルされます。再度予約を行ってください。

■ウェルカムパワースライドドア★のスライドドア開作動開始までの待ち時間の変更について

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から、スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。（→ P. 86）

■自動洗車機を使うとき

→ P. 426

■カスタマイズ機能

スライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 546）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●すべてのドアを確実に閉める
- ●すべてのドアを施錠する
- ●お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- ●シートベルトを必ず着用する
- ●走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- ●お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。（パワースライドドア：パワースライドドアメインスイッチを OFF にする。もしくは、スライドドアのドアロックを施錠することでパワースライドドアは作動しません）
- ●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→P. 111）を使用して車内からドアが開かないようにする

■スライドドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- ●スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- ●人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

警告

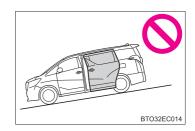
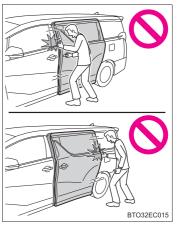
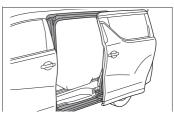
■スライドドアの操作にあたって

●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります

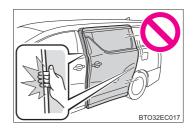
●スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。

●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。

⚠警告

■イージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。(→P. 113)

●イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチがOFFであっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

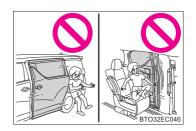
●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。

●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

■パワースライドドアについて

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。

●自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

警告

■**パワースライドドアについて**

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

●タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■**挟み込み防止機能（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

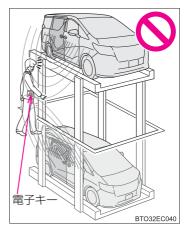
●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠警告

■ウェルカムパワースライドドア★について

ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントドアハンドルから約2m以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近付いてください。
周囲に人がいるときは、車両に近付く前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムパワースライドドアを作動させないでください。

● 機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近づいてください。
車両が電子キーよりも上または、下にある状態でも電子キーが検知されればウェルカムパワースライドドアが作動し、スライドドアが自動的に開作動します。

● 電子キーが検知されてからスライドドアの開作動が開始するまでの間は、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、または電子キーの SET ボタンを押せる状態でお待ちください。

● スライドドア開作動までの待ち時間の変更（→ P. 117）で待ち時間を短めに設定したときは、電子キーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

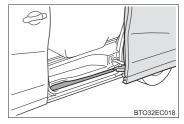
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■スライドドアについて

●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→ P. 400）に収納しないでください。

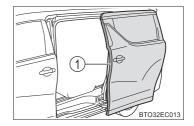
●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。

●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

■イージークローザーについて

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサー（①）を刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。

バックドア

車外からの解錠／施錠

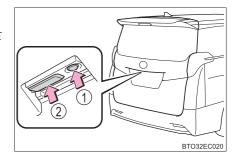
◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。

① 施錠

必ず施錠されたことを確認してください。

② 解錠

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 101

車内からの解錠／施錠

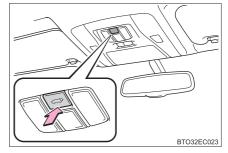
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 103

車内からバックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

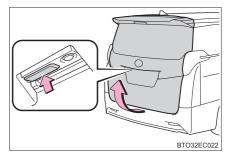
スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

車外からバックドアを開閉するには

◆ バックドアオープンスイッチで開ける

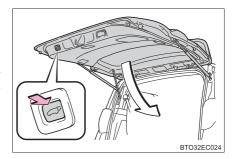
スイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

BTO32EC022

◆ パワーバックドアスイッチで閉じる（パワーバックドア装着車）

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び自動で開きます。

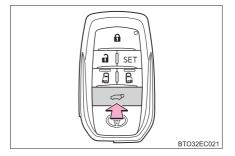
BTO32EC024

◆ ワイヤレスリモコンでのバックドアの開閉（パワーバックドア装着車）

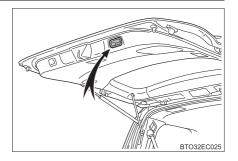
スイッチを押し続ける※

バックドア解錠時に作動させることができます。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 547）

BTO32EC021

バックドアを閉めるときは

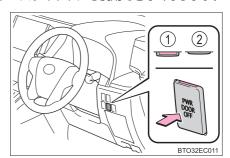
バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

パワーバックドアを使用するときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチを ON にする

パワーバックドアメインスイッチは、パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 111）と兼用のため、OFF にするとパワースライドドアも使用できなくなります。

① ON

ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。

② OFF

知識

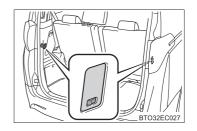
■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

- ●バックドアが解錠されている
- ●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき開作動するには、上記に加え、車速が約3km/h以下で、シフトレバーが P になっていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

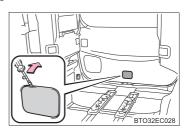
エンジンスイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。

■バックドアをいったん開けてから閉めたあとは

バックドアが自動で施錠されないため、再度バックドアを施錠してください。

■バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

2 レバーを押す

▶バックドアイージークローザー非装着車

▶ バックドアイージークローザー装着車

■バックドアイージークローザー★

バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●エンジンスイッチがどの状態であっても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。また開閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワーバックドアメインスイッチが OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、パワーバックドアの作動が停止し、手動操作に切りかわります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置からバックドアは自動的に反対方向に動き、全開位置または、全閉位置で停止します。

●パワーバックドア自動開閉中に、連続して3回以上の異常を感知するとブザーが鳴り、バックドアにブレーキをかけ、速度を抑制しながら全開位置まで開きます。

■予約ロック機能について（パワーバックドア装着車）

バックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアが閉まると同時にバックドアも施錠されます。

1. バックドア以外のすべてのドアを閉じる

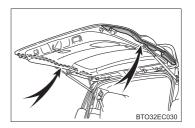
2. バックドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→ P. 101）または、スマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→ P. 101、125）

●予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。

●予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、電子キーを車内にもどすと、車内に電子キーが閉じ込められることがあります。
予約ロック機能を使用するときは、必ず電子キーを携帯した状態で行ってください。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からバックドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。

■カスタマイズ機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 546）

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

- 完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
  急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。（パワーバックドア装着車はパワーバックドアメインスイッチを OFF にすることでパワーバックドアは作動しません）

⚠警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

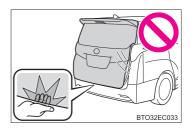
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

⚠警告

■バックドアイージークローザー★について

●バックドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

●イージークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。
バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

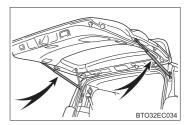
■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

注意

■バックドアイージークローザー★の故障を防ぐために

●イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、イージークローザーの故障の原因となります。

●バックドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→ P. 130）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

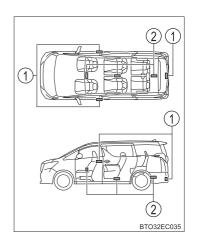
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)

- ドアを解錠・施錠する　(→ P. 101)
- スライドドアドアを開閉する　(→ P. 109)
- バックドアを解錠・施錠する　(→ P. 125)
- エンジンを始動する(→ P. 212)

知識

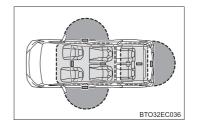
■アンテナの位置

① 車外アンテナ
② 車内アンテナ

■作動範囲(電子キーの検知エリア)

: ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

: エンジン始動時またはエンジンスイッチのモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→ P. 487)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチをOFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

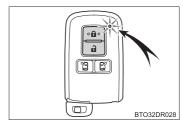
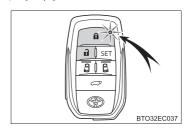
節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの　　を押しながら、　　を 2 回押し、電子キーのインジケータが４回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー & スタートシステム・ウェルカムパワースライドドア★を使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

▶ タイプ A

▶ タイプ B

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 520)

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末(PDA など)
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。

・施錠・解錠時、電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック操作しません。※

※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 547）

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 138）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→ P. 546)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・バックドアの解錠・施錠:→ P. 520

●エンジンの始動:→ P. 521

■ウェルカムパワースライドドア★の作動について

→ P. 116

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧:→ P. 547)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠:ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。(→ P. 520)

●エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ:→ P. 521

●エンジンの停止:→ P. 213

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電波がおよぼす影響について**

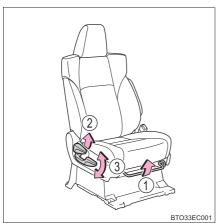
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 136）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

▶ マニュアルシート装着車

① 前後位置調整

② リクライニング調整

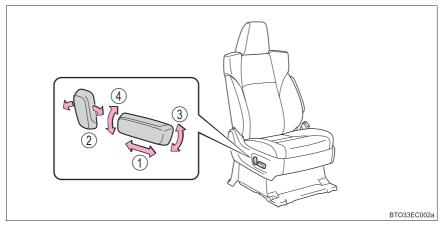
③ シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ マニュアルシート装着車（助手席）

① 前後位置調整／助手席スーパーロングスライドモード★（→ P. 181）

② リクライニング調整

③ オットマン角度調整／格納★

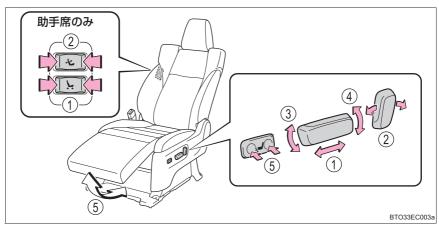
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ パワーシート装着車（タイプ A）

①前後位置調整

②リクライニング調整

③クッション前端の上下調整（運転席のみ）

④シート全体の上下調整（運転席のみ）

▶ パワーシート装着車（タイプ B）

①前後位置調整

②リクライニング調整

③クッション前端の上下調整（運転席のみ）

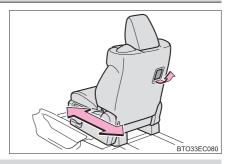
④シート全体の上下調整（運転席のみ）

⑤オットマン角度調整／格納（助手席のみ）

助手席側セカンドシートから助手席を前後に移動させるとき★

助手席の背もたれのレバーを引く

助手席を前後に移動させることができます。

BTO33EC080

アームレスト★

アームレストを一度いちばん上まであげ、その後いちばん下までさげる。
お好みの位置まであげると、アームレストが固定される。

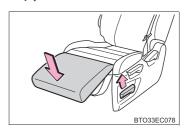
アームレストが固定されると、さげることはできなくなります。
さげたいときは一度いちばん上まであげてください。

BTO54EC011

知識

■オットマン★を格納するときは（マニュアルシート）

オットマン調整レバーを引いたままオットマンを下側に押します。

BTO33EC078

■パワーイージーアクセスシステム★

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートが動きます。（→ P. 163）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

●走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。
（マニュアルシート）

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■前後位置調整やオットマン★の操作をするときは

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■オットマン★の使用について

●走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対にのらないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■運転席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■オットマン★の故障を防ぐために

- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものをのせないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

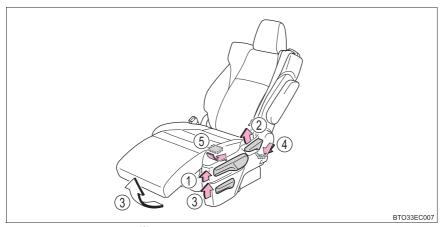
■アームレスト★の破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシート

調整のしかた

▶ 7 人乗りマニュアルシート装着車

① 前後左右位置調整※

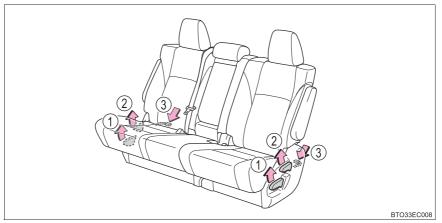
② リクライニング調整

③ オットマン角度調整／格納

④ サードシートへの乗り降り
(→ P. 152)

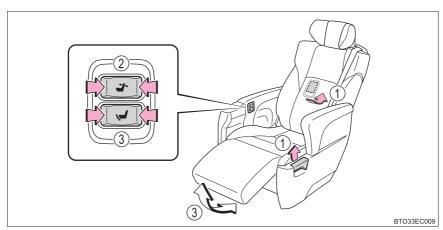
⑤ 最大積載モード
(→ P. 178)

※レバーを 1 段階上げると前後位置調整、2 段階上げると前後左右位置調整ができます。

▶ 8 人乗り車

① 前後位置調整

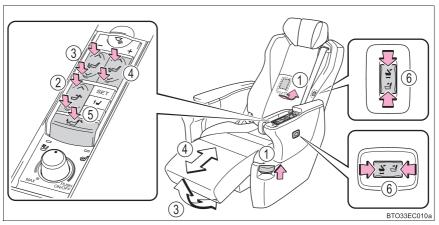
② リクライニング調整

③ サードシートへの乗り降り（→ P. 152）／チップアップ操作（→ P. 154）

▶ 7 人乗りパワーシート装着車（タイプ A）

① 前後位置調整（手動）

② リクライニング調整（電動）

③ オットマン角度調整／格納（電動）

▶ 7 人乗りパワーシート装着車（タイプ B）

① 前後位置調整（手動）

② リクライニング調整（電動）

③ オットマン角度調整（電動）

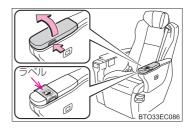
④ オットマン長さ調整（電動）

⑤ ニュートラルポジションにもどすとき（→P. 156）

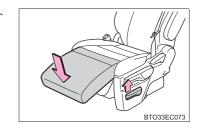
⑥ サードシートへの乗り降り（→ P. 152）

知識

■アームレストのフタを開けるとき（7 人乗りパワーシート装着車タイプ B）

フタの横のボタンを押してください。
アームレストにボタンの位置を示すラベルが貼ってあります。使用する前にラベルをはがしてください。

■オットマン★を格納するときは

▶ マニュアルシート

オットマン調整レバーを引いたままオットマンを下側に押します

▶ 7 人乗りパワーシート装着車（タイプ B）

オットマンの長さをいちばん短くして格納してください。

■警告ブザー（7 人乗りパワーシート装着車タイプ B）

シートを調整したあとにブザーが約 3 秒間鳴った場合、シート調整システムに異常がある可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシートを左右に調整する（7 人乗りマニュアルシート装着車 ）

レバーを 2 段階引く

セカンドシートを前後左右に調整することができます。

サードシートへの乗り降り

▶ 7 人乗りマニュアルシート装着車、8 人乗り車

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 8 人乗り車で運転席側から乗り降りするときは、セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 158）

3 7 人乗りマニュアルシート装着車は、セカンドシートのオットマンを格納する（→ P. 148）

4 リクライニングレバー (①) を引く、または前倒しペダル (②) を踏む

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

▶ 7 人乗りパワーシート装着車（タイプ A）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 オットマンを使用しているときは格納する（→ P. 148）

3 サイドテーブルを使用しているときは格納する（→ P. 420）

左右セカンドシートの間から乗り降りします。

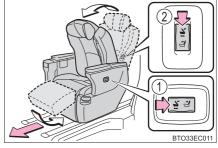
▶ 7 人乗りパワーシート装着車（タイプ B）

1 車を停止させる。シフトレバーをPに入れるかエンジンスイッチをOFFにし、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サイドテーブルを使用しているときは格納する（→ P. 420）

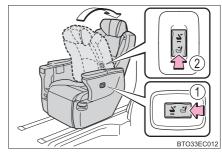
3 ブザーが鳴るまで①または

②の を押す

シートバックが自動で倒れ、オットマンが格納し、手動でシートを前方に移動させることができます。

4 乗り降りしたあと、①または

②の をブザーが鳴るまで押す

シートバックはニュートラルポジションにもどり、シートはロックされます。

シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。

知識

■シートが作動しないとき（7 人乗りパワーシート装着車タイプ B）

次のいずれかの状況のとき、 を押すとブザーが 2 回鳴り、シートを操作することはできません。

- ●スイッチを押した側のシートに人が座っている、または荷物が載っているとき
- ●スイッチを押した側のシートベルトが装着されているとき
- ●エンジンスイッチがイグニッションONモードで、シフトポジションがP以外にあるとき

■シートの作動を途中で止めるとき（7 人乗りパワーシート装着車タイプ B）

作動しているシートで、次のいずれかの操作をします。

- ● か を押す
- ●シート横の前後位置調整レバーを操作する
  シート背面のレバーでは、作動を停止することができません。
- ●リクライニング調整・オットマン角度調整・オットマン長さ調整スイッチのいずれかを押す

●"SET" ボタン・セカンドシートポジションメモリーのいずれかのボタンを押す（→ P. 167）

●シートまたはインストルメントパネルにあるリターンスイッチを押す（→ P. 156）

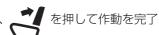
●シートに座るまたはシートベルトを着用する

止める位置によっては、ブザーが約 3 秒間鳴ることがあります。その場合はもう一度スイッチを押 して、作動を完了させてください。処置をしてもブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告ブザー（7 人乗りパワーシート装着車タイプ B）

●エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときにブザーが約 3 秒間鳴った場合、前回シートを調整したときに異常が発生していた可能性があります。

この場合、いずれかのシート調整スイッチまたは か を押して、シートが正常に動くことを確認してください。

●次のすべての状況でブザーが約３秒間鳴った場合、 を押して作動を完了させてください。

・ エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
・ シフトレバーが P 以外の位置にあるとき
・ セカンドシートに人が座っている、または荷物が載っているか、またはセカンドシートのシートベルトが装着されているとき
・ セカンドシートが調整中でないとき

処置をしても警告ブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

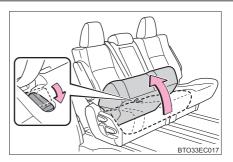
セカンドシートをチップアップするには（8 人乗り車）

運転席側、助手席側のセカンドシートは同じ様に操作します。

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

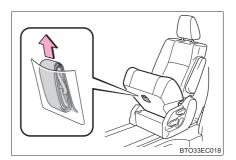
2 セカンドシートベルトのバックルを格納する（運転席側）（→ P. 28）

3 セカンドシートのアームレストを収納する（→ P. 158）

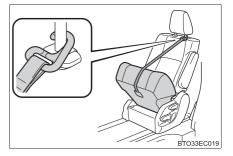
4 シートクッションを起こす

5 リクライニングレバーを引く、または前倒しペダルを踏んで背もたれを前方に倒す（→ P. 148）

シートのロックが解除されます。

6 シートをお好みの位置に移動したあと背もたれをもとにもどし、シートを固定する

7 シートクッション下部の収納ポケットからシート固定バンドを取り出す

8 ヘッドレストにシート固定バンドをかけ、シートクッションを固定する

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

チップアップしたあとに前後位置調整レバーを引くと、シートを動かすことができます。

ニュートラルポジションにもどすとき（7 人乗りパワーシート装着車タイプ B）

▶ 運転席で操作する

ブザーが鳴るまで または

 を押す

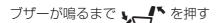
BTO33EC074

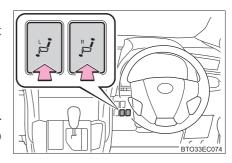
あらかじめ登録されたポジション（→P. 156）に背もたれがもどるとともに、オットマンが収納されます。

お好みの背もたれ位置を登録していない場合は、所定の位置（初期設定の位置）にもどります。

▶ セカンドシートで操作する

ブザーが鳴るまで を押す

BTO33EC020a

あらかじめ登録されたポジション（→P. 156）に背もたれがもどるとともに、オットマンが収納されます。

お好みの背もたれ位置を登録していない場合は、所定の位置（初期設定の位置）にもどります。

■ ポジションの登録

1. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
2. 背もたれをお好みの位置に調整する
3. SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと、をブザーが鳴るまで押す

知識

■運転席で操作するとき

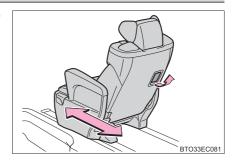
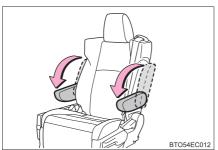
セカンドシートに乗員が座っているとき、またはセカンドシートのシートベルトが装着されているときは、R または L を押してもブザーが 2 回鳴り、作動しません。

助手席側セカンドシートから助手席を前後に移動させるとき★

→ P. 145

サードシートからセカンドシートを前後に移動させるとき（セカンドパワーシート装着車）

セカンドシート背もたれのレバーを引く

セカンドシートを前後に移動させることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アームレスト★

▶ セカンドシート(7 人乗りマニュアルシート装着車)

BTO54EC012

アームレストを一度いちばん上まであげ、その後いちばん下までさげる。
お好みの位置まであげると、アームレストが固定される。

アームレストが固定されると、さげることはできなくなります。
さげたいときは一度いちばん上まであげてください。

▶ セカンドシート(8 人乗りマニュアルシート装着車)

BTO54EC013a

手前に倒して使用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**シート調整について**

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■**サードシートへの移動について**

走行中はサードシートへ移動しないでください。

■**サードシートへの乗り降りについて**

- サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

■**前後調整やオットマン★の操作をするときは**

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■**オットマン★の使用について**

- 走行中は角度・長さ調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オットマンの上には絶対にのらないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
- 格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

■**サードシートからのセカンドシートの操作について**

セカンドシートに乗員がいるときは操作をしないでください。
セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■サードシートへの乗り降りについて

シートクッションを持ち上げているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。(8 人乗り車)

■オットマン★の故障を防ぐために

●足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものをのせないでください。

●オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

■サードシートからのセカンドシートの操作について

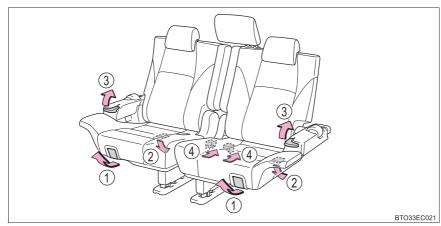
操作するときはセカンドシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■アームレスト★の破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシート

調整のしかた

① 前後位置調整（シート前方）

② 前後位置調整（シート裏側）

③ リクライニング調整

④ 荷室モード（→ P. 176）

サードシートを格納するには

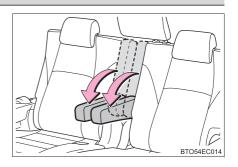
→ P. 176

サードシートからセカンドシートを前後に移動させるとき（セカンドパワーシート装着車）

→ P. 157

アームレスト★

手前に倒して使用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■サードシート調整について

シートの裏側にある②または④のレバー（→ P. 161）を操作してサードシートを調整するときは、バックドア側から行ってください。

警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。
- 中央席に座るときは、前後位置およびリクライニング位置を左右のシートで同じにしてください。
  お守りいただかないと、サードシート中央席シートベルトが正しく着用できず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

アームレストの破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー（フロントシート）／メモリーコール機能★

自動で運転席・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、シートが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

・シフトレバーを P に入れる
・エンジンスイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートがもとの位置にもどります。

・エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
・シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 547）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

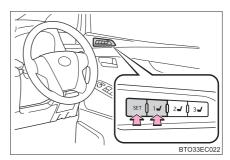
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 運転席・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

BTO33EC022

■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 144）

すべての位置が登録できます。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

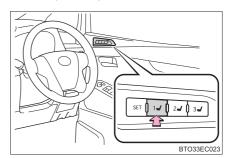
お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3. 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す
4. 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

   登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

1. ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

   ドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

   ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2. エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する

   シートが登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

● 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

● 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 547）

警告

■ シートを調整するとき

シート調整中は、シートがセカンド席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

セカンドシートポジションメモリー★

お好みのポジション（オットマンと背もたれ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

■ 登録方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 ボタンを押してカバーを開ける（→ P. 151）

4 セカンドシートをお好みの位置に調整する

5 SET ボタンを押しながら、またはSET ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

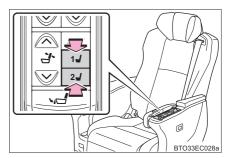
■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

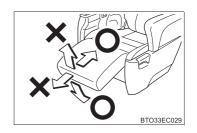
2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンを押す

背もたれが作動しているときにブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■オットマンの作動について

登録された位置が現在の位置より上および伸びる位置にある場合は作動しません。現在の位置より下または縮む位置にある(格納方向)場合のみ作動します。

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す
●1 または 2 のボタンを押す
●シート調整スイッチを操作する

■登録できるシート位置

シート前後位置以外の位置が登録できます。

■もとの位置(ニュートラルポジション)にもどすには

→ P. 156

■警告ブザー

登録したポジションを呼び出したあとにブザーが約 3 秒間鳴った場合は、システムに異常がある可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■シート調整時の警告

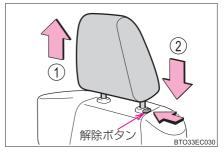
シート調整中は、セカンドシート乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

セカンドシート（8 人乗り車中央席を除く）

▶ 8 人乗り車（左右席）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ 7 人乗り車

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

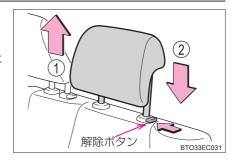
③ 左右調整★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシート（8 人乗り車中央席）／サードシート（左右席）

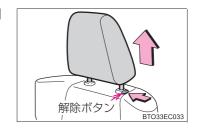
① 上げる

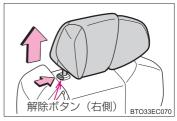
② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

▶ セカンドパワーシート非装着車

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

▶ セカンドパワーシート装着車

1 解除ボタンを押しながらヘッドレストをいちばん上まで引き上げる

2 ヘッドレストを引き上げながら取りはずしボタンを押して、ヘッドレストを取りはずす

■ヘッドレストの高さについて（フロントシート／セカンドシート左右席）

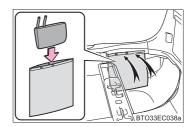
必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■セカンドシート中央席（8 人乗り車）／サードシート外側席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■サードシート中央席のヘッドレストの格納について

1 左側のデッキボードを折り曲げてくぼみにかける、または取りはずす（→ P. 405）

2 ヘッドレストを収納袋に入れて、収納袋のホックとラゲージルームのホックで固定する

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

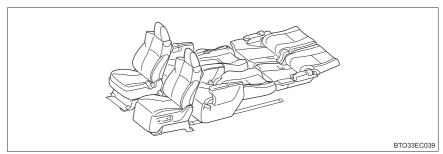
●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

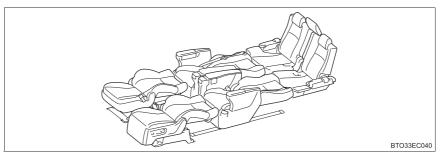
シートアレンジ

◆ リヤシートフルフラットモード

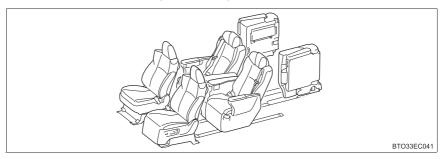
セカンドシート、サードシートをフルフラットにする（→ P. 174）

BTO33EC039

◆ フロント・セカンドフルフラットモード

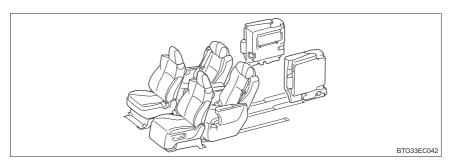
フロントシート、セカンドシートをフルフラットにする（→ P. 175）

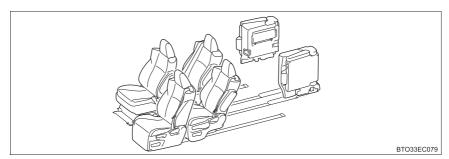
BTO33EC040

◆ 荷室モード

サードシートを格納する（→ P. 176）

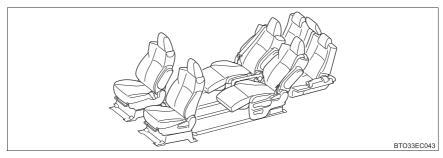
BTO33EC041

最大積載モードにする（→ P. 178）

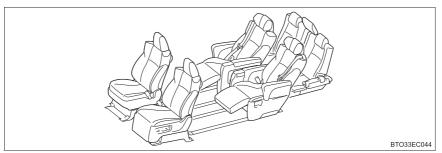
▶ 助手席スーパーロングスライド非装着車

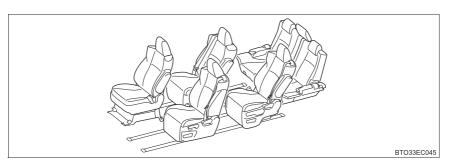
BTO33EC042

▶ 助手席スーパーロングスライド装着車

BTO33EC079

◆ スーパーリラックスモード（7 人乗り車）

セカンドシートを後方へ移動する（→ P. 180）

BTO33EC043

◆ エグゼクティブモード（7人乗りパワーシート装着車）

→ P. 180

◆ 助手席スーパーロングスライドモード（エクストラスライドエリア）★

→ P. 181

リヤシートフルフラットモードにするには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）
3 サードシートのアームレストを格納する（→ P. 161）
4 サードシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 161）
5 サードシートのヘッドレストをはずす（→ P. 169）
中央席ヘッドレストは、ラゲージルームに収納します。（→ P. 171）
6 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 161）
7 サードシートがバックドアにふれる位置までうしろに移動させる（→ P. 161）
8 セカンドシートのアームレスト★を格納する（→ P. 158）
9 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 148）

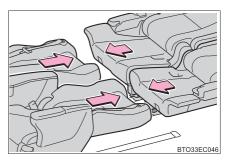
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

10 7 人乗り車のセカンドマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる（→ P. 148）

11 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 169）

12 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 148）

13 セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるように必要に応じてシートを移動させる（→ P. 148、161）

BTO33EC046

フロント・セカンドフルフラットモードにするには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

3 サードシートのアームレストを格納する（→ P. 161）

4 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 161）

5 セカンドシートのアームレスト★を格納する（→ P. 158）

6 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 148）

7 フロントシートのアームレストを格納する（→ P. 145）

8 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 143）

9 フロントシートのヘッドレストをはずす（→P. 169）

10 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 143）

11 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる（→ P. 148）

12 7 人乗り車のセカンドマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる（→ P. 148）

13 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 169）

14 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 148）

15 セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにサードシートを移動させる（→ P. 161）

16 サードシートの背もたれをバックドアにふれるまで倒す（→ P. 161）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■サイドリフトアップシート装着車について

サイドリフトアップシートは、フラット状態にすることができません。

荷室モードにするには

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

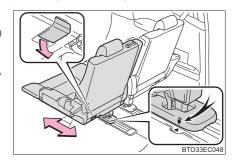
各シートベルトのバックルも格納します。（→ P. 31）

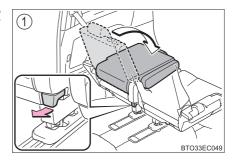
3 サードシート中央席のヘッドレストを取りはずし収納する（→ P. 169）

4 サードシート左右席のヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 169）

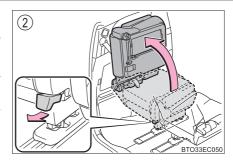
5 サードシートのアームレストを格納する（→ P. 161）

6 サードシートを前後に動かし、シート側のマークをレール側のマークに合わせる

シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。

7 シートをはね上げる

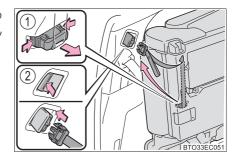
① スペースアップレバーを 1 段階引いてシートバックを倒します。

② スペースアップレバーをもう 1 段階引いてシートをはね上げます。

シートを前後に動かさないではね上げてください。

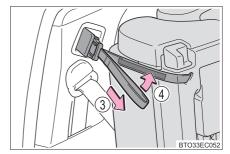
シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。

8 シートを固定する

① シートクッション裏側にあるシート固定ベルトを取り出します。

② ロック部に挿し込みます。

ロック部は押して引き出します。

③ シートを手で押さえながら、シート固定ベルトを引っ張ります。

④ シートを固定します。

ベルトのたるみを取ったあと、マジックテープを密着させ固定します。

9 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

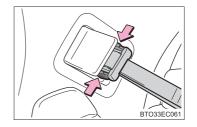
知識

■サードシートを格納するときは

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■シート固定ベルトをはずすときは

シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

・シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押します。

最大積載モードにするには

▶ 7 人乗りパワーシート装着車

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 176）

3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 148）

シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。

▶ 7 人乗りマニュアルシート装着車
（助手席スーパーロングスライドモード設定車）

1 車を停止させる。シフトレバーを P に入れるかエンジンを OFF にし、しっかりとパーキングブレーキをかける

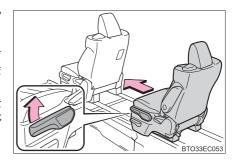
2 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 143）

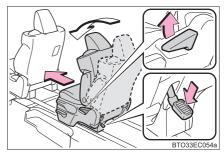
3 運転席側セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 148）

4 サードシートを格納する（→ P. 176）

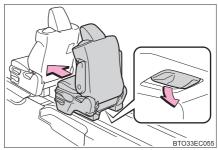
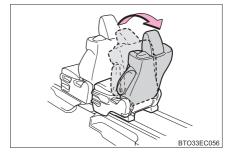
5 助手席側セカンドシートのスライドストッパー（→ P. 181）を取りはずす

6 レバーを上げて、助手席側セカンドシートを前に移動させる

シートが内側にある状態で前に移動すると、シートがコンソールにあたります。
レバーをもう 1 段階引いて、シートを外側に移動させてからシートを前に移動させてください。（→ P. 148）

7 ペダルを踏む、またはレバーを引いて背もたれを前に倒す

BTO33EC054a

8 シートクッション下面のレバーを引いて、シートをさらに前に移動させる

BTO33EC055

9 背もたれをもどし、シートがロックしていることを確認する

前後左右位置調整レバーを操作することで、シートをもとの位置にもどすことができます。

BTO33EC056

▶ 8 人乗り車

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートベルトのバックルを格納する（運転席側）（→ P. 28）

3 セカンドシートのアームレストを収納する（→ P. 158）

4 セカンドシートのシートクッションを起こす（→ P. 155）

5 セカンドシートのシートクッション下部の収納ポケットからシート固定バンドを取り出す（→ P. 155）

6 セカンドシートのヘッドレストにシート固定バンドをかけ、シートクッションを固定する（→ P. 155）

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

7 セカンドシートのリクライニングレバーを引く、または前倒しペダルを踏んで背もたれを前方に倒す（→ P. 148）

シートを前方に移動させることができます。

8 セカンドシートをいちばん前まで移動したあと、背もたれをもとにもどし、セカンドシートを固定する（→ P. 148）

9 サードシートを格納する（→ P. 176）

知識

■サードシートを格納するときは

→ P. 177

■シート固定ベルトをはずすときは

→ P. 178

スーパーリラックスモードにするには（7 人乗りマニュアルシート装着車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシートのアームレストを格納する（→ P. 161）

3 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 161）

4 セカンドシートのサイドテーブル★を格納する（→ P. 420）

5 セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 158）

6 セカンドシートの左右位置を中央に移動させる（→ P. 148）

7 セカンドシートとサードシートの間のスライドストッパーをはずす（→ P. 181）

8 セカンドシートを後方へ移動させる（→ P. 148）

9 オットマンの角度を調整する（→ P. 148）

エグゼクティブモードにするには（7 人乗りパワーシート装着車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 161）

3 セカンドシートを後方へ移動させる（→ P. 148）

4 オットマンの角度／長さ★を調整する（→ P. 148）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

助手席スーパーロングスライドモードにするには（エクストラスライドエリア）★

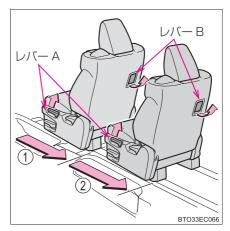
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 助手席側セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 148）

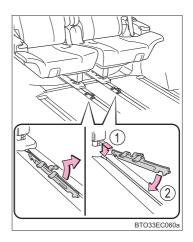
3 助手席をエクストラスライドエリアまで移動させる

① レバー（A または B）を引いて、シートがロックする位置まで移動させます。

② シートがロックしている位置でレバー（A または B）を再度引いて、シートをさらにうしろまで移動させます。

逆の手順でシートをもとの位置にもどすことができます。

知識

■スライドストッパーについて

助手席側セカンドシートの足元（助手席スーパーロングスライドモード設定車）・サードシートの足元に、スライドストッパーがあります。これはシートをスライドさせたとき、誤って乗員がシートとシートのあいだに足を挟まないようにするために取り付けられています。スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。

⚠ 警告

■シートアレンジについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- ●必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- ●シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。
- ●操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- ●シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- ●シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- ●シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認してください。
- ●ラゲージルームに人をのせて走行しないでください。
- ●フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。
- ●ラゲージルームにお子様をのせないでください。
- ●シートを移動しないときはスライドストッパーを取りはずさないでください。

■フラットシートについて

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

■助手席スーパーロングスライドモード★について

助手席をエクストラスライドエリアまで移動させたときでも、助手席の前に何も置かないでください。
助手席 SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**サードシートの格納について**

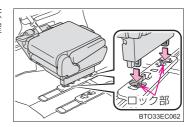
●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。

●シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。

●シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。

●左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

●シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。

■**シートをもとの位置にもどしたあとは**

●シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認してください。

●ヘッドレストが取り付けられていることを確認してください。

注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■シートの格納について

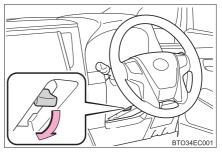
- セカンドシートのシートクッションを持ち上げたときは、シートクッションの土台部分に乗ったり、手や足を入れないでください。
- サードシートをおろすときは、床面に物がないことを確認してから行ってください。
- セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートがあたり格納できないことがあります。
- サードシートのバックルを格納（→ P. 31）しないでサードシートを格納（→ P. 176, 178）すると、背もたれがへこむことがあります。

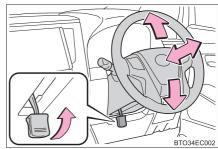
■フラットシートについて

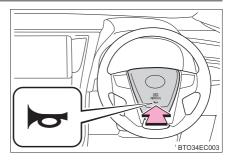
- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。（マニュアルシート）
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

ハンドル

調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる

2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。(→ P. 185)

警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

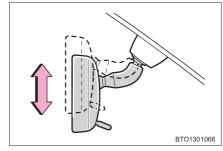
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた（手動防眩ミラー装着車）

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

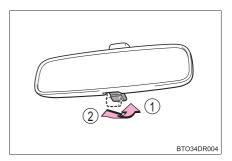
BTO1301066

防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

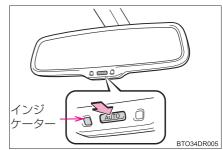
② 防眩時

BTO34DR004

▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

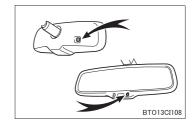
自動防眩機能の切りかえ
ＯＮ ／ ＯＦＦ

ＯＮ のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ＯＮ になっています。
ボタンを押すと ＯＦＦ になりインジケーターが消灯します。

BTO34DR005

知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

BTO13CI108

⚠ 警告

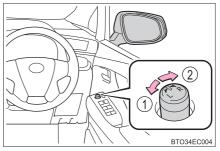
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

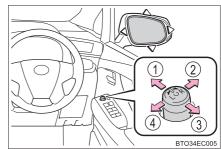
① 左

② 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左

ドアミラーを格納する

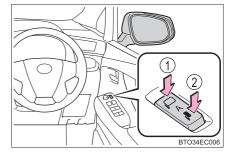
■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押す

① もとの位置にもどす

② 格納する

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわります。

オート作動にすることにより、スマートエントリー＆スタートシステムや、ワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチなどによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。また、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすることにより、復帰させることができます。

リバース連動機能について★

ミラー調整スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー調整スイッチの選択がLまたはRに選択されていない状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 377）

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→ P. 164）

■レインクリアリングミラー★

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

● 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に1・2日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。

● 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→ P. 427）を行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート作動の作動内容などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 551）

⚠警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

■レインクリアリングミラー★の取り扱いについて

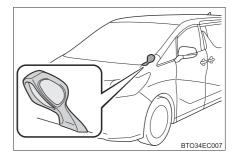
親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

- シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。
  撥水剤が付着した場合、速やかに水を含ませたスポンジに重曹をつけて拭き取ってください。また、拭き取ったあとの重曹は十分に水で洗い流してください。重曹が残っていると、乾燥したときに鏡面が白くなり取れなくなる場合があります。
- 砂の付いた布・油膜取り剤・研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させるなどして解氷してください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

補助確認装置★

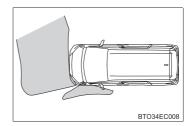
発進時またはごく低速時に、前方および左側車両側面を確認するときに役立ちます。

BTO34EC007

知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。

BTO34EC008

注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

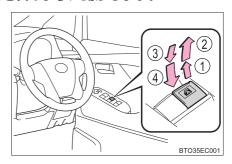
パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

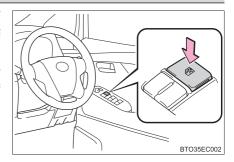
スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

① 閉める
② 自動全閉※
③ 開ける
④ 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスやリヤムーンルーフ★が作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスやリヤムーンルーフを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けるときに、異物がドア内に巻き込まれると作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 4 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない。または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※ (→ P. 520)

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※ (→ P. 97)

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。(→ P. 551)

■窓開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■後席窓開状態表示について

メーター内マルチインフォンメーションディスプレイから後席窓の開状態を確認できます。(→ P. 85)

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 551）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
  また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 194）
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
  またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

注意

■挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について

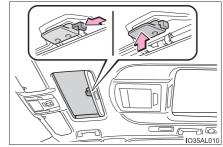
ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

ツインムーンルーフ★

フロントムーンルーフのチルトアップ、リヤムーンルーフの開閉ができます。

フロントムーンルーフをチルトアップする

ボタンを押しながらハンドルを押し上げる

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。

リヤムーンルーフを開閉する

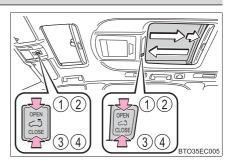
① 自動全開（長押し）※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）
全開にしたいときは、スイッチをもう一度長押ししてください。

② 開ける（短押し）

③ 自動全閉（長押し）※

④ 閉める（短押し）

※ 途中で停止するときは、いずれかのスイッチを押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき※

※ ただし、ウインドウロックスイッチが ON になっているときは作動しません。(→ P. 194)

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はリヤムーンルーフを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

リヤムーンルーフを閉めるときに、リヤムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、リヤサンシェードはリヤムーンルーフが開くと連動して開きます。

■リヤムーンルーフが正常に閉まらないとき

閉まるときに反転し閉じ切らない場合、次の操作を行ってください。

1. スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※

   ムーンルーフが全閉位置まで閉じてから、全開位置まで開き、その後再び全閉位置まで閉まります。

2. ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す。

※復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■リヤムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でリヤムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■後席窓開状態表示について

メーター内マルチインフォンメーションディスプレイからリヤムーンルーフの開状態を確認できます。(→ P. 85)

■カスタマイズ機能

ドアロック連動リヤムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 550)

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ムーンルーフを開けているとき**

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■**ムーンルーフを開閉するとき**

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- 車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってリヤムーンルーフを操作するときは、リヤムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
  またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がリヤムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■**挟み込み防止機能（リヤムーンルーフ）**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、リヤムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 202
荷物を積むときの注意...........211

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 212
オートマチックトランスミッション............218
方向指示レバー 224
電動パーキングブレーキ.......225
ブレーキホールド 229

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 232
オートマチックハイビーム...235
フォグランプスイッチ...........240
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）...........................242
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）...................................246

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 248

4-5. 運転支援装置について

Stop & Start System（SMART STOP）...............252
クルーズコントロール...........263
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）............267
クリアランスソナー...............280
インテリジェントクリアランスソナー 292
インテリジェントパーキングアシスト 2 304
運転を補助する装置...............356
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）..........362

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転..........................368

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 212

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 218）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 225）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 225）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→ P. 225）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→ P. 218）

駐車する

1 車を完全に停止させる

2 シフトレバーを P にする（→ P. 218）

3 パーキングブレーキをかける（→ P. 225）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P にしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。（→ P. 225）

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1. ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 218）
2. パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 226）
3. ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
4. 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除して発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 356）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D※、D※から R、N から R、P から D※、P から R）とき。
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※D は M ポジション（2AR-FE エンジン搭載車）または、S ポジション（2GR-FE エンジン搭載車）を含みます。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 357）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

●ドライブスタートコントロール作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
表示された画面の指示に従ってください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**発進するとき**

エンジンがかかったまま停車しているときは､常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するとき**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと､車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため､ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり､ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 474を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 219)

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●4WD 車 : オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **すべりやすい路面を運転するとき**

● 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

● 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

● 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ **シフトレバーを操作するとき**

● シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

● 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

● 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

● アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。
必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
  吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
  直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずシフトレバーをＰに入れ、パーキングブレーキをかけて、エンジンを停止し、施錠してください。
  エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
  やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

■床下に衝撃をうけたとき

ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてください。ブレーキ液や燃料の漏れ、マフラーなど車体下部に損傷が無いか確認してください。漏れや損傷がある場合はただちに販売店で点検整備を受けてください。
漏れや損傷を放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

- ●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP. 491, 504 を参照してください。

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席または助手席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→ P. 226）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 213）からでもエンジンを始動できます。

エンジンの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 シフトレバーをPの位置にする

3 パーキングブレーキをかける（→P. 225）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPにしたときに、自動でパーキングブレーキがかかります。（→P. 225）

4 エンジンスイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していることを確認する

エンジンスイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

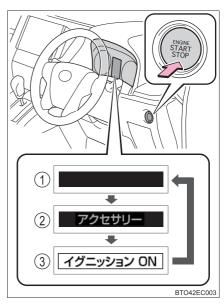
オーディオなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ イグニッションONモード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFFになりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
4. マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 99

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 139

■ご留意いただきたいこと

→ P. 140

■エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 67）トヨタ販売店へご連絡ください。
- シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとエンジンを始動することができない場合があります。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらエンジンスイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 520

■エンジンスイッチの操作について

●エンジンスイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

●エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 520

警告

■**エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

●走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 474)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にエンジンを緊急停止したあと、エンジンを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、エンジンスイッチを押してください。

⚠ 注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

● エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

● エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

● シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■**エンジンを始動するとき**

● エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

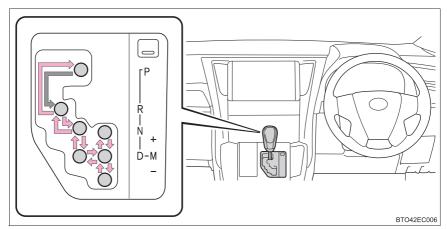
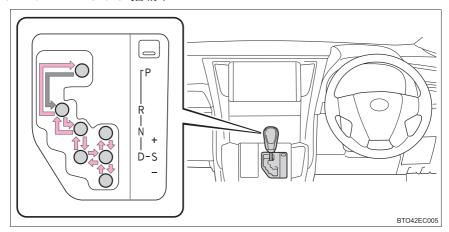
● もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■**エンジンスイッチの操作について**

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方

▶ 2AR-FE エンジン搭載車

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態	
	2AR-FE エンジン搭載車	2GR-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジンの始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※1	
M	7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（→ P. 220）	—
S	—	S モード走行※2（→ P. 220）

※1 D ポジションを使用することで、そのときの走行状況に最適なシフトレンジが自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

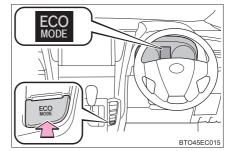
※2 S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

エコドライブモードの選択

スイッチを押す

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

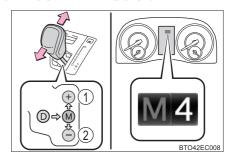
マルチインフォメーションディスプレイに ECO MODE 表示灯が表示されます。

・もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。
・エコドライブモードが ON の状態は、エンジンスイッチを OFF にしても記憶されています。

7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ（2AR-FE エンジン搭載車）

シフトレバーを M ポジションにすると、7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりの変速段を選択し、運転することができます。シフトレバーの“－”側または“＋”側の操作で変速段を切りかえることができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
1 ～ 7 のあいだで選択されている変速段がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ シフト機能

● エンジンブレーキ力は、7 段階から選択が可能です。

● より大きなエンジンブレーキ力を使用するときは、シフトレンジの数字を小さくしてください。

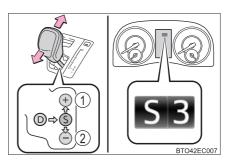
S モードでのシフトレンジ切りかえ（2GR-FE エンジン搭載車）

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのギヤ段を選択し、運転することができます。シフトレバーの“－”側または“＋”側の操作でギヤ段を選択することができます。

① シフトレンジアップ

② シフトレンジダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。

シフトレバーをシフトアップ側へ保持すると 6 に設定されます。
1 ～ 6 のあいだで選択されているシフトレンジがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 5 レンジもしくは 4 レンジに設定されます。ただし、D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジになる場合があります。（→ P. 222）

■ シフトレンジ機能

- 車速や走行状況に応じて、1～6のシフトレンジを自動的に選択します。ただし、選択したシフトレンジに応じて最高ギヤ段は制限されます。
- エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- より大きなエンジンブレーキ力を使用するときは、シフトレンジの数字を小さくしてください。

知識

■7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について（2AR-FE エンジン搭載車）

- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 段シフトアップされます。
- エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に 1 段シフトダウンされます。

■S モードに関する自動変速について（2GR-FE エンジン搭載車）

- シフトレンジが 5 以下のとき、シフトレバーを "＋" 側へ保持すると 6 レンジに設定されます。
- エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。
- トランスミッションフルードの温度が高くなると、オートマチックトランスミッションの保護のため、自動的にシフトレンジアップされます。

■シフトダウン制限警告ブザー（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード、または S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウン（S モードはシフトレンジダウン）が行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■クルーズコントロール★または、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★を使って走行しているとき（2GR-FE エンジン搭載車）

エンジンブレーキを目的に S モードで走行中に 5 または 4 にシフトダウンしてもクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。（→ P. 265, 274）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

- ●アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D※、D※から R、N から R、P から D※、P から R）とき。
  この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

  ※D は M ポジション（2AR-FE エンジン搭載車）または、S ポジション（2GR-FE エンジン搭載車）を含みます。
- ●後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

■M ポジションで走行中に停車したときは（7 速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時）

- ●停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
- ●停止後走行するときは M1 からの発進となります。
- ●停止後は M1 に固定されます。

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り､Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→ P. 519

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードを解除してください。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT：

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切な変速比・ギヤ段切りかえを行います。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。シフトレバーを M（2AR-FE エンジン搭載車）または、S（2GR-FE エンジン搭載車）にすると、機能が解除されます。

NAVI・AI-SHIFT（ナビゲーションシステム装着車）：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

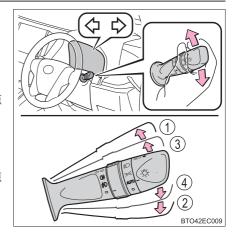
② 右折

③ 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

④ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

オートモード

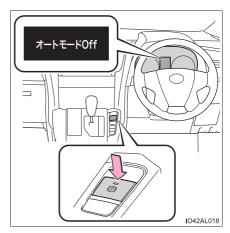
シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。(→ P. 226)

■ オートモードを ON にする（停車中にスイッチを引き続ける）

マルチインフォメーションディスプレイに「オートモード On シフト操作に応じてパーキングブレーキが作動」と表示されます。

P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。
シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする（停車中にスイッチを押し続ける）

マルチインフォメーションディスプレイに「オートモード Off」と表示されます。

マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

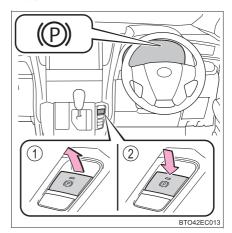
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

・アクセルペダルを踏みながらでも操作できます。(上り坂の発進のしかた：→ P. 203)

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→ P. 484)

知識

■ **パーキングブレーキの作動**

● エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

● エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキ高温 現在使用できません」が表示されたときは**

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ **パーキングブレーキの作動音**

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■モードの切りかえについて

オートモードの ON/OFF を切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■パーキングブレーキスイッチが故障した場合

自動的にオートモードが ＯＮ になります。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキが解除されず車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 482

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 369

⚠警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

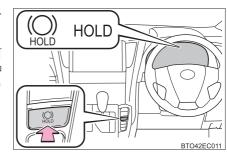
▶ 2AR-FE エンジン搭載車

シフトレバーが D・M または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または M のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

シフトレバーが D・S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。

知識

■システムの作動条件

次のときはシステムを ON できません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときにいずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合は、運転者はブレーキをかける必要があるときもあります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する（→ P. 226）

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 225）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P. 484

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

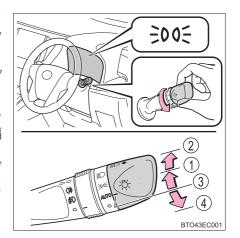
自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

① 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

② 上記ランプとヘッドランプを点灯

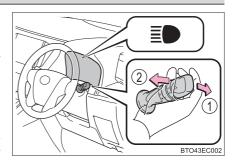
③ AUTO ヘッドランプ・LED デイライト★（→ P. 233）・車幅灯などを自動点灯・消灯（エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき）

④ 消灯

ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コーナーリングランプ★

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナーリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーが R のとき（左右両側のコーナーリングランプが点灯）

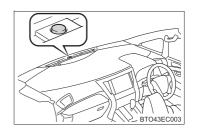
ただし、車速が約 40km/h 以上の場合は、コーナーリングランプは点灯しません。

知識

■LED デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態でフロントドアまたはスライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチをAUTOまたは O の位置にもどし、再度 または の位置にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■**節電機能**

バッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●いずれかのドアを開閉したとき

■**ランプ消し忘れ警告ブザー**

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■**オートレベリングシステム**

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■**カスタマイズ機能**

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 547）

注意

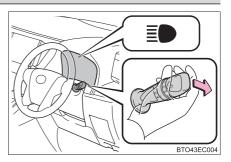
■**バッテリーあがりを防止するために**

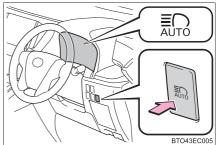
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のライトや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO または ≣D にし、レバーを前方へ押す

2 オートマチックハイビームスイッチを押す

ヘッドランプが点灯しているとき、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。

ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

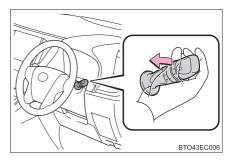
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。
オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

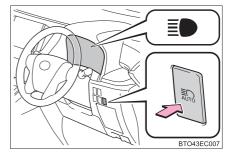
BTO43EC006

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。

BTO43EC007

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■オートマチックハイビームについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・ 他車が前方を横切ったとき
・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号、広告などの照明、または標識、看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・ 対向車または先行車のランプの明るさ
・ 対向車または先行車の動きや向き
・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・ 対向車または先行車が二輪車のとき
・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・ 乗車人数や荷物の量

●オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧、雪、砂嵐、大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されているとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたとき

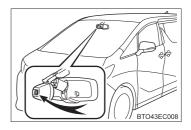
システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

注意

■オートマチックハイビームを正しく作動させるために

オートマチックハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- カメラセンサーのレンズにふれない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- トヨタ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

① o 消灯する

② 点灯する

▶ フロントＡリヤフォグランプスイッチ★

① o 消灯する

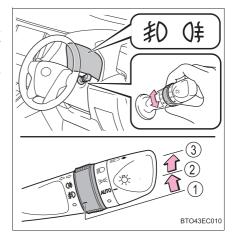
② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度、スイッチを に操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

▶ 間欠時間調整式ワイパー

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止

② 間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ 低速作動

④ 高速作動

⑤ △ 一時作動

「 」間欠作動を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

間欠作動の時間は、車速に応じてかわります。

⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）

⑧ ウォッシャー液を出す／ワイパー連動作動

ウォッシャー液が出たあとにワイパーが数回作動します。

▶ 雨滴感知式ワイパー

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止

② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

「AUTO」AUTO モードを選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します

「AUTO」AUTO モードが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）

⑧ ウォッシャー液を出す／ワイパー連動作動

ウォッシャー液が出たあとにワイパーが数回作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■液だれ防止作動

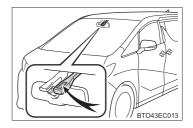
ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

●エンジンスイッチがイグニッションONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または－ 15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

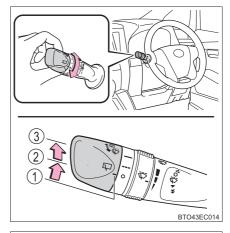
ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

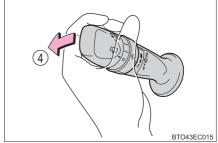
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止
② --- 間欠作動
③ ━ 通常作動

④ ウォッシャー液を出す／ワイパー連動作動

ウォッシャー液が出たあとにワイパーが数回作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

▶ 2AR-FE エンジン搭載車
・無鉛レギュラーガソリン
・バイオ混合ガソリン（レギュラー）

▶ 2GR-FE エンジン搭載車
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
・バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■助手席側スライドドアが全開にならない状況

給油扉が開いていると、助手席側スライドドアは途中までしか開きません。
（→ P. 113）

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
  静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
  すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
  燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。

▶ 2AR-FE エンジン搭載車
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

▶ 2GR-FE エンジン搭載車
指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

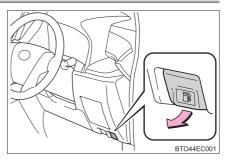
次のような状態になるおそれがあります。

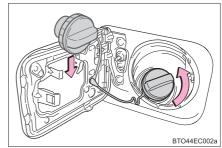
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

※エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

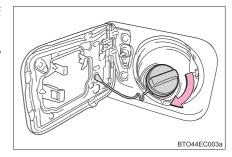
1 オープナーを引いて、給油扉を開ける

BTO44EC001

2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む

BTO44EC002a

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

BTO44EC003a

警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

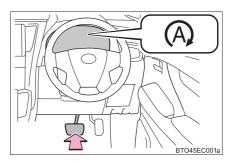
Stop & Start System （SMART STOP）★

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start System の操作
（ブレーキホールドシステムが OFF のとき）

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。

■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

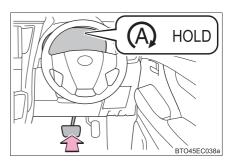
Stop & Start System の操作（ブレーキホールドシステムが ON のとき）

ブレーキホールドシステムによるブレーキ保持中（→ P. 229）のときも、Stop & Start システムによるエンジン停止を行います。

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。

ブレーキホールドシステムによるブレーキ保持中は、ブレーキペダルから足をはなしても Stop & Start システムによるエンジン停止を継続します。ブレーキホールドシステムによるブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。

■ エンジンが再始動する

アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

Stop & Start 表示灯とブレーキホールド作動表示灯（黄）が消灯します。

■ ブレーキホールドシステムによるブレーキ保持中の Stop & Start システムの作動について

● Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。

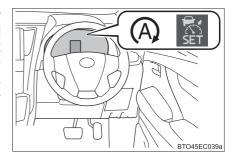
● Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキホールドシステムの作動条件（→ P. 229）が満たされなくなるとブレーキホールドシステムは OFF になります。
このとき自動的にパーキングブレーキがかかりエンジンが自動的に再始動します。

Stop & Start System の操作（レーダークルーズコントロール［全車速追従機能付］★車間制御モードが作動しているとき）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）車間制御モードの制御停車中（→ P. 269）のときも、Stop & Start システムによるエンジン停止を行います。

■ エンジンが停止する

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）の車間制御モードで走行中に制御停車で車両が完全に停止すると、エンジンが自動的に停止します。（ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動で停止します）

Stop & Start 表示灯が点灯します。

■ エンジンが再始動する

先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★車間制御モードの制御停車中の Stop & Start システムの作動について

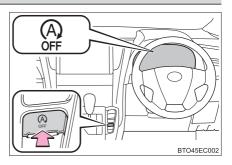
Stop & Start システムによるエンジン停止中に、エンジンが自動的に再始動してもレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）車間制御モードの制御停車は継続します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするにはStop & Startキャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。

■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしていても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。

● Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。
駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

● 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。

● ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。

● ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

知識

■作動条件

●次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。

・ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき（レーダークルーズコントロール［全車速追従機能付］車間制御モードの制御停車中を除く）
・エンジンが十分暖まっているとき
・外気温が -5 ℃以上のとき
・シフトレバーが D または M のとき
・ FRONT がOFFのとき
・ボンネットが閉まっているとき（→ P. 257）
・運転席シートベルトを着用しているとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき

●次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。

・外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
・バッテリーが十分に充電されていないとき、および定期的な充電中のとき
・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
・勾配が急な坂道で停車したとき
・ハンドル操作をしているとき
・渋滞などで、断続的に停車するとき
・標高が高いとき
・エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
・バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだ

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

・エアコンを ON にしたとき
・ FRONT を ON にしたとき
・ハンドルを操作したとき
・シフトレバーを D または M 以外に操作したとき
・運転席シートベルトをはずしたとき
・運転席ドアを開けたとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
・坂道などで車両が動き出したとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。（Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください）

・ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
・エアコンを使用しているとき
・バッテリーの充電量が低下しているとき

■インテリジェントパーキングアシスト2★作動中の Stop & Start システムの作動について

インテリジェントパーキングアシスト2作動中はStop & Start システムの作動を中止します。

■ボンネットを開けたときは

●Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作（→ P. 212）でエンジンを始動させてください。

●ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■Stop & Start システムについて

●Stop & Start システムは赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

●Stop & Start システムが作動できないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意を促します。（→ P. 260）

●アイドリングストップ中にエンジンスイッチを押してもエンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。

●Stop & Start システムの作動によりエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットやアクセサリーコンセント★などが使用できないことがありますが異常ではありません。

●電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性がありますので、トヨタ販売店にご相談ください。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

エアコンの

を押して曇りを取ってください。（→ P. 377）断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムを非作動にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中はエアコン（冷房・暖房・除湿機能）が OFF になり、送風または無風になります。エアコンが OFF にならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押して Stop & Start システムを非作動にしてください。

■エアコンが ON のときのアイドリングストップ時間の切りかえについて

次のそれぞれの操作により、エアコンが ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間を切りかえることができます。（エアコンが OFF のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間は切りかえできません）

●Stop & Start キャンセルスイッチの長押し操作

●マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面（→ P. 258）からのメーター操作

●マルチインフォメーションディスプレイの「設定」画面（→ P. 86）からのメーター操作

▶Stop & Start キャンセルスイッチ長押しによる設定

Stop & Startキャンセルスイッチを3秒以上押し続けるごとに、「NORMAL」（通常）・「LONG」（長め）が切りかわります。（マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」画面、または「設定」画面で確認できます）

▶「Stop & Start システム情報」画面からの設定

1 「Stop & Start システム情報」画面で、メーター操作スイッチ（→ P. 82）の を押す

2 メーター操作スイッチの を上下に操作して「Ⓐ」を選択し、メーター操作スイッチの を押す

3 メーター操作スイッチの を上下に操作し、「NORMAL」（通常）・「LONG」（長め）を選択し、メーター操作スイッチの を押す

▶「設定」画面からの設定

→ P. 86

■Stop & Start システム保護機能

●大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的に OFF にする場合があります。この場合、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上待ってからアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにし、オーディオを再開させてください。

●バッテリーの端子を外して再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオが作動します。

・エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチを OFF にする

■バッテリーを交換するとき

→ P. 526

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

マルチインフォメーションディスプレイの「Stop & Start システム情報」（→ P. 81）で Stop & Start システムの作動状態を表示します。

SMART STOP	現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。 また、メーター操作スイッチを使ってエアコンが ON の時のアイドリングストップ時間を切りかえできます。（→ P. 258）
始動後	エンジン始動後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。
リセット間	リセット後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。
始動後節約燃料	エンジン始動後のアイドリングストップで節約した燃料（参考）を表示します。
リセット間節約燃料	リセット後のアイドリングストップで節約した燃料（参考）を表示します。

次の手順で「リセット間」と「リセット間節約燃料」をリセットできます。

●リセットするには、メーター操作スイッチの を押し、 を上下に操作して「リセット」を選択し、 を押し続けます。

●リセット操作を中止する場合は、メーター操作スイッチの を押します。

■マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないときや、Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したときにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。

●Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
ブレーキをもう少し踏み込んでください	**ブレーキペダルを踏む力が足りない** →車両停止後、ブレーキペダルを少し踏み足すと作動開始します
エアコン優先	・**外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している** →設定温度と室内温度の差が小さくなると作動しやすくなります ・ FRONT **を押している**
バッテリー充電	・**バッテリーの充電量が低下している可能性があります** →バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると回復します ・**リフレッシュ充電中の可能性があります（参考シーン：バッテリー交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだなど）** →約 5 ～ 40 分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。 ・**ボンネットが開いている状態でエンジン始動した可能性があります** →ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください ・**バッテリーが冷えている可能性があります** →エンジンをしばらく作動させることでエンジンルーム内の温度上昇に伴い回復します ・**バッテリーが非常に熱くなっている可能性があります** →エンジンを停止しエンジンルーム内の温度が十分に下がると回復します。

メッセージ	状況
ブレーキシステム	・**ブレーキ倍力装置の負圧が低下した** ・**標高が高い** → ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態に戻ります
シートベルト非装着	**運転席のシートベルトをはずしている**

●Stop＆Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
エアコン優先	・**エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している** ・ FRONT **を ON にした**
ブレーキシステム	・**ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをした** → 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態に戻ります
バッテリー充電	・**バッテリーの充電量が低下している可能性があります** → バッテリーの充電を優先させるため、エンジンを再始動しました。エンジンをしばらく作動させると回復します
ハンドル操作	**ハンドル操作をした**
シートベルト非装着	**運転席のシートベルトをはずした**

■システムに異常があるおそれについて

次のときはシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示された

●Stop & Start キャンセル表示灯が点滅している

警告

■Stop & Start システムが作動しているとき

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。（ブレーキホールドシステムによるブレーキ保持中、またはレーダークルーズコントロール［全車速追従機能付］★車間制御モードの制御停車中は除く）

●Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯中）は、車から離れないでください。エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき

●運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき

●運転席ドアを閉めているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、または室内灯のメインスイッチがドアポジションのときにマップランプとリヤパーソナルランプが点灯するとき

●運転席ドアを開けているときに、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、または室内灯のメインスイッチがドアポジションのときにマップランプとリヤパーソナルランプが点灯しないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

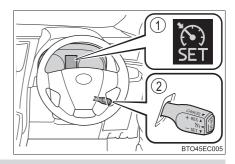
クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

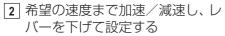
BTO45EC005

速度を設定する

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイにクルーズコントロール表示灯が点灯します。

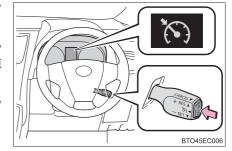
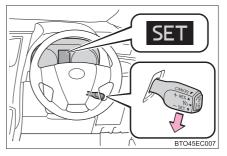
OFF にするには、再度スイッチを押します。

BTO45EC006

2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

マルチインフォメーションディスプレイにセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。

BTO45EC007

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

BTO45DP004

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

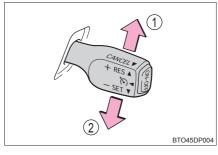
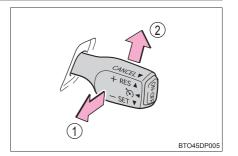
定速走行を解除する・復帰させる

BTO45DP005

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。(2AR-FE エンジン搭載車)

●シフトレバーがDまたはSの4レンジ以上のとき設定できます。(2GR-FEエンジン搭載車)

●車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON-OFF スイッチでシステムをOFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★

機能概要

アクセルペダル操作をしなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

● 車間制御モード（→ P. 269）

● 定速制御モード（→ P. 273）

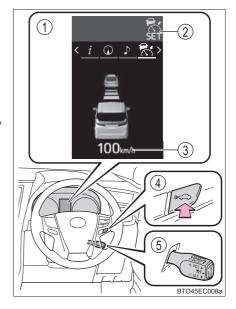
① マルチインフォメーションディスプレイ

② 表示灯

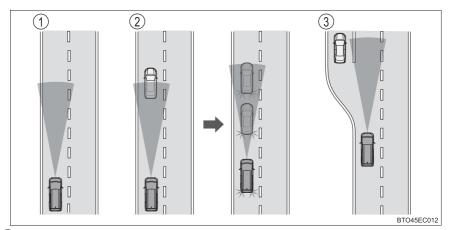
③ 設定速度

④ 車間距離切りかえスイッチ

⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーセンサーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。

① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行 ー 追従走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化にあわせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。
先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります。

③ 加速走行 ー 定速走行：
設定した速度より、車速が遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

車速を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

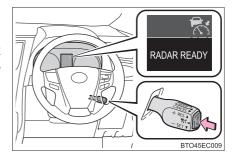
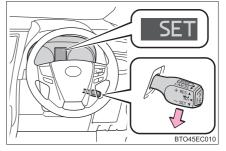
OFF にするには再度スイッチを押します。

BTO45EC009

2 希望の車速（約50 ～約100km/h）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

BTO45EC010

車速が約 50km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を 50km/h として先行車に追従走行をします。

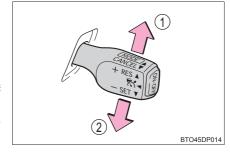
設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します

① 速度を上げる
（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：希望の速度になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1km/h

大幅調整：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード（→ P. 273）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1km/h

大幅調整：レバーを保持するあいだ

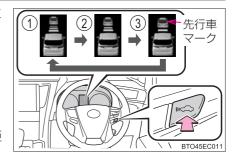
車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに車間距離は ① にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

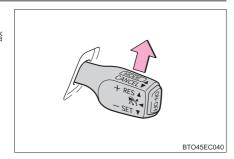
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定にかかわらず約 3 ～ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

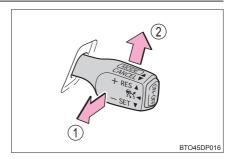
BTO45EC040

制御を解除する・復帰させる

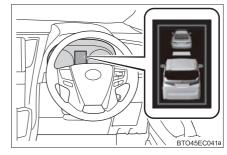
① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。(車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

② 制御を復帰させるには、レバーを上げる

ただし、車間制御モードは、先行車がいないときに車速が約 40km/h 以下になると復帰しません。また、定速制御モードは、車速が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

BTO45DP016

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

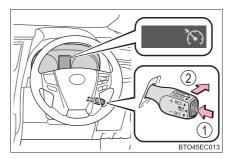
定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化にあわせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

① ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

OFF にするには再度スイッチを押します。

② 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

BTO45EC013

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。
定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。
エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえる
→ P. 270

制御を解除する・復帰させる
→ P. 271

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。(2AR-FE エンジン搭載車)

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。(2GR-FE エンジン搭載車)

●車速は約 50 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■速度設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。また、状況によってはマルチインフォメーションディスプレイに「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されることがあります。

●先行車がいないときに車速が約 40km/h 以下になった

●車速が約 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった、もしくはセンサーが正しく車両を検知できなかった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できない

●ワイパーが高速で作動した(ワイパーの設定を雨滴感知オート作動または高速作動にしたとき)

●パーキングブレーキが作動した

●急坂路で制御停車した

●プリクラッシュブレーキが作動した

●インテリジェントクリアランスソナーが作動した

●制御停車中に次を検出した

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

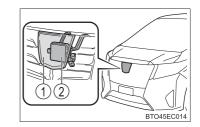
●TRC または VSC を OFF にした

●プリクラッシュブレーキが作動した

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御モードを正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）は解除されます。

① グリルカバー

② レーダーセンサー

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）の警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■**システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■**誤操作を防ぐために**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）を使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

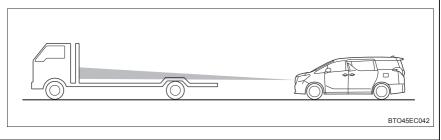
■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）を使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

- 歩行者や自転車などが混在している道路
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

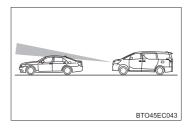
■**センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 272）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

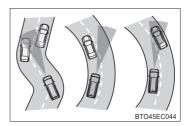
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

警告

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

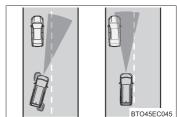
●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合(重い荷物を積んだときなど)

■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●先行車が急ブレーキをかけた場合

⚠警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

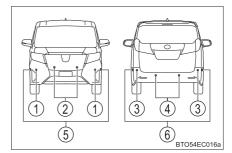
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）が効果を発揮できるように次のことをお守りください。
お守りいただかないと、センサーが正しく検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- センサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー（インテリジェントクリアランスソナー装着車）
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー
⑤ フロントサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト2装着車）
⑥ リヤサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト2装着車）

クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 86）

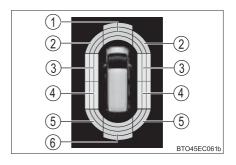
ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF を選択して、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から P))) を ON にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントセンサー作動表示★
② フロントコーナーセンサー作動表示
③ フロントサイドセンサー作動表示★
④ リヤサイドセンサー作動表示★
⑤ リヤコーナーセンサー作動表示
⑥ バックセンサー作動表示

■ ナビゲーション画面の表示（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

障害物を感知すると自動的に表示されます。

①クリアランスソナー表示

インテリジェントパーキングアシスト2★・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★非表示時

表示されないように設定することができます。（→P. 285）

: ブザー音ミュート（消音）スイッチ

ブザー音を一時的に消すことができます。

②割り込み表示

インテリジェントパーキングアシスト2★・パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★表示時

画面上に簡略表示されます。（右の画面はインテリジェントパーキングアシスト2の場合です。パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）表示時の割り込み表示については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

通常表示※1、※2	割り込み表示		障害物までのおおよその距離		
	インテリジェントパーキングアシスト2使用時※2	パノラミックビューモニター(左右確認サポート付)使用時※5	ー	フロントコーナー&フロントセンサー★&フロントサイドセンサー★	リヤコーナー&バックセンサー&リヤサイドセンサー★
(点灯)	(遅い点滅)	(遅い点滅)	遠い	フロントセンサー：約 100cm ～ 60cm	バックセンサー：約 150cm ～ 60cm
(点灯)	(点滅)	(点滅)		コーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm サイドセンサー：約 100cm ～ 40cm フロントセンサー：約 60cm ～ 45cm	コーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm サイドセンサー：約 100cm ～ 40cm バックセンサー：約 60cm ～ 45cm
(点灯)	(速い点滅)	(速い点滅)		コーナーセンサー：約 45cm ～ 35cm サイドセンサー：約 40cm ～ 20cm フロントセンサー：約 45cm ～ 35cm	コーナーセンサー：約 45cm ～ 35cm サイドセンサー：約 40cm ～ 20cm バックセンサー：約 45cm ～ 35cm
(点滅※3 または点灯※4)	(点灯)	(点灯)	近い	コーナーセンサー：約 35cm 以下 サイドセンサー：約 20cm 以下 フロントセンサー：約 35cm 以下	コーナーセンサー：約 35cm 以下 サイドセンサー：約 20cm 以下 バックセンサー：約 35cm 以下

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 イラストは説明のための例であり、表示により異なります（→ P. 281）

※2 インテリジェントパーキングアシスト2装着車では、センサー表示が灰色で表示されます。また、サイドエリアのスキャンが完了するまでの間は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。

※3 マルチインフォメーションディスプレイ

※4 ナビゲーション画面

※5 パノラミックビューモニター装着車にはサイドセンサーは装着されません。

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。

- フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約35cm 以下
- フロントサイドセンサー★、リヤサイドセンサー★が感知した障害物との距離が約 20cm 以下
- フロントセンサー★が感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

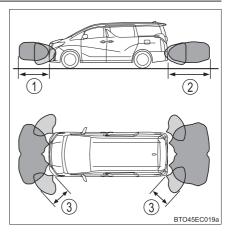
● ナビゲーションシステム装着車：→ P. 285
● ナビゲーションシステム非装着車：→ P. 549

障害物を感知できる範囲

① 約 100cm（約 1.0m）★

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

・感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。
・サイドエリアの障害物の感知については P. 287 を参照してください。
・障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

障害物を感知できる範囲を変更することができます。

● ナビゲーションシステム装着車：→ P. 285
● ナビゲーションシステム非装着車：→ P. 549

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 画面外の「設定・編集」にタッチする

2 画面内の「運転支援」を選択する

3 画面内の「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ 画面表示の ON・OFF（ソナー表示）

画面内の「ソナー表示なし」を選択する

- 選択するごとに､｢表示される｣と｢表示されない｣が切りかわります。
- 「表示されない」にすると、スイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の「切替え」を選択する

- フロントセンサー★：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。
- バックセンサー：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。

フロントセンサー★・バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

- ・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- ・シフトレバーが P 以外にあるとき
- ・車速が約 10km/h 以下のとき（シフトレバーが R にあるときは除く※）

※ インテリジェントクリアランスソナー装着車を除く

●フロントサイドセンサー★／リヤサイドセンサー★：

- ・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- ・シフトレバーが P 以外にあるとき
- ・車速が約 10km/h 以下のとき
- ・ハンドルを約 90 度以上切っているとき

●フロントセンサー★：

- ・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- ・シフトレバーが P・R 以外にあるとき
- ・車速が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー：

- ・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- ・シフトレバーが R にあるとき
- ・車速が約 10km/h 以下のとき（インテリジェントクリアランスソナー装着車）

●バックセンサー：

- ・エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき
- ・シフトレバーが R にあるとき

■クリアランスソナーの割り込み表示について★

→ P. 308

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。

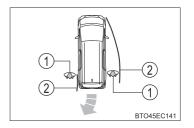
●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■巻き込み警報機能（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）

サイドエリアの障害物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。

① 障害物

② 計算した車両経路

■サイドエリアの障害物の感知について（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）

●サイドエリアの障害物は、センサーで直接感知するのではなく、車両前後のサイドセンサーで感知したあと、車両の位置を計算することで障害物の位置を算出します。そのためエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、しばらく走行してセンサーでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに障害物があっても感知できない場合があります。

●サイドエリアのスキャン中は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。（→ P. 281）

●サイドセンサーで車・人・動物などを感知したときは、車・人・動物などがサイドセンサーの感知範囲内から出ても感知している状態が継続します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 549）

⚠ 警告

■**クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車速が約 10km/h をこえないようにしてください

●センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください

●センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください

●マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示された場合、センサーの状態を確認してください。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

警告

■**サイドセンサーについて★**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●サイドエリアのスキャン（→ P. 287）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できない場合があります。

●サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は感知できません。

■**正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ●障害物を感知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- ●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- ●バンパーをぶつけたとき
- ●ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■**洗車時の注意**

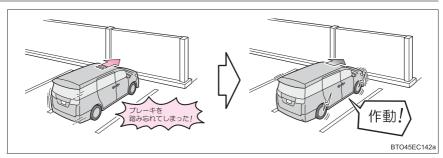
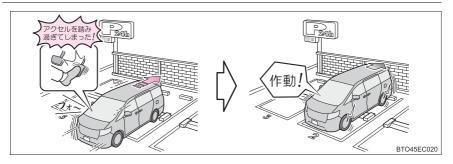
- ●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

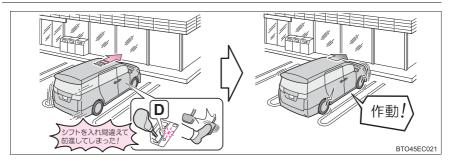
インテリジェントクリアランスソナー★

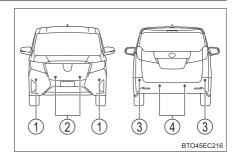
駐車時や極低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

システム作動例

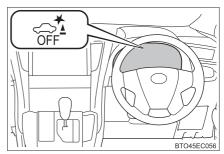
次のようなときに進行方向の障害物を感知してシステムが作動します。

◆ 極低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

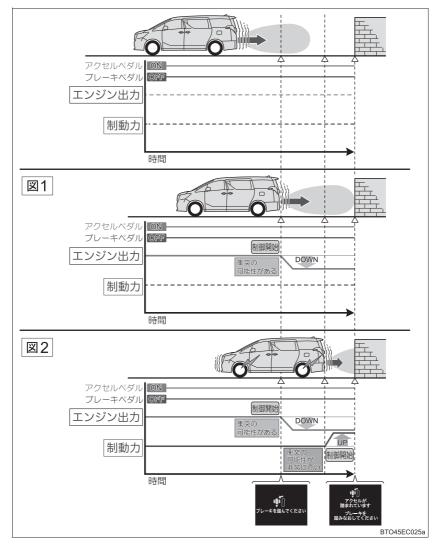
◆ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき

センサーの種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー

インテリジェントクリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」でインテリジェントクリアランスソナーの ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 86）

インテリジェントクリアランスソナーが OFF（停止）になっているときは、ICS OFF 表示灯が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、インテリジェントクリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」から をON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

作動について

インテリジェントクリアランスソナーは、衝突の可能性がある障害物を感知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 1）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）

作動条件について

■ 作動開始条件

ICS OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 301, 484）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

▶エンジン出力抑制制御

- ・インテリジェントクリアランスソナーを ON（作動）にしているとき
- ・車速が 15km/h 以下
- ・車両進行方向に障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
- ・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

▶ブレーキ制御

- ・エンジン出力抑制制御作動中
- ・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

▶エンジン出力抑制制御

- ・インテリジェントクリアランスソナーを OFF（停止）にした
- ・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
- ・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

▶ブレーキ制御

- ・インテリジェントクリアランスソナーを OFF（停止）にした
- ・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
- ・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

<table>
<tr><th>制御</th><th>状況</th><th>マルチインフォメーションディスプレイ表示</th><th>ICS OFF表示灯</th><th>ブザー</th></tr>
<tr><td>エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）</td><td>一定以上の加速ができない状況</td><td>加速抑制中です</td><td>消灯のまま</td><td>“ポーン”（単発音）</td></tr>
<tr><td>エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）</td><td>通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況</td><td rowspan="2">ブレーキを踏んでください</td><td rowspan="2">消灯のまま</td><td rowspan="2">“ポーン”（単発音）</td></tr>
<tr><td>ブレーキ制御作動中</td><td>急ブレーキが必要な状況</td></tr>
<tr><td>システム作動により車両停止</td><td>ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況</td><td>アクセルが踏まれています
ブレーキを踏みなおしてください</td><td>点灯</td><td>“ポーン”（単発音）</td></tr>
</table>

知識

■センサーの感知範囲について

インテリジェントクリアランスソナーの感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→ P. 284）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、インテリジェントクリアランスソナーは作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、インテリジェントクリアランスソナーが停止して、ICS OFF 表示灯が点灯します。

■システムの復帰について

システム作動によりインテリジェントクリアランスソナーが停止した場合に、インテリジェントクリアランスソナーを復帰させたい場合は、再度、インテリジェントクリアランスソナーを ON にし停止を解除（→ P. 294）するか、エンジンスイッチ をいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。
また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れ替わった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■センサーが感知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON・OFF に関係なく（→ P. 280）、インテリジェントクリアランスソナーを停止させていなければ（→ P. 294）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を感知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

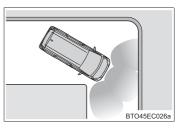
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

▶ 狭い道を走行するとき

BTO45EC026a

▶ 砂利道・草むらなどを走行するとき

BTO45EC027

●周辺環境の影響

・ 狭い道路を走行するとき
・ 砂利道・草むらなどを走行するとき
・ 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・ 道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・ 縦列駐車時
・ 地面にわだちや穴がある場合
・ 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・ 急な登坂路を走行するとき
・ 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響

・ センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・ 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

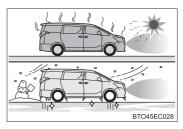
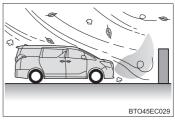
・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナーが誤って作動したときは

万一、踏切などでインテリジェントクリアランスソナーが誤って作動しても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

▶ 炎天下や寒冷時

▶ 風が強いとき

●周辺環境の影響

・ 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
・ 車、二輪車、自転車、歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合
・ センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・ 風が強いとき
・ 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■インテリジェントパーキングアシスト２作動中のインテリジェントクリアランスソナーについて

→ P. 305

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で５秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ICS 現在使用できません」が表示され ICS OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示がでるとき、センサーが汚れてなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化をおこなってください。(→ P. 301)

■マルチインフォメーションディスプレイに「ICS故障 販売店で点検してください」が表示され ICS OFF 表示灯が点滅したときは

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検してください。

警告

■**安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。インテリジェントクリアランスソナーは衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- インテリジェントクリアランスソナーは、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■**システムを正しく作動させるために**

センサー（→ P. 294）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■**サスペンションの取り扱いについて**

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

注意

■**センサーの故障を防ぐために**

●センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■**不要な作動を防ぐために**

次のときは、インテリジェントクリアランスソナーを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合

●船舶・トラックなどへ積載する際の進入時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合

●積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引フックを取り付けた場合

インテリジェントパーキングアシスト2★

インテリジェントパーキングアシスト 2 について

■ 機能概要

車両後方の映像に後退操作の参考になるガイド線を合成して表示することにより、後退駐車を補助するシステムです。
アシストモードでは、ハンドルを自動で操作することにより、画面上で確認した目標駐車位置付近への後退駐車や縦列駐車からの出庫を補助します。（シフトレバー操作、および前進・後退時の速度調整は自動で行いません）

● インテリジェントパーキングアシスト2は自動駐車装置ではありません。後退駐車や縦列駐車からの出庫を行うための補助装置です。

● 設定した目標駐車位置付近に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

■ インテリジェントクリアランスソナーとの連携

インテリジェントパーキングアシスト 2 が作動しているときは、インテリジェントクリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、緊急ブレーキが作動します。（→ P. 305）

警告

● 後退または前進するときは、必ず車両の後方や前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退または前進してください。

● 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチ（→ P. 306）を押してシステムを解除してください。

● カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。（→ P. 347, 348）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリジェントパーキングアシスト２のアシストモードと機能一覧

アシストモード	駐車種類	機能	機能概要	参照ページ
車庫入れアシストモード	並列駐車	バック駐車機能	後退開始位置からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。 また、認識した駐車区画から目標を選択・変更できます。	P. 322
		前進誘導機能	目標駐車位置の正面に停車した状態からアシストを開始し、後退開始位置への案内を含めたバック駐車アシストを行います。	P. 321
縦列駐車アシストモード	縦列駐車	縦列駐車機能	目標駐車位置の検出と後退開始位置を案内し、後退からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。	P. 331
縦列出庫アシストモード	縦列出庫	縦列出庫機能	縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。	P. 339

知識

■インテリジェントパーキングアシスト２作動中のインテリジェントクリアランスソナーについて

インテリジェントパーキングアシスト２作動中は、インテリジェントクリアランスソナーの ON ／ OFF（→ P. 294）に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、インテリジェントクリアランスソナーのエンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

●インテリジェントクリアランスソナー作動後はインテリジェントパーキングアシスト２の作動を一時的に中止し、インテリジェントクリアランスソナーの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。（→ P. 297）

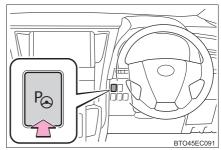
●インテリジェントクリアランスソナーが解除されたあと、インテリジェントパーキングアシスト２が作動可能な場合は、マルチインフォメーションディスプレイにシフト操作を促すメッセージが表示されます（→ P. 344）。マルチインフォメーションディスプレイの表示に従いシフトレバーを操作し、再度 IPA スイッチ（→ P. 306）を押すことでインテリジェントパーキングアシスト２の作動を継続できます。

●インテリジェントクリアランスソナーの作動による中止が3回発生した場合、インテリジェントパーキングアシスト２の作動を解除します。

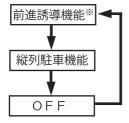
アシストモードの切りかえ

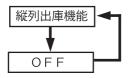
■ IPA スイッチによる切りかえ

スイッチを押す

機能の切りかえ、アシストモードの解除／中止／再開ができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モード、シフトレバーが P、R 以外で車速が約 15km/h 以下のとき、IPA スイッチを押すごとに、次のように機能が切りかわります。

選択中の機能がマルチインフォメーションディスプレイの作動表示部（→ P. 307）に表示されます。

▶ シフトレバーが P 以外で IPA スイッチを押したとき

※ 前進誘導機能の作動条件（→ P. 327）を満たしたときに切りかえできます。作動条件を満たしていない場合は、縦列駐車機能に切りかわります。

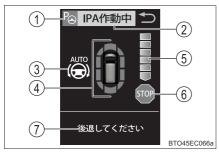
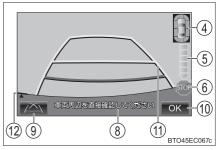
▶ シフトレバーが P で IPA スイッチを押したとき

■ シフトレバー操作による機能の切りかえ（シフトリバース連動機能 ON 時）

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能に切りかわります。

ガイド画面について

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーション画面にガイド画面が表示されます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ表示

▶ ナビゲーション画面

① IPA スイッチアイコン

ハンドルの自動操作が作動しているとき、緑色に点灯します。

② 作動表示部

インテリジェントパーキングアシスト2の作動状態を示します。

③ ハンドル AUTO 操作表示

ハンドルの自動操作が作動しているとき、表示されます。

④ クリアランスソナー表示

→ P. 281

⑤ アシスト段階表示

車両停止位置・アシスト終了位置までの段階を目もりの数で表示します。

⑥ ストップ表示

点灯したときは、すみやかにブレーキペダルを踏んで車両を停止してください。

⑦ アドバイス表示

表示内容に従って操作を行ってください。

⑧ 注意メッセージ

表示内容に従って操作を行ってください。

⑨ 表示モード切りかえスイッチ

ガイド線の表示モードを切りかえることができます。(→ P. 311)

⑩ ＯＫ スイッチ

バック駐車機能使用時に目標駐車位置を確定させる際に使用します。(→ P. 326)

⑪ ガイド線

→ P. 314, 319

⑫ カメラ取り付け状態確認線

カメラの取り付け状態を確認する線です。(→ P. 308)

知識

■メーター内のインテリジェントパーキングアシスト2表示灯(→ P. 74)について

インテリジェントパーキングアシスト2によるハンドルの自動操作が作動しているときに点灯します。制御が終了したときは、しばらく点滅したあとに消灯します。

■クリアランスソナーの割り込み表示について

インテリジェントパーキングアシスト2作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF(→ P. 280)に関係なく、クリアランスソナーが障害物を感知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。(→ P. 281)

注意

■カメラ取り付け状態確認線がずれている場合

ナビゲーション画面に映っているバンパーの端がカメラ取り付け状態確認線と一致していないときは、カメラの向きがずれています。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アシストモードの解除・中止

次のときにアシストモードが解除または、中止されます。

▶アシストが解除されるとき
- ・画面を切りかえた
- ・システムの温度保護機能が働いた
- ・システム異常
- ・車庫入れアシストモードで目標駐車位置を確定せずに後退した

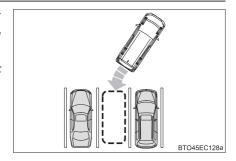
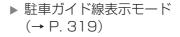
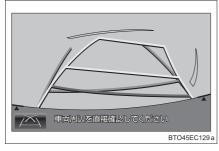
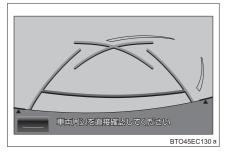
アシストが解除されたときは、ハンドルをしっかり持って、ブレーキペダルを踏んで車両を停車してください。
すでにシステムは解除されていますので、はじめからやり直すか、引き続き駐車するときは通常どおりハンドルを操作してください。

▶アシストが中止されるとき
- ・ハンドルを操作した
- ・車速が速すぎる
- ・インテリジェントクリアランスソナーが作動した

アシストが中止されたときは、IPA スイッチを押すことでアシストを再開できます。

並列駐車（車庫入れ）時に使用する

車庫入れなど並列駐車をするときは、次のいずれかのモードを使用します。

車庫入れアシストモードのみ、ハンドルの自動操作を行います。

▶ 進路表示モード（→ P. 314）

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

▶ 駐車ガイド線表示モード（→ P. 319）

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（進路表示モードや車庫入れアシストモードを必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。

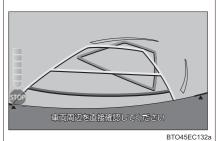
▶ 距離目安線表示モード

BTO45EC131a

距離目安線のみ表示されるモードです。

ガイドを必要としない方はご使用ください。

▶ 車庫入れアシストモード（→ P. 321）

BTO45EC132a

画面上で確認した目標駐車位置付近に駐車できるように、ハンドル操作を自動で行うことにより、車庫入れ駐車を補助するモードです。

■ **表示モードの切りかえかた**

表示モード切りかえスイッチ（→ P. 307）にタッチするごとに「進路表示モード」→「駐車ガイド線表示モード」→「距離目安線表示モード」の順で表示モードが切りかわります。
また、アシストモードの切りかえは IPA スイッチまたは、シフトレバーで行います。（→ P. 306）

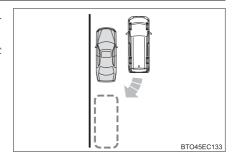
縦列駐車時に使用する

縦列駐車をするときは、次のいずれかのモードを使用します。

縦列駐車アシストモードのみ、ハンドルの自動操作を行います。

BTO45EC133

▶ 進路表示モード

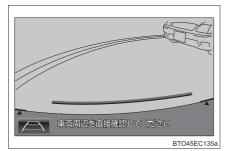
BTO45EC143

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

▶ 駐車ガイド線表示モード
（→ P. 330）

BTO45EC134a

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

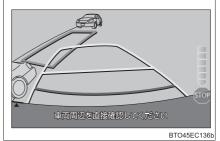
車両感覚に慣れた方（縦列駐車アシストモードを必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。

▶ 距離目安線表示モード

距離目安線のみ表示されるモードです。

ガイドを必要としない方はご使用ください。

■ 表示モードの切りかえかた

→ P. 311

▶ 縦列駐車アシストモード
(→ P. 331)

画面上で確認した目標駐車位置付近に駐車できるように、ハンドル操作を自動で行うことにより、縦列駐車を補助するモードです。

並列駐車のしかた（進路表示モード）

■ 画面の見方（ナビゲーション画面）

シフトレバーを R にすると使用することができます。
シフトリバース連動機能（→ P. 328）が ON のときは、シフトレバーを R にするとバック駐車機能（→ P. 322）が作動します。
バック駐車機能を作動させずにナビゲーション画面にガイド線のみを表示させたい場合は、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「P リバース連動」を OFF にしてください。（→ P. 86）

① 予想進路線（黄色）
車が後退していく進路の目安を示します。

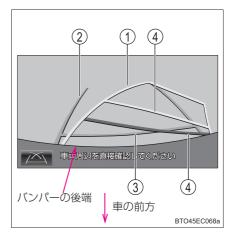
ハンドル操作と連動します。

② 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・実際の車幅より広く表示しています。
・ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっているときは、予想進路線と重なります。

③ 距離目安線（青色 約 0.5m）
車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。
・約 0.5m 先を示します

④ 距離目安線（赤色 約 0.5m）（黄色 約 1m）
車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。
・ハンドル操作と連動します。予想進路線とともに動きます。
・それぞれの中心位置で、約 0.5m 先（赤色）・約 1m 先（黄色）を示します。
・ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっていないときは誤差が生じます。

上の画面では、距離目安線が示す実際の距離（赤色：約 0.5m 先、黄色：約 1m 先）より、右側は近くの位置に、左側は遠くの位置に表示されます。

⚠ 警告

- 道路の状況（段差・勾配など）や乗車人数・積載量により、画面のガイド線の表示位置は変化します。必ず後方および周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっているときに車幅延長線と予想進路線がずれる場合、初期化が正しく行われていないことが考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ 駐車する

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

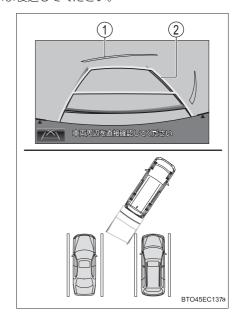
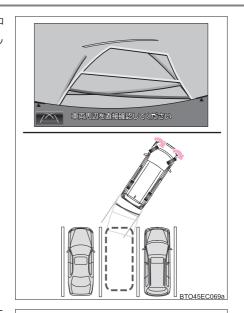
以下の手順は、車両右側に駐車する場合です。

1 進路表示モードにする（→ P. 311）

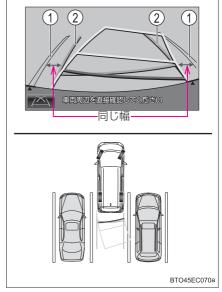
2 シフトレバーを R にする

シフトリバース連動機能（→ P. 328）を OFF にしていないと、目標駐車位置に青の枠が表示されますが、そのまま後退してください。

① 駐車場の区画線

② 予想進路線

3 予想進路線が目標駐車位置の中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する

4 車の後部が目標駐車位置の中に入ったら、車幅延長線と目標駐車位置左右の区画線との間隔が、車の近くの位置で同じくらいになるようにハンドルを操作する

①駐車場の区画線

②車幅延長線

5 車幅延長線と駐車場の区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐ(直進状態)にして、車が目標駐車位置に全部入るまで、ゆっくり後退する

6 適切な位置で停止し、駐車を終える

知識

●駐車するときは、画面の映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず直接確認してください。

●距離目安線と目標駐車位置の後端が画面では平行に見えても、実際には平行ではないことがあります。

●駐車場の区画線が片側しかないときは、車幅延長線と目標駐車位置の左端（右端）が画面では平行に見えても、実際には平行ではないことがあります。

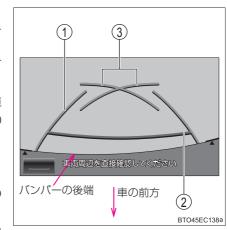
並列駐車のしかた（駐車ガイド線表示モード）

■ 画面の見方（ナビゲーション画面）

シフトレバーを R にすると使用することができます。
シフトリバース連動機能（→ P. 328）が ON のときは、シフトレバーを R にするとバック駐車機能（→ P. 322）が作動します。
バック駐車機能を作動させずにナビゲーション画面にガイド線のみを表示させたい場合は、マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で「P⊗リバース連動」を OFF にしてください。（→ P. 86）

① 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・実際の車幅より広く表示しています

② 距離目安線（赤色 約 0.5m）車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。
・約 0.5m 先を示します。

③ 駐車ガイド線（青色）
ハンドルをいっぱいまでまわして後退（もっとも小まわり）したときの進路の目安を示します
・駐車時にハンドルを操作する位置の目安となります。

⚠ 警告

- 道路の状況（段差・勾配など）や乗車人数・積載量により、画面のガイド線の表示位置は変化します。必ず後方および周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- 車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ 駐車する

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

以下の手順は、車両右側に駐車する場合です。

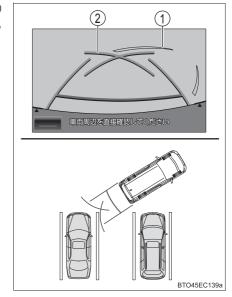
1 駐車ガイド線表示モードにする（→ P. 311）

2 シフトレバーを R にする

シフトリバース連動機能（→ P. 328）を OFF にしていないと、目標駐車位置に青の枠が表示されますが、そのまま後退してください。

3 駐車ガイド線が目標駐車位置の左端の区画線に合うまで後退したら止まる

① 駐車場の区画線

② 駐車ガイド線（青色）

4 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

5 車が目標駐車位置と平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にする。画面を参考に最適な位置まで後退し、駐車を終える

並列駐車のしかた（車庫入れアシストモード）

■ 機能概要

車庫入れアシストモードは次の 2 つの機能があります。

▶ 前進誘導機能（→ P. 323）

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、前進誘導機能を使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

駐車スペースに区画線があるときに使用できます。

① 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、IPA スイッチを押して、前進誘導機能を選択

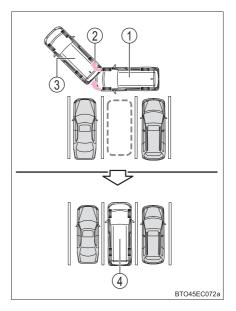
② ハンドルの自動操作が作動します。

③ 後退開始位置に着いたことを音により案内します。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までの間に、ハンドルの切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

▶ バック駐車機能（→ P. 326）

目標駐車位置の前方で停車し、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能を使用することができます。（シフトリバース連動機能 ON 時）
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

駐車スペースに区画線があるときに使用できます。

① 目標駐車位置の前方で停止し、シフトレバーを R にする

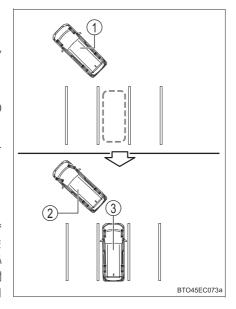
シフトリバース連動機能によりインテリジェントパーキングアシスト2が作動します。

② ハンドルを操作して、お好みの駐車スペースを選択する

目標駐車位置を確定するとアシストが開始されます。

③ 駐車完了

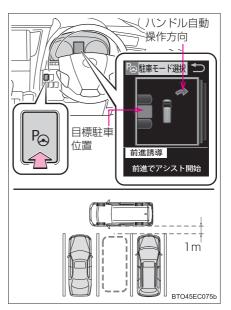
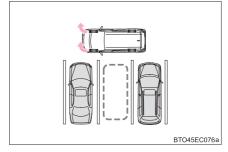
アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、② でアシストを開始してから駐車完了までの間に、ハンドルの切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

■ **前進誘導機能を使用して駐車する**

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「前進誘導」に切りかわったことを確認する

- 表示内のハンドル自動操作方向の矢印の向き、および目標駐車位置を確認してください。
- IPA　スイッチを、押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 306)
- シフトレバーが D※以外、または車速が検知されたときは、IPA スイッチを押しても前進誘導の表示には切りかわりません。

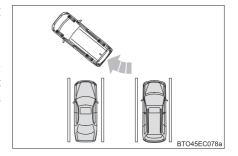
※ D は M ポジション（2AR-FE エンジン搭載車）または、S ポジション（2GR-FE エンジン搭載車）を含みます。

- 方向指示レバー（→ P. 224）を操作して車両の左右いずれか駐車したい方向を選択できます。

2 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進すると「“ピー”」という音が鳴り、アシストが開始されます。

● ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示(→ P. 307)とアシスト段階表示(→ P. 307)が表示されます。

● アシストを中止するには、IPA スイッチを押します。

● 車速が速すぎると、「“ピピッ”」という音が鳴り、アシストが中止されます。

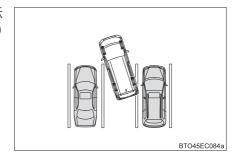
3 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示(→ P. 307)が点灯したら停車する

● 前進したあと、区画線を認識できなかった場合は、アシストが中止され「“ピピッ”」という音が鳴ります。

4 シフトレバーを R にする

5 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

▶ 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合:手順 6 へ
切り返しが不要な場合は手順:12 へ(→ P. 325)

6 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

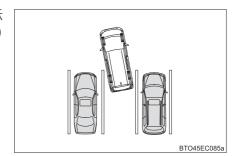
BTO45EC084a

7 シフトレバーを D ※ にする

※ D は M ポジション（2AR-FE エンジン搭載車）または、S ポジション（2GR-FE エンジン搭載車）を含みます。

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

8 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

9 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

BTO45EC085a

10 シフトレバーを R にする

11 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 6 から 11 をくり返す場合があります。

12 車両がほぼ目標駐車位置に入り、「“ピー”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

車庫入れアシストモードが終了します。

- ブザーは安全のため、目標駐車位置より若干手前で鳴ります。また、その時点でシステムの作動も終了するため、ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退し、希望の位置に駐車します。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

■ バック駐車機能を使用して駐車する

シフトリバース連動機能（→P. 328）がＯＮのとき、シフトレバーをＲにするとバック駐車機能が作動し、複数の駐車区画から目標を選択・変更することができます。

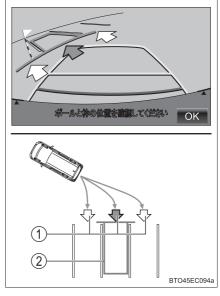
車庫入れアシストモードで使用できます。

1 シフトレバーをＲにする

駐車枠の候補が表示されます。

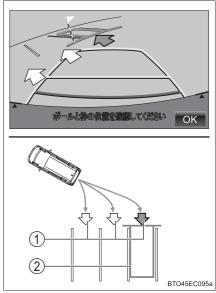
① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車枠

2 ハンドルに左右に力を加えることで目標駐車位置を変更する

① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車位置

3 ナビゲーション画面の OK （→ P. 307）にタッチして目標を確定し、ゆっくりと後退すると、「“ピー”」という音が鳴りアシストが開始されます。

ナビゲーション画面の OK にタッチしたあとの手順は前進誘導機能を使用して駐車する手順の 5 以降と同様です。（→ P. 324）

知識

■車庫入れアシストモードの作動条件

●機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。

●車速が約 15km/h 以上のときは、使用することができません。

●白線認識により駐車場の区画線を検出し、駐車区画を特定しております。
正常に検出できなかった場合（→ P. 346）車庫入れアシストモードを作動できません。

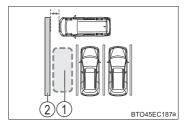
■前進誘導機能について

●フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 354）は、案内されません。

●駐車車両がない場合は、駐車位置を特定できないため、前進誘導機能を作動できません。

●駐車スペースの状況により、車両前方に駐車に必要なスペースがない場合は、目標駐車位置に到達できないことがあります。

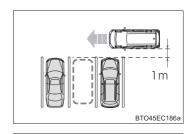
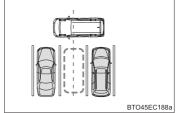
①目標駐車位置

②壁

■前進誘導機能を使用するときのコツ

1 駐車車両と約 1m 間隔をあけて目標駐車位置に近づいてください。
駐車車両との間隔があきすぎていると、フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーが駐車車両を検出できない場合があります。

BTO45EC186a

2 目標駐車位置の中央が真横に見える位置で停車してください。
また、IPA スイッチを押すときは、車両が完全に停車した状態で押してください。

BTO45EC188a

■バック駐車機能について

●検出した駐車区画が 1 つの場合は、目標駐車位置の選択・変更はできません。
●検出した駐車区画が複数の場合は、最も適した駐車区画を目標駐車位置としてシステムが選択します。(最初にシフトレバーを R にしたときに選択されます)

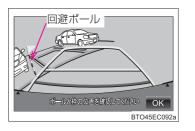
■シフトリバース連動機能を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの「設定」からシフトリバース連動機能の ON ／ OFF を設定できます。(→ P. 86)

警告

■回避ポールについて

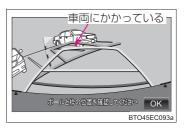
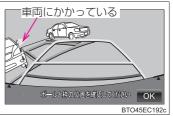
回避ポールは目安です。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら、慎重に後退してください。

BTO45EC092a

⚠注意

●青の枠や回避ポールが駐車車両にかかっているなど、目標駐車位置を誤認識している場合は、駐車位置を変更してください。

BTO45EC093a

●青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がなく、回避ポールが駐車車両や壁などにかかっていないことを必ず確認してください。青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある、または回避ポールが駐車車両や壁などにかかっている場合は、接触するため車庫入れアシストモードは使用しないでください。

BTO45EC192c

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、車庫入れアシストモードは使用しないでください。

縦列駐車のしかた（駐車ガイド線表示モード）

■ 画面の見方

→ P. 319

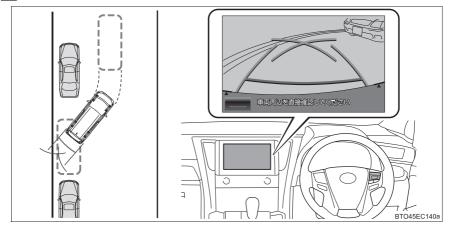
■ 駐車する

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

以下の手順は、車両左側に駐車する場合です。

1 駐車ガイド線表示モードにする（→ P. 311）

2 シフトレバーを R にする

3 駐車ガイド線が駐車したい位置の左端に合うまで後退したら止まる

4 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

5 車が路肩と平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にする画面を参考に最適な位置まで後退し、駐車を終える

注意

車の左前端を前方に駐車している車にぶつけないよう注意して、ゆっくり後退してください。

縦列駐車のしかた（縦列駐車アシストモード）

■ 機能概要

駐車スペースが検出できれば、アシスト開始位置までの前進を案内し、アシストを開始する縦列駐車機能を使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

① IPA スイッチを押して、縦列駐車機能を選択

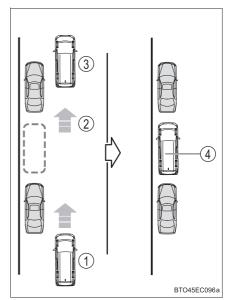
② 駐車スペースを検出

③ 後退開始位置に着いたことを音により案内し、アシスト可能な位置へ車両を誘導します。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

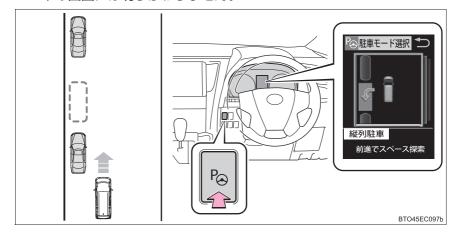
④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

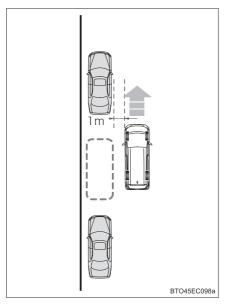
駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までの間に、ハンドルの切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

■ **縦列駐車機能を使用して駐車する**

1 車速が約 15km/h 以下で、目標駐車位置の手前で IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列駐車」に切りかわったことを確認する

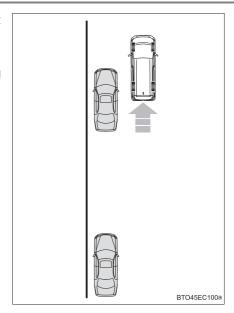
● IPA スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 306)

● 車速が約 15km/h 以上のときは、IPA スイッチを押しても縦列駐車の画面には切りかわりません。

2 道路（または路肩）と平行で、駐車車両との間隔が約1mの位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

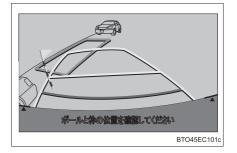
- ゆっくり前進してください。
- 駐車スペースの探索が開始されます。

  スペース探索中に、方向指示レバー（→ P. 224）で車両左右の駐車スペースを選択できます。
- 機能を中止する場合は、IPA スイッチを 1 回押して、機能をOFF にしてください。

3 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

駐車スペースを検出すると画面が切りかわります。

BTO45EC100a

4 シフトレバーを R にする

5 青の枠が駐車したい場所に合っていることを確認する

BTO45EC101c

[6] 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退すると「“ピー”」という音が鳴り、アシストが開始されます。

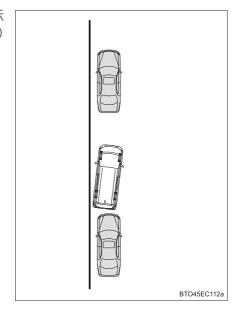
● ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示(→ P. 307)とアシスト段階表示(→ P. 307)が表示されます。

● アシストを中止するには IPA スイッチを押します。

● 後退車速が速すぎると、「“ピピッ”」という音が鳴り、アシストが中止されます。

● 画面に表示されている青の枠は自車の大きさとほぼ同じサイズで表示されます。(目標駐車位置設定時に表示される青の枠は、一般的な路面の駐車枠の大きさで表示されます)

▶ 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順[7]へ
切り返しが不要な場合：手順[13]へ

[7] 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示(→ P. 307)が点灯したら停車する

[8] シフトレバーを D ※ にする

※ D は M ポジション(2AR-FE エンジン搭載車)または、S ポジション(2GR-FE エンジン搭載車)を含みます。

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

9 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

10 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

11 シフトレバーを R にする

12 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 7 から 12 をくり返す場合があります。

13 車両がほぼ目標駐車位置に入り、「“ピー”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

縦列駐車アシストモードが終了します。

- 停車したあと、任意で前進または後退し、希望の位置に車両を移動してください。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■縦列駐車機能の作動条件

- 縦列駐車機能を正しく動作させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車速が約 15km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 354）は、案内されません。
- 車速が約 15km/h 以上になる、または IPA スイッチにより機能を OFF にするまで案内が継続されます。

■IPA スイッチを押すタイミングについて

縦列駐車機能を使用して駐車するときの手順で、次のときもアシストモードが作動することがありますが、その際はマルチインフォメーションディスプレイの表示に従って駐車操作を行ってください。

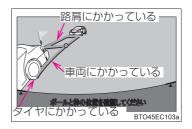
- 手順 1 で、目標駐車位置の手前を通りこして IPA スイッチを押した
- IPA スイッチを押していない状態のまま、手順 3 の位置まで車両を移動し、シフトレバーを R にしてから IPA スイッチを押した

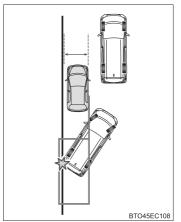
⚠警告

■**回避ポールについて**

→P. 328

⚠注意

●青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がなく、回避ポールが駐車車両や壁などにかかっていないことを必ず確認してください。
青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある、または回避ポールが駐車車両や壁などにかかっている場合は、接触するため縦列駐車アシストモードは使用しないでください。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車アシストモードは使用しないでください。

●駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してしてシステムを解除してください。

●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

●駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。

縦列出庫のしかた（縦列出庫アシストモード）

■ 機能概要

縦列駐車から出庫する際、出庫したい方向を選択することで発進可能な位置までのハンドル操作をアシストします。

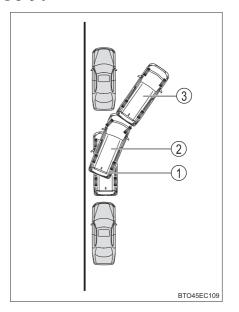
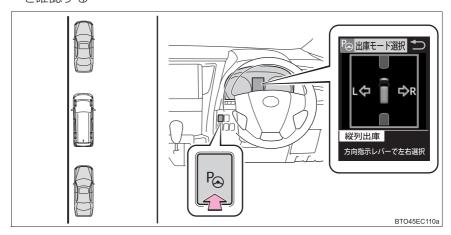
BTO45EC109

① シフトレバーが　P　の状態でIPA スイッチを押して、縦列出庫を選択し、方向指示レバーで希望の出庫方向を選択する

② ハンドルの自動操作が作動します。

③ 発進可能な位置に到達したことを音で案内します。

駐車スペースの状況により、② でハンドルの自動操作が開始してから発進可能な位置に到達するまでの間に、ハンドルの切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

■ **縦列出庫機能を使用して出庫する**

1 シフトレバーが P の状態で IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列出庫」の画面に切りかわったことを確認する

2 方向指示レバー（→ P. 224）を操作して左右いずれか出庫したい方向を選択する

3 表示内のアドバイス表示（→ P. 307）に従って、シフトレバーを D※、または R にする

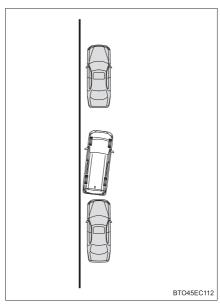
手順 4 以降は、方向指示レバーで出庫方向を選択後、アドバイス表示に「シフト→ [R]」が表示されたときの場合です。

※ D は M ポジション(2AR-FE エンジン搭載車)または、S ポジション(2GR-FE エンジン搭載車）を含みます。

4 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退すると「“ピー”」という音が鳴り、アシストが開始されます。

- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示(→ P. 307)とアシスト段階表示(→ P. 307)が表示されます。
- アシストを中止するには IPA スイッチを押します。
- 後退車速が速すぎると、「ピピッ」という音が鳴り、アシストが中止します。

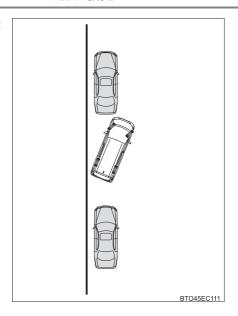
5 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

BTO45EC112

6 シフトレバーを D※ にする

※ D は M ポジション（2AR-FE エンジン搭載車）または、S ポジション（2GR-FE エンジン搭載車）を含みます。

7 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

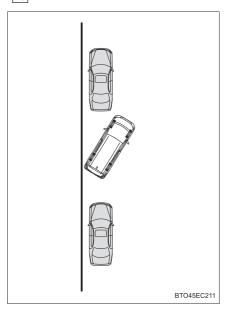
▶ 一度で出庫できず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ
切り返しが不要な場合：手順 14 へ（→ P. 342）

8 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

（→ P. 307）

9 シフトレバーを R にする

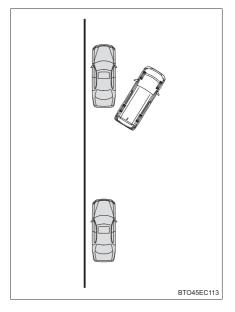
10 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 5 から 10 をくり返す場合があります。

11 「“ポン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 307）が点灯したら停車する

12 シフトレバーを D ※ にする

※ D は M ポジション(2AR-FE エンジン搭載車)または、S ポジション(2GR-FE エンジン搭載車)を含みます。

13 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

14 車両がほぼ出庫可能位置に到達し、「“ピー”」という音が鳴り、アシストが終了します。
そのままハンドルを持ち、前進してください。

知識

■縦列出庫機能について

- アシスト中に、運転者が出庫可能と判断しハンドルを操作すると、その位置でアシストを中止します。
- 車両の前方に駐車車両がない場合、または車両の前方と駐車車両との間隔があきすぎている場合は、アシストを使用できません。

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

インテリジェントパーキングアシスト2が作動できないときや、作動が解除または中止されたときなどにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。

メッセージ	状況・対処方法
この環境では使用できません	**前方に車両がない／アシストの必要がない** → 前方に車両または障害物があり、出庫に必要なスペースがある環境で使用してください。
左方向に駐車できません **右方向に駐車できません** **駐車スペースを検出できませんでした**	**・駐車枠を認識できない** **・駐車方向に必要なスペースがない** → 駐車枠があり、駐車可能な場所で使用してください。
IPA システムチェック **販売店で点検してください**	**システムに異常があるおそれがある** →エンジンスイッチをいったんOFFにしてからイグニッション ON モードにしてください。再度表示される場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。
現在使用できません	**パワーステアリング装置の一時的な加熱** → エンジンスイッチをいったん OFF にし、しばらくしてからイグニッション ON モードにしてお使いください。
	エンジンを始動していない → エンジンを始動してください。
	センサー部に氷・雪・泥などが付着している → 氷・雪・泥などを取り除いてください。
	センサー部が凍結している → 解ければ正常に復帰します。
	車速が速すぎる → ブレーキペダルを踏み、約 15km/h 以下に減速してください。
	バッテリーを脱着した →約35km/h以上の車速で5秒以上直進走行してください。
バックドアを閉じてから使用してください	**シフトレバーが R のとき、バックドアが開いている** → バックドアを閉めてください。

メッセージ	状況・対処方法
ハンドル操作でアシスト中止 **Pスイッチでアシスト再開**	**ハンドルの自動操作が作動しているときにハンドルを操作した** →ハンドルの自動操作が作動しているときは、ハンドルに手を添えて使用してください。
速度が速すぎるため使用できません	**アシスト開始時の車速が速い** →ブレーキペダルを踏み、約 15km/h 以下に減速してください。
速度超過でアシスト中止 **Pスイッチでアシスト再開**	**アシスト中の車速が速い** →ブレーキペダルを踏み、約 15km/h 以下に減速してください。
Pスイッチでアシスト再開	**インテリジェントクリアランスソナーの作動により、アシストが中止した** →P. 305
後方の障害物に接近 **シフト→ [D] にしてください**	
前方の障害物に接近 **シフト→ [R] にしてください**	
アシストを中止しました **駐車枠を認識できません**	**駐車スペース付近に駐車枠を認識できない** →駐車枠があるところで使用してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「IPA システムチェック 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

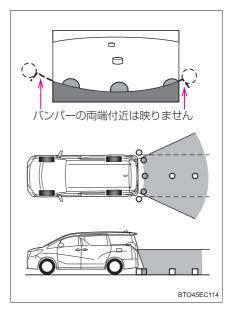
■ インテリジェントパーキングアシスト２作動中にナビゲーション画面が黒くなったときは

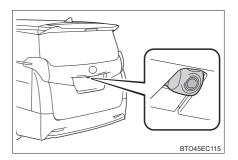
無線の電波による影響を受けているか、システムになんらかの異常が発生しているおそれがあります。
無線のアンテナをカメラの近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、エンジンスイッチを一度 OFF にしてから、再度エンジンを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

使用上の注意点について

■ 画面に映る範囲について

バンパー後端から車の後方（右図の範囲）が映ります。

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラに映る範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- インテリジェントパーキングアシスト2のカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

■ カメラについて

ナンバープレートの上側に取り付けられています。

- カメラのお手入れについて

  カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像が得られません。
  水滴、雪、泥などの汚れが付着したときは十分な量の水でカメラの汚れを洗い流し、カメラのレンズを水で湿らせた柔らかい布でふき取ってください。

■ 白線認識が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、路面の駐車枠を検出することができない場合があります。

- 白線のない駐車場（駐車枠がロープ、ブロックなどでつくられている場合）
- 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に黄色線など）
- 路面の駐車枠線が黄色など白以外の色のとき
- 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- 積雪や融雪剤があるとき
- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
- カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

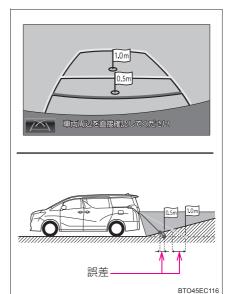
- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 勾配がついている駐車場
- 駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
- 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■ 画面と実際の路面との誤差について

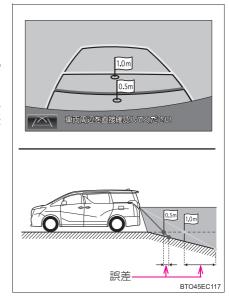
距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面で設定した目標駐車位置や、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

● 上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂に障害物があった場合には、実際より遠くにあるように見えます。

同様にガイド線と実際の路面上の進路や目標駐車位置にも誤差が生じます。

● 下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂に障害物があった場合には、実際より近くにあるように見えます。

同様にガイド線と実際の路面上の進路や目標駐車位置にも誤差が生じます。

■ 立体物が近くにあるとき

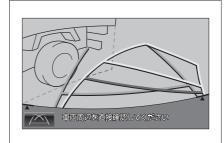
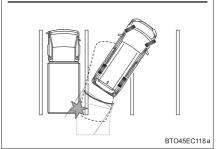
画面のガイドは平面物（道路など）を対象にしています。
張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、以下のことに注意して、ぶつからないようにしてください。

● 予想進路線について

予想進路線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。

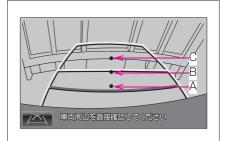
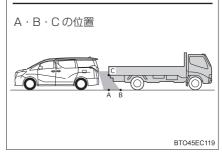
画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えますが、実際には荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

このように予想進路線が障害物の近くを通るときは、後方や周辺の安全を直接確認してください。

BTO45EC118a

● 距離目安線について

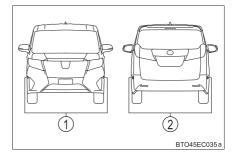
距離目安線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。

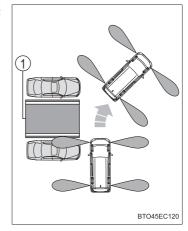
後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により B の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には A の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では A、B、C の順に近く見えますが、実際の距離はA とC は同じ距離で、B は A と C より遠い距離にあります。

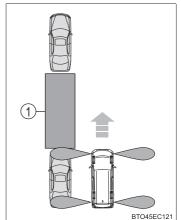
A・B・C の位置

■ **センサーについて**

センサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

① フロントサイドセンサー

② リヤサイドセンサー

知識

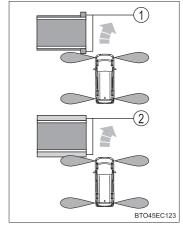
●車庫入れアシストモード時のセンサー感知範囲について

①目標駐車位置

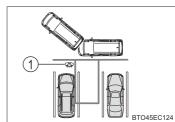
●縦列駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

①目標駐車位置

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。また、駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

① 柱

② 壁

●歩行者などを検出して目標駐車位置がずれることがあります。

① 歩行者

警告

- インテリジェントパーキングアシスト2を過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または、後退してください。
- ナビゲーション画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 前進または、後退するときは、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進または、後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車区画のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
  - ・ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子様がハンドルに近づかないよう注意してください。
  - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
  - ・駐車場以外の場所
  - ・砂地、砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場
  - ・傾斜、段差のある平坦でない駐車場
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
  - ・目標駐車位置（青の枠の中）や自車と目標駐車位置との間に障害物があるとき
  - ・人や車両などの通行量の多いとき
  - ・駐車不可能な場所（車両が入らない程狭い。崖など）
  - ・カメラのレンズの汚れ、西日、影、雪などで画面が見にくいとき
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

● 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
- タイヤが極端に磨耗していたり、空気圧が低いとき
- 極端に重いものを積んでいるとき
- 車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
- 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
- タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

上記の場合以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

● インテリジェントパーキングアシスト２が正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
- カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
- カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷付き、映像に悪影響をおよぼすおそれがあります。
- カメラ部に有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- カメラ部をぶつけたときや、画面に表示されるカメラ取り付け状態確認線（→ P. 308）がバンパー端に一致していないときは、カメラの位置、取り付け角度がずれているおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高水圧のためカメラの故障の原因となることがあります。

⚠警告

- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
  - ・センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - ・高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - ・センサーに氷、雪、泥などが付着したときは、画面に「現在使用できません」と表示されることがあります。センサー部についた異物を取り除いてください。
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
  - ・サイドエリアのスキャン（→ P. 287）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できません。
  - ・サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は感知できません。
  - ・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）。とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、駐車車両があっても感知しないことがあります。
  - ・センサーを手でふさいだとき
  - ・車両姿勢が大きく傾いたとき
  - ・炎天下や寒冷時
  - ・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
  - ・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
  - ・雨や水しぶきがかかったとき
  - ・市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に付けたとき
  - ・センサーに駐車車両が近付きすぎたとき
  - ・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにも関わらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - ・センサーが感知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

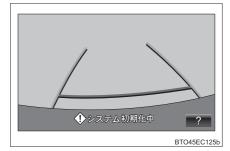
システム初期化について

■ 初期化が必要なとき

次の場合には、必ず初期化作業を行ってください。

● バッテリーを脱着したとき

● シフトレバーをRにして、システム初期化中画面が表示されたとき（バッテリー能力の低下など）

BTO45EC125b

■ 初期化の作業

車を止めた状態で、ハンドルを左いっぱいにまわしたあと、右いっぱいにまわします。（左右どちらが先でも可）

通常の画面にもどれば、設定終了です。システム初期化中画面で、 ? にタッチすると、操作方法を表示することができます。

BTO45EC126b

● 画面に表示された操作をして通常の画面にもどれば設定終了です。

● システム初期化中画面、またはヘルプ画面が表示されたままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● OK にタッチすると、元の画面にもどります。

注意

● 上記操作を行っても、画面が切りかわらないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● 上記操作を行って、通常の画面にもどったときは、一度アシストモードを使用して、目標駐車位置に以前と同じようにアシストされることを確認してください。平坦路で使用しても、以前より斜めになったり、横方向にずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 362

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

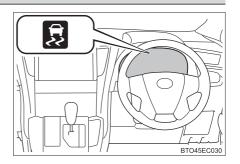
ABS・TRC・VSC・EPS を協調して制御します。

すべりやすい路面などでの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC･VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

BTO45EC030

TRC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

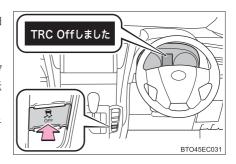
このようなときに[OFF スイッチ]を押すことにより、脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

TRC を停止するには[OFF スイッチ]を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

BTO45EC031

知識

■VSC と TRC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [OFF] を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 366）

■ [OFF] を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

● エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

● 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

- 車体やハンドルに振動を感じる
- 車両停止後もモーター音が聞こえる
- ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
- ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、エンジン停止後に再始動すると、自動的に TRC や VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速が約 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

VSC または TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 541）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

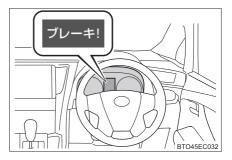
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にブレーキを作動させ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

必要に応じて、スイッチ操作でプリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングの変更やON/OFFを切りかえることができます。（→P. 363）

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

◆ プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物との衝突の可能性が高いときに衝突警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

プリクラッシュセーフティシステムの切りかえ

■ プリクラッシュセーフティシステムの警報タイミングを変更する

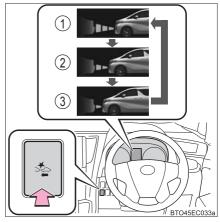
PCS スイッチを押すごとに次のように距離に応じて変更できます。

① 遠い

② 中間※

③ 近い

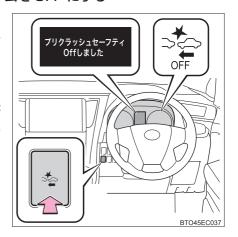
※ 初期設定

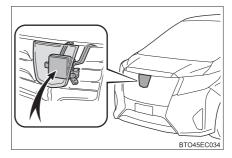
BTO45EC033a

■ プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする

PCS スイッチを 3 秒以上押す

PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

ON にするには、再度 PCS スイッチを押します。エンジンスイッチがイグニッションON モードになるたびシステムは ON になります。

BTO45EC037

レーダーセンサー

走行中に進路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティシステムが ON（→ P. 363）で、次の状態のとき、作動します。

●警報の作動条件：

- 車速が約 15km/h 以上
- 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 10km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

- VSC が OFF でないとき
- 車速が約 30km/h 以上
- 自車から見た前方の車両や障害物の接近速度が約 30km/h 以上
- ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：

- VSC が OFF でないとき
- 自車速度が約 15km/h 以上
- 自車から見た前方の車両や障害物との接近速度が約 10km/h 以上

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき

●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき

●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき

●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき

●凹凸のある路面を走行するとき

●路面上に金属物、段差または突起物があるとき

●車高が極端に変化しているとき

●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

●自車の車両姿勢が前上がりになる場合（重い荷物を積んだときなど）

また、このとき、ブレーキをかけると通常よりブレーキが強くかかる場合があります。

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●VSC が作動していないとき、車が横すべりしている状態

●車両姿勢が極端に変化している状態

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

●大きくハンドルをきるなどにより、障害物が前方に突然出現したとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合やセンサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常がある、またはシステムが一時的に使用できないとき

PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■TRC と VSC を停止したとき

●TRC と VSC の作動を停止（→ P. 358）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。ただし、警報機能は作動します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」と表示されます。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 364）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに誤動作または異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

●センサーの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

■**システムの支援内容に関する注意点**

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムの制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、運転者の適切な操作なしに衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  ・エンジンオイル
  ・冷却水
  ・ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーン※はタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 440）

※ 18 インチホイール装着車を除く

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをＰに入れて駐車し、輪止め※をしてください。
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをＰに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→ P. 225）
● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

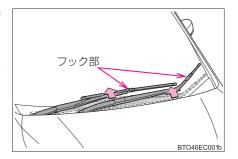
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

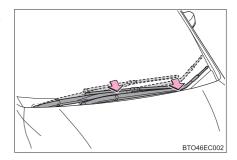
ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

ワイパーの停止位置を冬用停止位置に切りかえることができます。
フロントウインドウガラスに多量の雪が積もった場合、ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷するおそれがありますので、標準停止位置から冬用停止位置に切りかえてください。

■ 冬用停止位置に切りかえるには

ワイパーアームのフック部を持ち、ガラス面にそって引き上げます。

ワイパーブレードのみを持って引き上げないでください。
ブレードが変形するおそれがあります。
必ずフック部を持ってください。

■ 標準停止位置にもどすときは

フック上部をガラス面にそって、手で押します。

知識

■タイヤチェーンについて

▶ 18 インチホイール装着車を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●前 2 輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- ●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

▶ 18 インチホイール装着車

この車にはタイヤチェーンは装着できません

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ワイパー停止位置の切りかえ機構（寒冷地仕様車）

標準停止位置の状態でワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまると、自動的に冬用停止位置に切りかわる構造になっていますが、雪のたまりかたによっては冬用停止位置に切りかわらず“コツン”、“コツン”と音がする場合があります。音がしたときは、冬用停止位置に切りかえて雪を取り除いてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を指定値に調整する
- ●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- ●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

警告

■タイヤチェーン装着時の警告（18 インチホイール装着車を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について（18 インチホイール装着車を除く）

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

■ワイパーアームを立てるとき（寒冷地仕様車）

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。（→ P. 369）
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

室内装備・機能

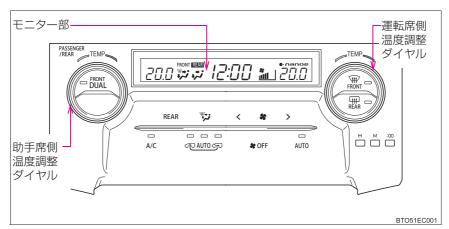
5

5-1. エアコンとデフォッガーの使い方
フロントエアコン 374
リヤエアコン 385
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター（セカンドシート）................ 388
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 391
・室内灯 392
・マップランプ 393
・リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）.................. 393
・読書灯 394
・ルーフカラーイルミネーション 394
5-3. 収納装備
収納装備一覧 396
・グローブボックス 397
・コンソールボックス 397
・カップホルダー／ボトルホルダー 399
・小物入れ 402
ラゲージルーム内装備 405
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 409
・サンバイザー 409
・バニティミラー 409
・時計 409
・アクセサリーソケット 410
・アクセサリーコンセント 411
・ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.................. 413
・後席用サンシェード 419
・サイドテーブル 420
・買い物フック 422
・アシストグリップ 422
・コートフック 423
・ステアリングスイッチ 424

フロントエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて

エアコン操作パネルのタッチスイッチにタッチすると操作音が鳴ります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へ、下げるときは左へまわす。

■ 風量を切りかえる

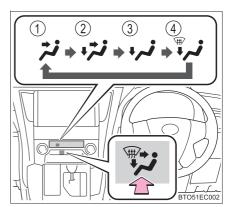
風量を増やすにはエアコン操作パネルの ＜ ✿ ＞ の ＞ に、減らすには ＜ にタッチする

送風を停止するときは、✿OFF にタッチします。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作パネルの にタッチする

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風
④ 足元に送風･フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 376）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 377）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜をとる（→ P. 377）

オート設定で使用する

1 エアコン操作パネルの AUTO にタッチする

2 AUTO モードになるまでエアコン操作パネルの AUTO を繰り返しタッチする（AUTO 内外気切りかえ装着車）

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 A/C にタッチする（AUTO 内外気切りかえ非装着車）

タッチするたびにエアコンの ON ／ OFF が切りかわります。

5 ファンをとめたいときは、エアコン操作パネルの OFF にタッチする

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、エアコン操作パネルの AUTO の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- FRONT DUAL を押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり FRONT DUAL の作動表示灯が点灯します。

左右独立モードのとき、リヤエアコン吹き出し口（→ P. 386）の温度は、運転席側に連動しています。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

▶ AUTO 内外気切りかえ装着車

エアコン操作パネルの AUTO にタッチするごとに次のように切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

外気導入モード→内気循環モード→ AUTO モード

フロントエアコンが作動しているときに AUTO モードにすると、車両外気（排気ガスなど）の状態などにより、外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

▶ AUTO 内外気切りかえ非装着車

エアコン操作パネルの にタッチする

タッチするごとに外気導入・内気循環が切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

■ 前席からリヤエアコンを操作するには

エアコン操作パネルの REAR にタッチする

モニター部に「REAR」が表示され、リヤエアコン操作モードに切りかわり、前席からリヤエアコンを操作できます。
スイッチにタッチしてから、約 10 秒間スイッチ操作をしないとモニター部に「FRONT」が表示され、フロントエアコン操作モードに戻ります。

● 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは助手席側温度調整ダイヤルを右へ、下げるときは左へまわす

モニター部の助手席側設定温度の表示がリヤエアコンの設定温度の表示に切りかわります。

● 風量をかえるには

風量を増やすにはエアコン操作パネルの ‹ › の › に、減らすには ‹ にタッチする

送風を停止するときは、OFF にタッチします。

● 吹き出し口を切りかえるには

エアコン操作パネルの にタッチする

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。（→ P. 385）

■ **フロントウインドウガラスの曇りをとるには**

フロントウインドウガラス、運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

■ **リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★**

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

 を押す

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ **「ナノイー」★を ON・OFF するには**

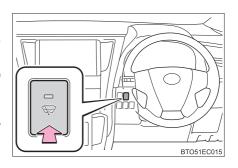
マルチインフォメーションディスプレイの「設定」で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 86）

ON を選択すると、モニター部に「nanoe」が表示されます。

■ **ウインドシールドデアイサー★**

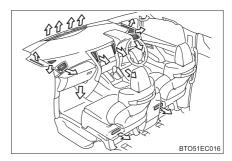
フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

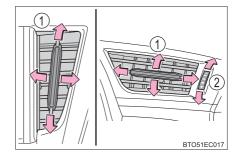
ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO にタッチした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C をON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

・風量を調整する
・温度を調整する
・エコドライブモードを解除する

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

エアコン操作パネルの A/Cにタッチしても除湿機能が作動しない場合があります。

■後席エアコン状態表示について

メーター内マルチインフォメーションディスプレイからリヤエアコンの作動状態を確認できます。(→ P. 84)

■スイッチの操作音について

タッチスイッチ以外のスイッチ（プッシュスイッチ、ダイヤルスイッチおよび時計スイッチ）の操作音は鳴りません。

■タッチスイッチの操作についてご留意いただきたいこと

●指（指の腹）で操作してください。

●エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき、反応しないことがあります。

●ペンなどは反応しません。

●モニター部はタッチ操作できません。

●操作するときは、他の指などがエアコン操作パネルにふれないようにしてください。

●連続して操作するときは、確実に指を離してから操作しなおしてください。

●エアコン操作パネルを強く押さないでください。

●エアコン操作パネルに水・異物が付着した場合、反応することがありますので、拭き取ってから操作してください。

■タッチスイッチの操作が正常に反応しないおそれのある状況

●手袋などを装着しているとき

●エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき

●エアコン操作パネルが汚れていたり、水などが付着しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●エアコン操作パネルが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●エアコン操作パネルに触れていたり、手を近づけた状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにすると、エアコン操作パネルが反応しないことがあります。その場合、エアコン操作パネルから手を離し、約 10 秒待ってから再度エアコン操作パネルにタッチしてください。

■タッチスイッチの操作が反応しにくいときは

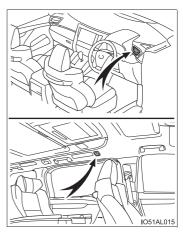
エアコン操作パネルが汚れていると、タッチ操作の際に反応しにくい場合があります。タッチパネルは、こまめに清掃してください。

■エアコン操作パネルを清掃するときは

清掃する際にタッチスイッチが反応することがあります。エンジンスイッチを OFF にしてから清掃してください。

■「ナノイー」※1 について★

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側吹き出し口・後席「ナノイー」吹き出し口（後席「ナノイー」装着車）を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます※2。

- ●「ナノイー」の作動中、吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のときに効果を発揮します。それ以外の条件では、効果が十分に得られない場合があります。
- ●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- ●「ナノイー」作動中は、運転席外側吹き出し口、後席の「ナノイー」吹き出し口（後席「ナノイー」装着車）付近で、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

- ●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- ●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターついて

→ P. 446

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エアコン操作パネルのタッチスイッチの反応を変更するには

次の操作により、スイッチにタッチしてから反応するまでの時間を変更できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO と A/C を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「01」〜「05」が表示されます。

2 REAR を押すごとに、反応するまでの時間が次のように切りかわります。

01 → 02 → 03 → 04 → 05

数字が小さいほど反応時間が早く、大きいほど遅くなります。
また、03・04・05 を選択した場合、タッチするスイッチによっては他のスイッチと反応するまでの時間が異なるものもあります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示に戻り、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■エアコン操作パネルのタッチスイッチの操作音を ON ／ OFF するには

次の操作により、スイッチにタッチした時の操作音を ON ／ OFF できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO と REAR を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「On」または、「OFF」と表示されます。

2 REAR を押すごとに、ON ／ OFF が切りかわります。

「On」または、「OFF」を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示にもどり、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にエンジンスイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■排ガスセンサーの感度調整（AUTO 内外気切りかえ装着車）

次の操作により、外気導入と内気循環の切りかえが AUTO モードのときの排ガスセンサーの感度調整ができます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルのAUTO を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、運転席側温度部に｢-3｣～｢3｣が表示されます。

2 運転席側温度調整ダイヤルをまわして調整する

-3 ～ 3 で調整できます。

数字が小さいほど感度が低く、大きいほど高くなります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示に戻り、設定が完了します。

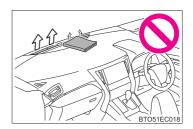
■カスタマイズ機能

AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧→ P. 548）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席外側吹き出し口または、後席「ナノイー」吹き出し口（→ P. 381）の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■バッテリーあがりを防ぐために

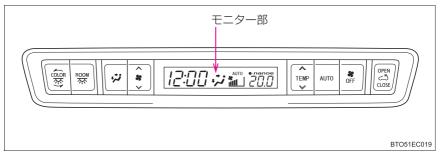
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコン

リヤエアコン操作スイッチについて

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは［TEMP］の∧を、下げるときは∨を押す

■ 風量を切りかえる

風量を増やすには［風量］の∧を、減らすには∨を押す

送風を停止するときは、［OFF］を押します。

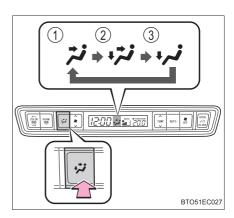
■ 吹き出し口を切りかえる

［吹き出し口］を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風
② 上半身と足元に送風
③ 足元に送風

オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの [AUTO] を押す

モニター部に「AUTO」と表示されます。

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、[OFF] を押す

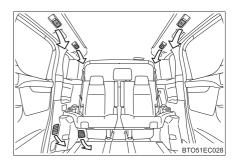
■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、モニター部の「AUTO」が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

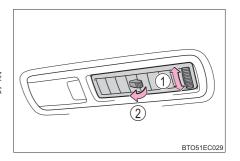
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

BTO51EC028

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 風向きの調整
／吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。

BTO51EC029

「ナノイー」を使うには（後席「ナノイー」装着車）

→ P. 377

知識

■フロントメインスイッチについて

フロントエアコン操作パネルの REAR にタッチすることにより、フロント席からリヤエアコンの操作ができます。

■リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■「ナノイー」について（後席「ナノイー」装着車）

→ P. 381

■エアコンの臭いについて

- ●リヤエアコン使用中に、車室内のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■後席エアコン状態表示について

→ P. 84

警告

■「ナノイー」について（後席「ナノイー」装着車）

→ P. 384

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

■吹き出し口について

→ P. 384

■「ナノイー」の損傷を防ぐために（後席「ナノイー」装着車）

→ P. 384

ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター（セカンドシート）★

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、セカンドシートから風を出して通気をよくできます。

⚠ 警告

■低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。

●乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた

●皮膚の弱いかた

●疲労の激しいかた

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

■異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

●長時間連続使用しないでください。

●毛布・クッションなどを使用しないでください。

⚠ 注意

■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防ぐために

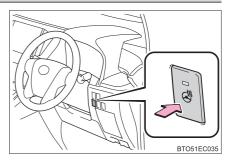
エンジンが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター

ON ／ OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モード

■タイマー制御

約 30 分後に自動で OFF になります。

シートヒーター（フロントシート）

① ツマミを押す

ツマミが出ます。
温度を調整したあとはツマミを押しもどしてください。

② ON

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

③ 温度を調整する

右にまわすほど温度は高くなります。

シートヒーター&ベンチレーター（セカンドシート）

1 カバーを開ける（→ P. 151）

2 シートヒーター＆ベンチレーターをＯＮにし、温度を調整する

① ON にする（押す）

ＯＦＦにするにはもう一度ツマミを押します。

② 送風する（左にまわす）

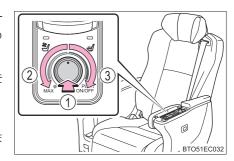
のインジケーターが点灯します。

風量は４段階に切りかえることができます。

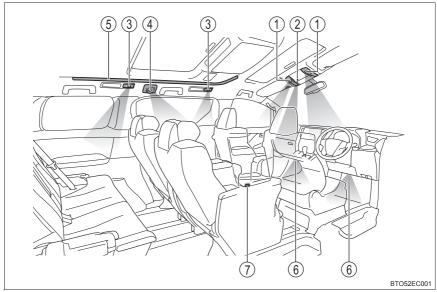
③ シートを暖める（右にまわす）

のインジケーターが点灯します。

温度は３段階に切りかえることができます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モード

室内灯一覧

① マップランプ（→ P. 393）

② ダウンライト

③ リヤパーソナルランプ(セカンドシート／サードシート)(→ P. 393)

④ 読書灯★（→ P. 394）

⑤ ルーフカラーイルミネーション（→ P. 394）

⑥ 足元照明★

⑦ ドアカーテシランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

●メインスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）

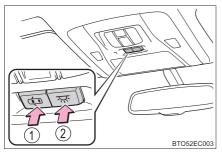
●エンジンスイッチが OFF で室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

●室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 548）

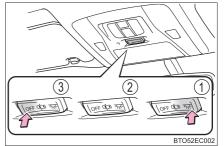
⚠注意

バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

室内灯（メインスイッチ）

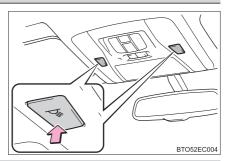
▶ タイプ A

①　ドア連動
②　点灯

▶ タイプ B

①　点灯
②　ドア連動
③　消灯

（ランプ記号）を押すと、マップランプとリヤパーソナルランプが点灯します。

マップランプ

点灯／消灯

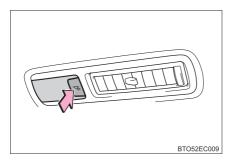
BTO52EC004

リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）

▶ タイプ A

BTO52EC009

点灯／消灯

▶ タイプ B

BTO52EC005

点灯／消灯※

スイッチを押すたびに明るさを３段階に切りかえることができます。
スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

※ステアアリングスイッチでも消灯することができます。（→ P. 85）

知識

■ラウンジモードについて（タイプ B）

マルチインフォメーションディスプレイで「天井照明設定」から「ラウンジモード」を選択すると、すべてのリヤパーソナルランプが 20% の明るさで点灯します。（→ P. 85）

- ステアリングスイッチでラウンジモードの解除ができます。（→ P. 85）
- ラウンジモードで点灯中でも、リヤパーソナルランプのスイッチで明るさを切りかえたり、消灯したりすることができます。

●ラウンジモードを選択していると、エンジンスイッチをイグニッションONモードにするたびに、すべてのリヤパーソナルランプが 20% の明るさで点灯します。

読書灯★

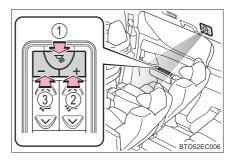
1 カバーを開ける（→ P. 151）

2 次の要領で操作する

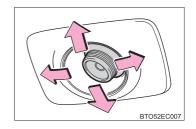
① 点灯／消灯

② 明るくする

③ 暗くする

スイッチ（②または③）を押すたびに、明るさを 4 段階に切りかえることができます。

知識

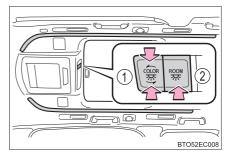
●読書灯を消灯させたあとで再度点灯させたときは、消灯前と同じ明るさになります。

●お好みの角度に調整できます。

ルーフカラーイルミネーション

① 色をかえる

スイッチを押すたびに 16 色から選択できます。

② 点灯／消灯

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。
スイッチを押し続けると消灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

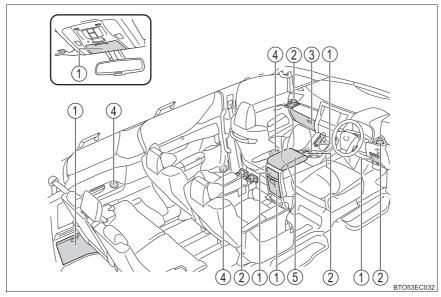
● ルーフカラーイルミネーションはステアリングスイッチでも操作することができます。(→ P. 85)

● エンジンスイッチが OFF のときにルーフカラーイルミネーションを点灯しても、イグニッション ON モードにすると消灯します。

再び ROOM を押すと点灯します。

● 以下の場合は使用しないでトヨタ販売店で点検を受けてください。

ルーフカラーイルミネーションが部分的に点灯している、またはカラーが混ざって点灯しているとき

収納装備一覧

① 小物入れ　(→P. 402、408)

② カップホルダー　(→P. 399)

③ グローブボックス　(→P. 397)

④ ボトルホルダー　(→P. 400)

⑤ コンソールボックス　(→P. 397)

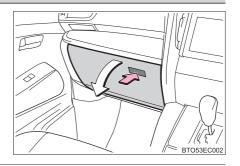
⚠ 警告

● メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

● 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

ボタンを押して開ける

知識

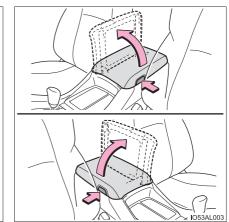
車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとランプが点灯します。

コンソールボックス

▶ タイプ A

フタの突起部を引いて開ける

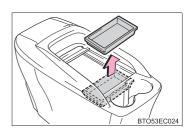
・2 段階に開けることができます。
・閉めるときはフタの突起部を押してください。

▶ タイプ B

ボタンを押して開ける

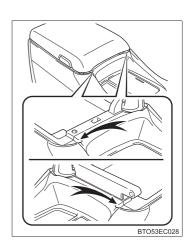
左右どちらからでも開けることができます。

知識

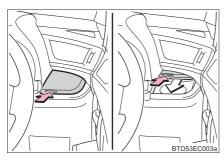
▶タイプ A

●中のトレイをはずすことができます。

●カードやコインなどのうすいものをフタの上に置かないでください。フタを開閉する際に巻き込まれることがあります。
巻き込まれた場合は、コンソールボックスの中から取り出すことができます。

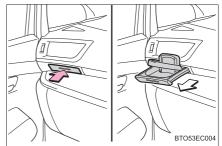
▶タイプ B

フタが閉まっているとき、接続機器の配線は図の穴を通してください。

カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

▶ フロントシート（運転席側）

押して開ける

再び押すと閉まります。

▶ フロントシート（助手席側）

押して開ける

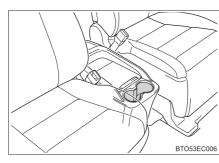
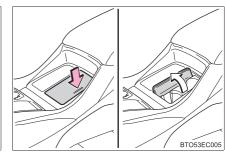
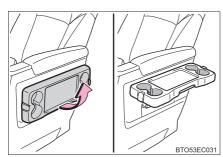
▶ コンソールボックス（タイプ A）

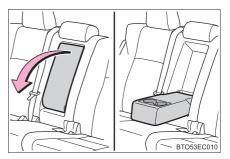
▶ コンソールボックス（タイプ B）

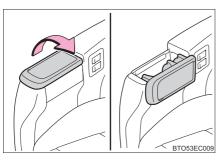
押して開ける

▶ セカンドマニュアルシート（7 人乗り車）

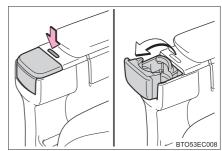
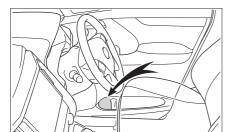
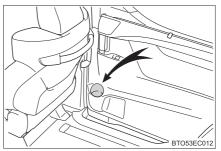
サイドテーブルを引き起こす（→P. 420）

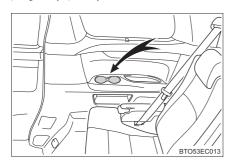
▶ セカンドシート（8 人乗り車）

アームレストを倒して使用する

▶ セカンドパワーシート（タイプ A）

カバーを開ける

▶ セカンドパワーシート（タイプ B）

ボタンを押してカバーを開ける

■ ボトルホルダー

▶ フロントシート

▶ セカンドシート

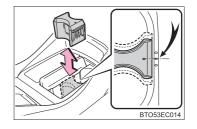
▶ サードシート

知識

■カップホルダーを使用するときは（セカンドマニュアルシート（7 人乗り車））

セカンドシートの左右位置が外側にあるときに使用できます。

■カップホルダーの仕切りについて（コンソールボックス （タイプ B））

●位置を調整することができます。

●清掃のために取りはずすことができます。

■ボトルホルダーを使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

●カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。

●やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。

●ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。

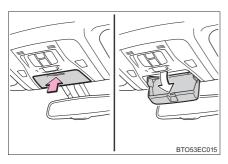
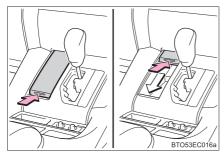
●フロントシート（運転席側）カップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ･ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- フロントシート（助手席側）のカップホルダーを使用するときは、過度の負荷を与えないでください。また、車に乗り降りする際に手をついたり、体があたったりしないように注意してください。

小物入れ

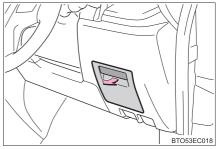
▶ オーバーヘッドコンソール

押して開ける

▶ 運転席ロア小物入れ

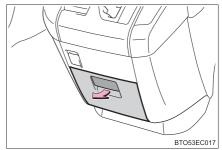
ノブを引いて開ける

▶ センターパネル

押して開ける

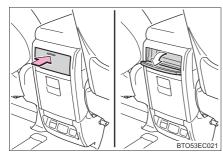
再び押すと閉まります。

▶ センターロア小物入れ★

ノブを引いて開ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ コンソールボックス後部（タイプ A）

引いて開ける

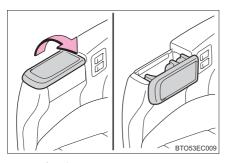
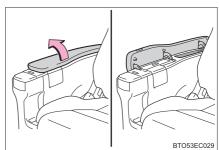
▶ コンソールボックス後部（タイプ A フタ無し）

▶ コンソールボックス後部（タイプ B）

押して開ける

ノブを引いて開ける

▶ セカンドパワーシート（タイプ A）

カバーを開ける

▶ セカンドパワーシート（タイプ B）

カバーを開ける

知識

- 車幅灯が点灯しているときにセンターロア小物入れを開くとランプが点灯します。★
- 運転席ロア小物入れの中にDSRCユニット(ETC･VICS機能付)★が装着されます。

警告

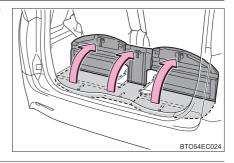
- オーバーヘッドコンソールに200ｇ以上のものを入れないでください。200ｇ以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンソールボックス後部（タイプA）：カップや缶、ペットボトルなどを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に飛び出し、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

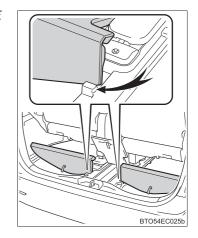
デッキボード

ストラップを持ってデッキボードを上げる

BTO54EC024

知識

■デッキボードについて

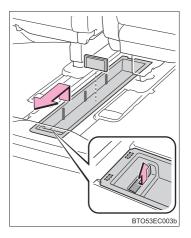
左右のデッキボードを折り曲げて図のくぼみにかけることができます。

BTO54EC025b

■停止表示板について

左右どちらかのデッキボードを上げて、その中に収納してください。

■ラゲージボックスについて

●仕切りの位置を調整したり、取りはずすことができます。

●ラゲージボックスは取りはずすことができます。真上に持ち上げて取りはずしてください。

警告

デッキボードを取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

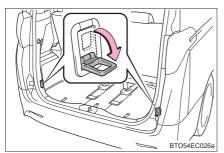
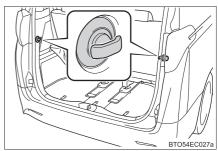
破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキフック

▶ タイプ A

BTO54EC026a

▶ タイプ B

BTO54EC027a

フック起こして使用する

デッキフックを使って荷物を固定することができます。

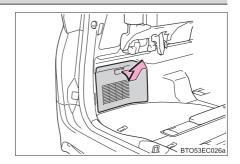
警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。（タイプ A）

注意

デッキフックの破損を防ぐために、3kg 以上のもの（タイプ B）をフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

ラゲージルーム小物入れ

カバーを開ける

警告

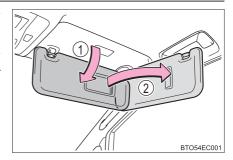
走行中はカバーを閉じてください。事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

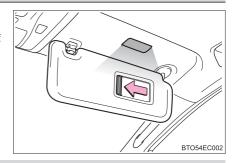
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

BTO54EC001

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。

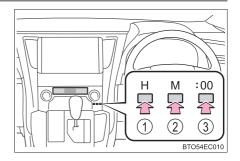
BTO54EC002

時計

① “時”を調整する

② “分”を調整する

③ “分”を 00 にする※

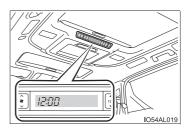
※（例）1：00 ～ 1：29 → 1：00
1：30 ～ 1：59 → 2：00

BTO54EC010

知識

●時刻が表示されるとき

・フロントエアコン操作パネル：エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき
・リヤエアコン操作パネル：エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

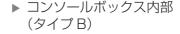
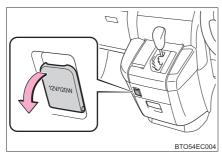
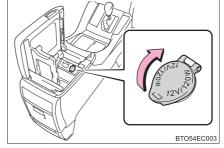
●バッテリー端子の脱着を行うと、時計は自動的に 1：00 にセットされます。

●リヤエアコン操作パネルの時計も同時に調整されます。

アクセサリーソケット

DC12 V ／ 10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

▶ センターパネル

▶ コンソールボックス内部（タイプ B）

知識

●使用条件：エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

●接続する機器によっては、USB接続端子★またはHDMI端子★と同時に使用することができない場合があります。
USB 接続端子および HDMI 端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●Stop & Start システム装着車：Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーソケットが使用できないことがありますが、異常ではありません。

⚠注意

●ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

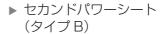
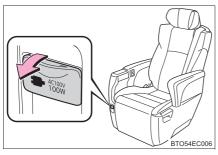
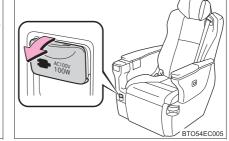
●バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アクセサリーコンセント★

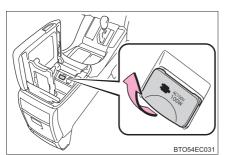
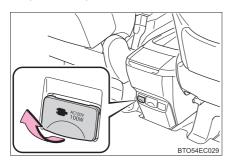
AC100 V で最大消費電力 100 W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する

▶ セカンドパワーシート（タイプ A）

▶ セカンドパワーシート（タイプ B）

▶ コンソールボックス内部（タイプ B）

▶ コンソールボックス後部（タイプ B）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ コンソールボックス後部
（タイプ A）

知識

■使用条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■正常に使用できないおそれのある電気製品

次のような AC100 V の電気製品は、消費電力が 100 W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時のピーク電力が高い電気製品

●精密なデータを処理する計測機器

●電源周波数の切りかえ（50 ／ 60 Hz）のある機器

■Stop & Start システムが作動しているときは★

Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリーコンセントが使用できないことがありますが、異常ではありません。

注意

●ショートや故障を防ぐために、アクセサリーコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

●バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

●ヒューズが切れるのを防ぐために、AC100 V で最大消費電力 100 W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100 W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」および Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

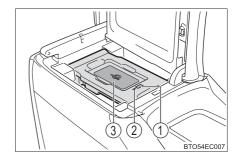
「おくだけ充電」および「おくだけ充電」マークは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

① 電源スイッチ

② 作動表示灯

③ 充電エリア

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電する

1 コンソールボックスのフタを開ける（→P. 397）

2 電源スイッチを押す

押すごとにONとOFFに切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態(ON／OFF)はエンジンスイッチをOFFにしても記憶されます。

BTO54EC008

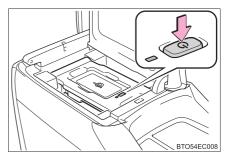
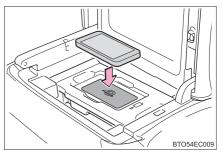
3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

BTO54EC009

● 再充電機能

・充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
・携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す(橙色)	**ワイヤレス充電器の故障**	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す(橙色)	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す(橙色)	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

スマートエントリー＆スタートシステムが作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。
ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中の留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

⚠警告

■運転中に携帯機器の操作をしないでください

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、コンソールボックスのフタを閉めておく
- 布などをかぶせて充電しない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

⚠注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電

●充電エリアと携帯機器の間に異物がある

●充電により、携帯機器の温度が高温になっている

●携帯機器の充電面を上にして置いた

●携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■磁気カードや磁気記録メディア、精密機器などを近付けないでください。

充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えることがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりすることがありますので、近付けないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

■携帯機器は車室内に放置しないでください

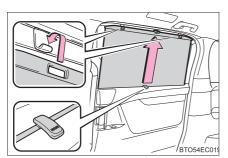
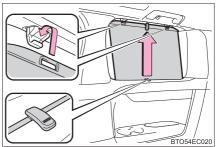
炎天下など、車室内が高温となり、故障の原因となります。

後席用サンシェード★

▶ セカンドシート

BTO54EC019

▶ サードシート

BTO54EC020

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。

注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- 後席用サンシェードにものを貼らない
- 後席用サンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- スライドドアが開閉しているときは、セカンドシートの後席用サンシェードを操作しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

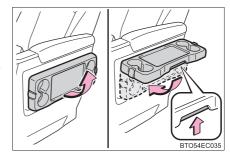
サイドテーブル★

▶ タイプ A

サイドテーブルを引き起こす

サイドテーブルがロックしていることを確認してください。

格納するときは、レバーを上に引いてテーブルを押します。

BTO54EC035

▶ タイプ B

1 フタを開けてボタンを押す

サイドテーブルが自動で上がります。

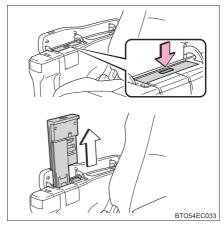
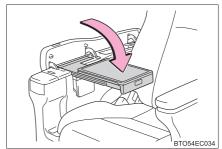
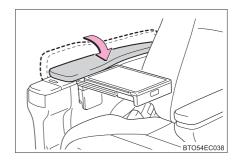
BTO54EC033

2 サイドテーブルを倒す

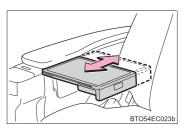
BTO54EC034

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 フタを閉じる

BTO54EC038

知識

- タイプ B：テーブルを格納するときは、テーブルをいちばんうしろまで移動させてください。
- タイプ B：前後にスライドさせることができます。

BTO54EC023b

警告

サイドテーブルを使用するときは次の警告をお守りください。
お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあり危険です。

- サイドテーブルの上に乗ったり、重いものをのせないでください。
- 使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- タイプ B：走行中はサイドテーブルを使用しないでください。
- タイプ B：サイドテーブルを使用するときは、フタを閉じてください。

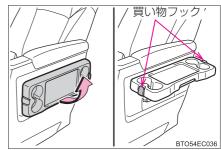
注意

- テーブルの破損を防ぐために、重いものをのせないでください。
- タイプ B：いちばん上の位置にあげてからサイドテーブルを倒してください。

買い物フック★

▶ 運転席

フックを引き起こす

▶ セカンドマニュアルシート（7 人乗り車）

サイドテーブルを引き起こす（→ P. 420）

⚠ 警告

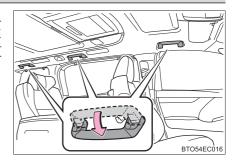
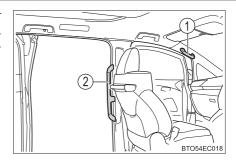
使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のもの（運転席）、2kg 以上のもの（セカンドマニュアルシート）をフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

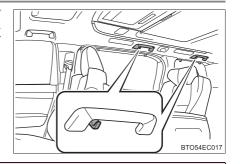
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗降時などでは、ピラーに取り付けられている①または②のアシストグリップ（固定式）をお使いください。

警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

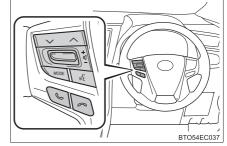
コートフックは、セカンドシート／サードシートのアシストグリップに付いています。

警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

注意

- コートフックに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。
- セカンドシートにあるコートフックを使用するときは、スライドドアを開閉する際にドアへ引っかからないよう注意してください。

ステアリングスイッチ

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。
装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の各説明書をご覧ください。

警告

事故を防ぐために、運転中にオーディオスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..........................426
内装の手入れ..........................430

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 433
ガレージジャッキ...................436
ウォッシャー液の補充...........438
タイヤについて......................440
タイヤ空気圧について...........444
エアコンフィルターの交換 ...446
ワイパーゴムの交換...............449
キーの電池交換......................452
ヒューズの点検・交換...........455
電球（バルブ）の交換...........458

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：

  ・ドアミラーを格納する
  ・パワースライドドアを停止する（→ P. 111）
  ・パワーバックドア★を停止する（→ P. 127）

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

●駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 138）

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■レインクリアリングミラー★の親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 190）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 水を含ませたきれいなやわらかい布などで汚れを落とす

3 きれいなやわらかい布などで鏡面に付いた水をふき取る

4 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
(汚れの量や種類により、回復時間は異なります)

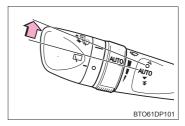
撥水剤が付着した場合、すみやかに水を含ませたスポンジに重曹をつけてふき取ってください。ふき終わったあと、重曹は十分に水で洗い流してください。重曹が残っていると、乾燥したあとに鏡面が白くなり取れなくなる場合があります。

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき(雨滴感知式ワイパー装着車)

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

●雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき

●水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

●フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

●車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品(ホイールなど)の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき

注意

・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

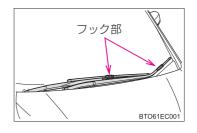
●洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

■ワイパーアームを立てるときは

ワイパーアームのフック部を持って引き上げてください。
ワイパーブレードのみを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

● ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。

● ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

● 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

● SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→P. 34）
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★（→P. 413）をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**清掃するとき使用する溶剤について**

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■**革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■**床に水がかかると**

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■**リヤウインドウガラス／右側クォーターウインドウの内側を掃除するときは**

●熱線（リヤウインドウガラス）やアンテナ（右側クォーターウインドウ）を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■**スーパー UV カットガラス★を清掃するときは**

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

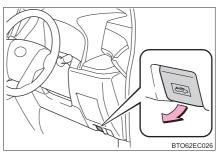
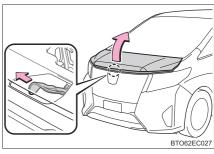
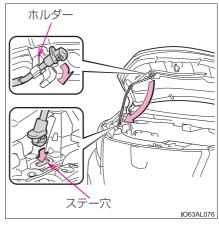
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

開け方

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

2 レバーを押して、ボンネットを開ける

3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

閉め方

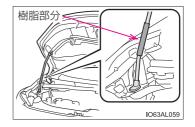
1 ボンネットを支えながら、ボンネットステーをはずしてホルダーに格納する

2 車体から約 20cm の高さまで、ボンネットをゆっくりおろす

3 ボンネットを落として閉め、ロックされていることを確認する

知識

■ボンネットを開くとき

ボンネットステーは樹脂部分を持って取り扱ってください。また、走行直後にボンネットを開ける必要がある場合は、ボンネットステーが熱くなっていることがあるため、金属部分にふれないよう、特に注意してください。

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**けがを防ぐために**

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■**エンジンルーム点検後の確認**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**ボンネットへの損傷を防ぐために**

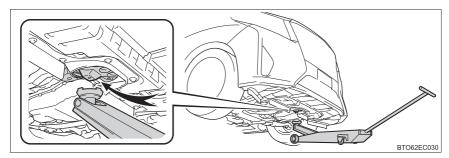
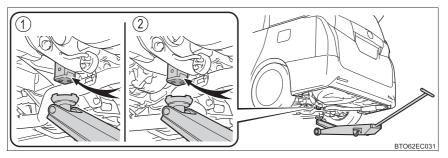
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
閉め方：→ P. 434

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側

◆ リヤ側

① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

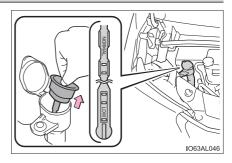
注意

■車両の前側をジャッキアップするときは

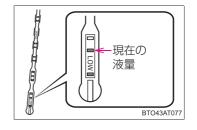
ジャッキの受け皿が車両下部の樹脂カバーにかかっていないことを確認してください。樹脂カバーにジャッキがかかった状態でジャッキアップすると、フロントサスペンションの部品が損傷するおそれがあります。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充してください。

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下回った（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

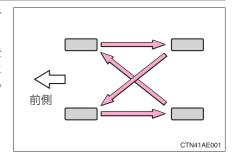
● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

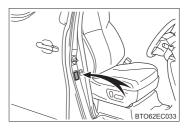
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm²）	
	前輪	後輪
215/65R16 98H	240（2.4）	
225/60R17 99H	240（2.4）	
235/50R18 97V	240（2.4）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm²）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■応急用タイヤについて（応急用タイヤ装着車）

応急用タイヤは指定の場所（→P. 492）に搭載し、留め具をしっかり締め付けて、確実に固定してください。応急用タイヤの留め具がゆるんでいると、走行中に異音が発生することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●工場出荷時に設定されているサイズ以外のタイヤは使用しない
次のようなおそれがあります。

・ハンドルをきった際に、タイヤと車体が干渉する
・最低地上高が確保できない
・操縦安定性の悪化による横転事故
・ABS ／ VSC が正しく作動しない

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

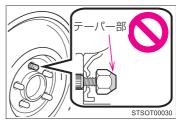
●破裂などの修理できない損傷を与える

●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■**タイヤ交換時の注意**

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■**走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→P. 541)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●過度の摩耗
- ●偏摩耗
- ●操縦安定性の低下
- ●タイヤの過熱による破裂
- ●タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ●ホイールの変形、タイヤの損傷
- ●走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

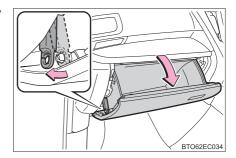
エアコンフィルターの交換

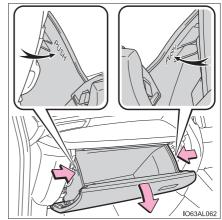
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

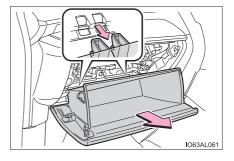
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす

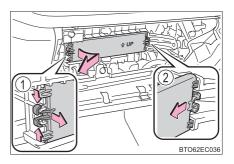
BTO62EC034

3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる

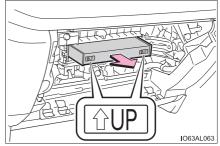
IO63AL062

4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。

IO63AL061

5 フィルターカバーを取りはずす

① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km※1] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

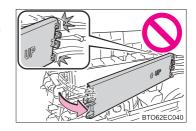
■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→P. 446）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

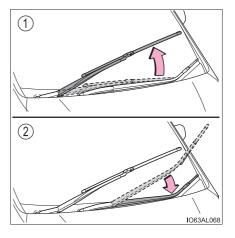
フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。

ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

ワイパーアームの取り扱い方法

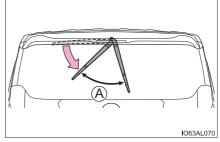
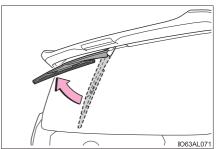
■ フロントワイパー

① ワイパーアームを起こすときは、運転席側から助手席側の順番でアームを持ち上げる

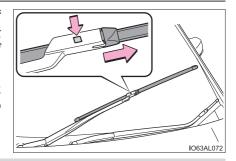
② もとの位置にもどすときは、助手席側から運転席側の順にアームを降ろす

■ リヤワイパー

1 リヤワイパースイッチ(→P. 246)でリヤワイパーを作動させ、リヤワイパーが図の、Ⓐに示す範囲内に入ったら、エンジンスイッチを OFF にしてリヤワイパーを停止させる

2 ワイパーアームを持ち上げる

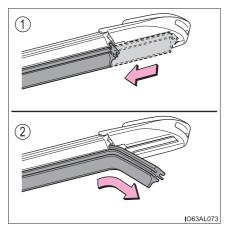
ワイパーアームをもとにもどしたあとは、忘れずにリヤワイパースイッチを OFF にしてください。

フロントワイパーブレードの取りはずし方

ワイパーブレードの接続部を手でしっかり支えながらロックノブを押してロックを解除し、ワイパーブレードを引き抜く

ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

フロントワイパーゴムの取りはずし方

フロントワイパーブレードに取り付けられているキャップを脱着することはできません。ワイパーゴムの交換が必要なときは、次の要領でワイパーゴムを取りはずしてください。

① ワイパーブレード裏側のスリット部を通せる位置までワイパーゴムを引っ張る

② ワイパーゴムの先端をスリット部から引き出し、そのまま引き抜く

新しいワイパーゴムを取り付けるときは、逆の要領で作業を行います。取り付け後は、ワイパーゴムの先端がキャップの端まで確実に届いていることを確認してください。

知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■リヤワイパーアームを起こすとき

リヤワイパーがリヤスポイラーにあたらないことを確認しながらゆっくりと引き起こしてください。いっぱいまで起こしリヤスポイラーにあたりそうなときは、いったんリヤワイパーアームをもどし、最初に止めた位置よりも下を向くように、リヤワイパーの停止位置を調整してください。

注意

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

キーの電池交換

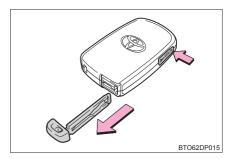
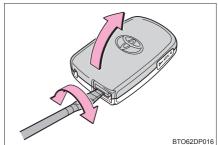
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

▶タイプ A

1 メカニカルキーを抜く

BTO62DP015

2 カバーをはずす

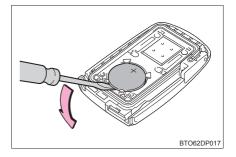
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

BTO62DP016

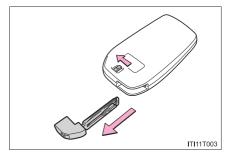
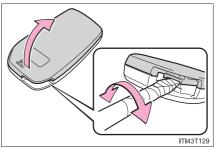
3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

BTO62DP017

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶タイプ B

1 メカニカルキーを抜く

ITI11T003

2 カバーをはずす

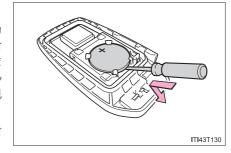
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ITI43T129

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

ITI43T130

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

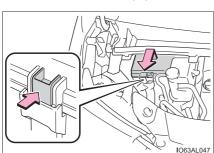
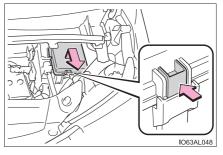
- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

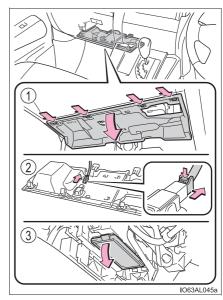
2 ヒューズボックスを開ける

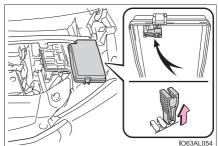
▶ エンジンルーム（1）

▶ エンジンルーム（2）

ツメを押してロックをはずし、フタを持ち上げながら手前に引いて取りはずす

▶ 助手席足元

① ツメを押してアンダーカバーを取りはずす

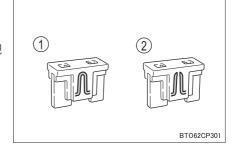
② ツメを押してコネクターを取りはずす（足元照明装着車）

③ カバーを取りはずす

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 458)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

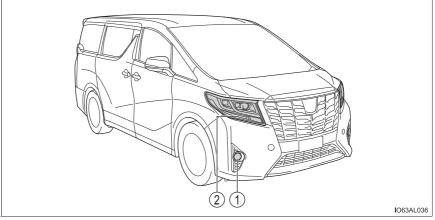
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 542）

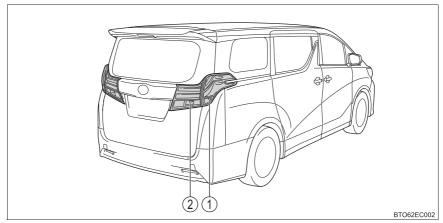
パワーバックドアの作動停止（パワーバックドア装着車）

→P. 127

バルブ位置

■ フロント

① フロントフォグランプ（LED フロントフォグランプ非装着車）

② フロント方向指示灯／非常点滅灯

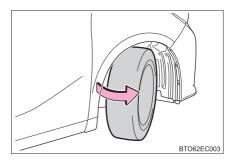
■ リヤ

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯

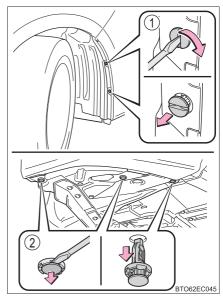
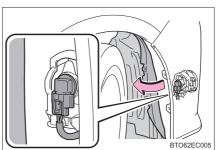
電球交換のしかた

■ フロントフォグランプ（LED フロントフォグランプ非装着車）

1 交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

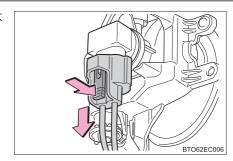
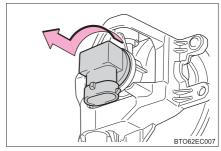
手が十分入る程度にハンドルをまわしてください。

2 クリップを取りはずす

① マイナスドライバーで90度まわし、クリップを浮かし引き抜きます。

② マイナスドライバーで中央部を引き出し、クリップを引き抜きます。

3 コネクターが見える位置までフェンダーライナーをめくる

4 ツメを押し、コネクターを取りはずす

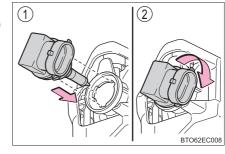
BTO62EC006

5 電球をまわして取りはずす

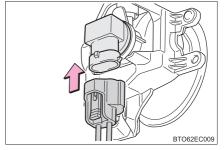
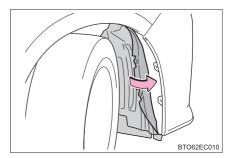
BTO62EC007

6 新しい電球を取り付ける

① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45°傾けながら挿し込みます。

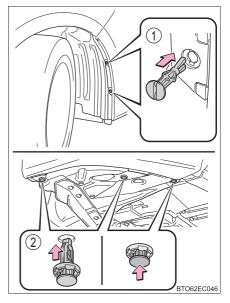
② 電球を右にまわして固定します。

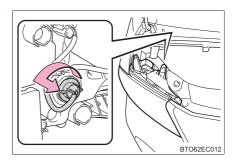
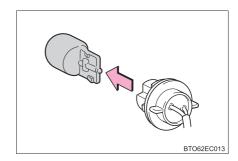
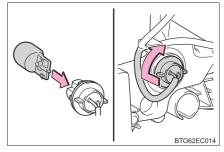
BTO62EC008

7 コネクターを取り付ける

コネクターを取り付けたあとは、いったんフロントフォグランプを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

BTO62EC009

8 フェンダーライナーを取り付ける

9 フェンダーライナーがもとの位置にあることを確認したあと、クリップを取り付ける

① クリップの溝を縦にして挿し込みます。

② 挿し込んでから中央部を押します。

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

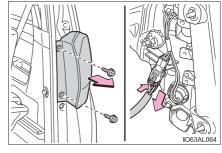
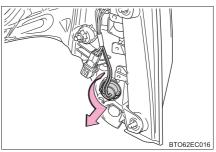
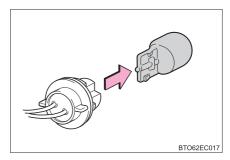
1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

2 電球を取りはずす

3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

■ リヤ方向指示灯

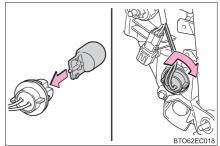
1 バックドアを開け、スクリュー2本をはずし、ランプ本体をはずす

ランプ本体につながっているコネクターをはずしてください。

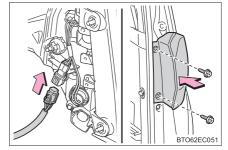
2 ソケットをまわして取りはずす

3 電球を取りはずす

BTO62EC017

4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

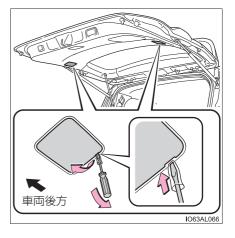
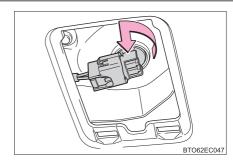
BTO62EC018

5 ランプ本体につながっているコネクターを取り付け、スクリュー2本でランプ本体を取り付ける

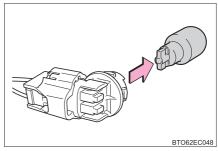
スクリューでランプを固定する前に、ランプがもとの位置にあることを確認してください。

BTO62EC051

■ 後退灯

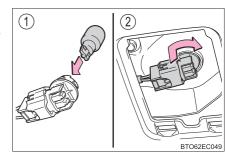
1 バックドアを開け、カバーをはずす

傷が付くのを防ぐために、マイナスドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。

IO63AL066

2 ソケットをまわして取りはずす

3 電球を取りはずす

4 ソケットを取り付ける

① 新しい電球を取り付ける。

② ソケットをまわして取り付ける。

5 カバーを取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- LED フロントフォグランプ★
- コーナリングランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 車幅灯
- LED デイライト★
- 制動灯／尾灯
- 尾灯
- リヤフォグランプ★
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■LED ランプについて

フロントフォグランプ（LED フロントフォグランプ非装着車）・フロント方向指示灯・後退灯・リヤ方向指示灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電球を交換するとき**

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●ヘッドランプ点灯中および消灯直後はヘッドランプECUの金属部が高温になります。
やけどをするおそれがあるので、冷めるまでふれないでください。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

注意

■リヤ方向指示灯の交換時にリヤランプ本体を取り付けるとき

ゴムシールが上側になるようにリヤランプ本体を取り付けてください。正しく取り付けないと、車両故障の原因となるおそれがあります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは......................470

非常点滅灯
（ハザードランプ）...............471

発炎筒....................................472

車両を緊急停止するには.......474

7-2. 緊急時の対処法

けん引について......................475

警告灯がついたときは...........482

警告メッセージが表示
されたときは.......................487

パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）........491

パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理キット装着車）.............504

エンジンが
かからないときは...............517

シフトレバーが
シフトできないときは........519

電子キーが正常に働かない
ときは..................................520

バッテリーが
あがったときは...................523

オーバーヒートしたときは...529

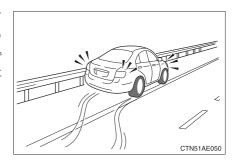
スタックしたときは..............532

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→P. 471）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE050

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 472）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

50m 以上
後方に置く
ITIRMO001

知識

■停止表示板・停止表示灯について

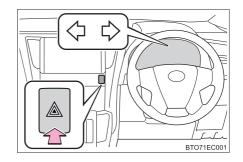
- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

ITIRMO004

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

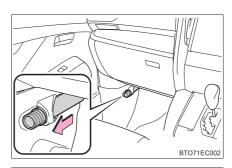
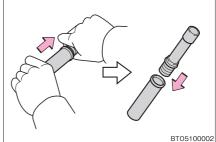
すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

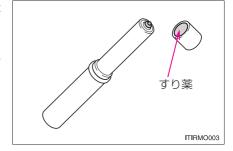
■非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

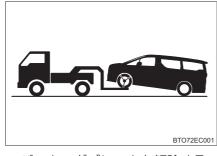
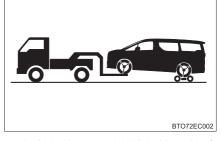
● エンジンはかかるが車が動かない

● 異常な音がする

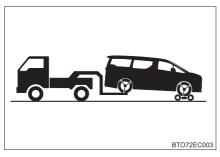
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは（FF 車）

パーキングブレーキを解除する

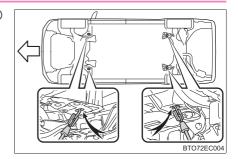
▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）

台車を使用して後輪を持ち上げる

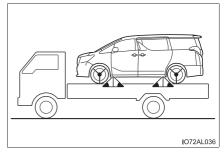
▶ うしろ向きにけん引するときは

BTO72EC003

台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

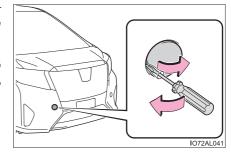
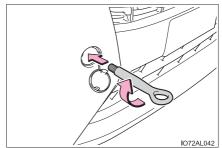
車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

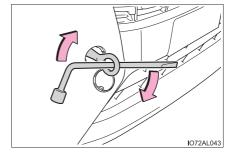
BTO72EC004

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

IO72AL036

他車にけん引してもらうとき

1 けん引フックを取り出す（→ P. 492、505）

2 マイナスドライバーを使って、けん引フックを取り付ける側のフタをはずす

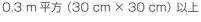
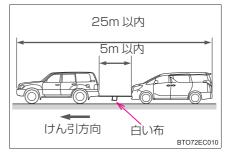
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホイールナットレンチ、または固い金属の棒で車体を傷付けないように注意してください。

5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

Stop & Start システム装着車：けん引される前に、いったんエンジンスイッチをOFF にしたあと、エンジンをかけてください。

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 519

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。（→ P. 492、505）

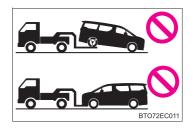
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

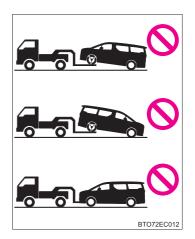
■レッカー車でけん引するとき

▶FF 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。

BTO72EC011

▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。

BTO72EC012

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります

警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

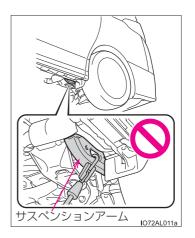
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両のうしろ側を固縛するときは

リヤサスペンションが損傷するおそれがあるため、図で示すサスペンションアームには絶対に固縛フックをかけないでください。

注意

■**駆動系部品の損傷を防ぐために**

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■**Stop & Start システム装着車をけん引をするときは**

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから､エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

■**長い下り坂でけん引するときは**

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車)、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
(赤色)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
(黄色)	**ブレーキ警告灯** ・電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ABS	**ABS ＆ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
(赤色 / 黄色)	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
OFF （点滅）	**PCS 警告灯★** プリクラッシュセーフティシステムの異常（警告ブザー） システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・TRC と VSC システムを OFF にすると点灯します。（→ P. 366） ・プリクラッシュセーフティシステムを OFF にすると点灯します。（→ P. 363） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	半ドア警告灯（警告ブザー※ 2） いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 開いているドアを閉める**
	燃料残量警告灯 ▶ FF 車 燃料の残量が約 11 L 以下になった ▶ 4WD 車 燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**
※ 5	**油圧警告灯（警告ブザー※ 3）** エンジンオイルの圧力が異常に低い **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※ 4） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 **→ P. 487**
	充電警告灯 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯** ・ブレーキホールドステムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
((P)) （点滅）	**パーキングブレーキ表示灯** パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
A OFF （点滅）	**Stop & Start キャンセル表示灯★** Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。→ P. 255） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
OFF （点滅）	**ICS OFF 表示灯★** インテリジェントクリアランスソナーの異常（警告ブザー） システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できないときに点滅します。（→ P. 301）
※ 5	**高水温警告灯** エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法（→ P. 529）**
※ 5	**ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／インテリジェントクリアランスソナー★警告灯** ・ブレーキオーバーライドシステム作動時 ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロール作動時 ・ドライブスタートコントロールの異常 ・インテリジェントクリアランスソナー作動時（→ P. 297） **→ 表示された画面の指示に従ってください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 **ブレーキ液警告ブザー：**
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。

※2 **半ドア走行時警告ブザー：**
→ P. 106

※3 **油圧警告ブザー：**
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※4 **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※5 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーがなることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ABS &ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。
ABS &ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

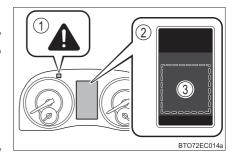
マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠	専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	ー	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
ー	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	ー	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	ー	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	ー	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- 「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
  ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 482）
- 開いているドアまたは、ボンネット★が表示されている：
  半ドア警告灯※が点灯します。（→ P. 483）

  ※ ボンネットのみが開いている場合、半ドア警告灯は点灯しません。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたときは

シフトレバーが P 以外の状態で、エンジンスイッチを OFF にせずに運転席ドアを開けたときに表示されます。
警告メッセージが表示されたときはシフトレバーを P にしてください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
  - ・「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」（→ P. 529）
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
  - ・「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」
- 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
  - ・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
  - ・「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」

■「バッテリー保護のため自動で電源を off しました」が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回エンジン始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約 5 分間その回転数を保持しバッテリーを充電してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。
トヨタ販売店ですみやかに点検を受けてください。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★の警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常に低速で走行しているとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルペダルが踏まれたとき

■警告ブザーについて

→ P. 485

⚠ 注意

■「電力消費が大きいため一部の空調・ヒーター作動を制限中です」がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

この車両には、応急用タイヤが搭載されています。
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 440 を参照してください）

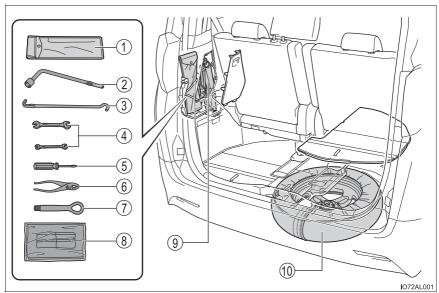
警告

■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置

① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ スパナ★
⑤ ドライバー★
⑥ プライヤー★
⑦ けん引フック
⑧ 汚れ防止シート
⑨ ジャッキ
⑩ 応急用タイヤ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

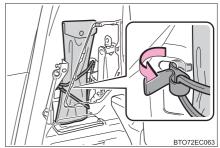
■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

1 カバーをはずす

2 固定バンドをはずし、工具袋を取り出す

3 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

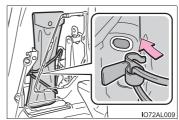
② ゆるむ

知識

■ジャッキ・工具を使用したあとは

次の手順でもとどおり車両に搭載してください。ジャッキ・工具袋が正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

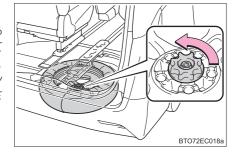
1 ジャッキを収納部にのせてA部をまわして位置を固定したあと、約2.0N·m(0.2kgf·cm)以上の力でしっかりと締め付ける(ジャッキを軽く固定したあとに、約90°～180°まわします)

2 工具袋を固定するバンドのフックは、白いテープが貼られている穴に掛ける

応急用タイヤの取り出し方

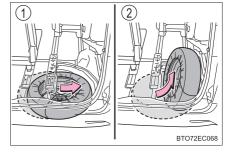
1 運転席側のサードシートをはね上げる(→P. 176)

2 運転席側のデッキボードを取りはずす

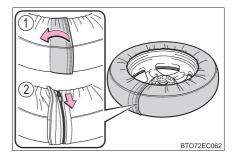
3 留め具をはずす

応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。(タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください)

4 次の要領で応急用タイヤを車両右側から取り出す

① 応急用タイヤを右側に引き出す

② 上に向かって転がす要領で応急用タイヤを取り出す

5 応急用タイヤカバーを取りはずす

① カバーの端をめくる

② ファスナーを引く

警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

注意

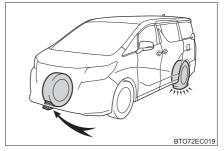
■搭載場所から応急用タイヤを取り出すとき

応急用タイヤのホイール部分をつかんで取り出してください。応急用タイヤカバーをつかんで取り出そうとすると、応急用タイヤカバーが損傷するおそれがあります。

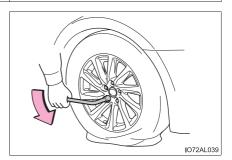
パンクしたタイヤの交換

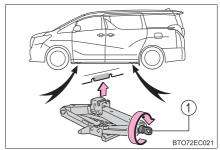
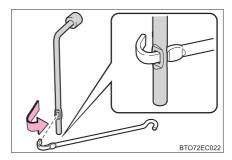
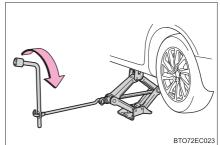
1 輪止め※をする

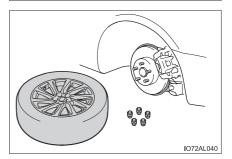
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

BTO72EC019

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

IO72AL039

3 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

BTO72EC021

4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを組み付ける

5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。

警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・タイヤ交換などをする際は、パワースライドドアメインスイッチ(→P. 111)をOFFにしてください。OFFにしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
・パワーバックドア装着車：タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアメインスイッチ(→P. 127)をOFFにしてください。OFFにしないと、誤ってパワーバックドアスイッチを操作したときにバックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

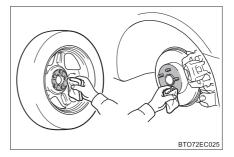
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける(→P. 443)

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る。

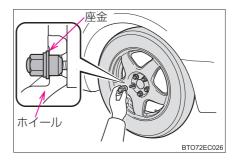
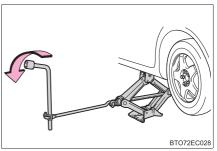
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

BTO72EC025

2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

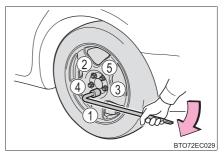
ナットの座金がホイールに軽くあたるまでまわす

BTO72EC026

3 車体を下げる

BTO72EC028

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）

BTO72EC029

5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

パンクしたタイヤは、応急用タイヤ格納位置に格納できません。ラゲージルームに格納してください。

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。(→ P. 541)

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき(215/65R16タイヤまたは225/60R17タイヤ装着車)

1 後輪を応急用タイヤに交換する

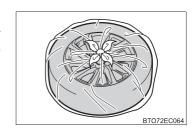
2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■標準タイヤの格納について

標準タイヤは、応急用タイヤが格納してある場所には格納できません。パンクなどではずした標準タイヤは、汚れ防止シートにつつんでラゲージルームに格納してください。

警告

■応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度(トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン)をこえて使用しないでください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・レーダークルーズコントロール★
・クルーズコントロール★
・クリアランスソナー
・インテリジェントクリアランスソナー★
・インテリジェントパーキングアシスト 2★
・TRC
・S-VSC
・オートマチックハイビーム★
・GPS ボイスナビゲーション★
・EPS
・パノラミックビューモニター(左右確認サポート付)★
・プリクラッシュセーフティシステム★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

・4WD システム★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

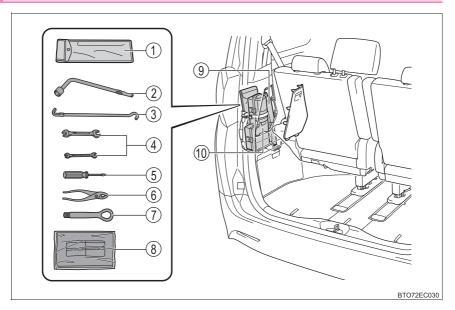
警告

■タイヤがパンクしたときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

①工具袋

②ホイールナットレンチ

③ジャッキハンドル

④スパナ★

⑤ドライバー★

⑥プライヤー★

⑦けん引フック

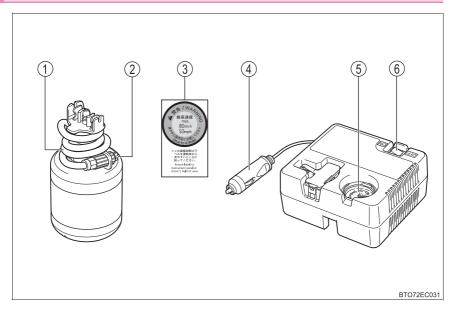
⑧汚れ防止シート

⑨ジャッキ※

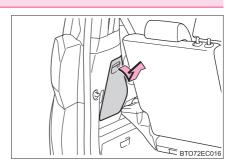
⑩タイヤパンク応急修理キット

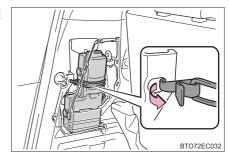
※ジャッキの使い方（→ P. 497）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 速度制限ラベル
④ 電源プラグ
⑤ 空気圧計
⑥ スイッチ

応急修理キットの取り出し方

1 カバーを取りはずす

2 固定バンドをはずし、応急修理キットを取り出す

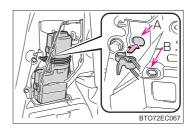
BTO72EC032

知識

■パンク修理キットを使用したあとは

次の手順でもとどおり車両に搭載してください。パンク修理キットが正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

パンク修理キットを固定するバンドのフックは、白いテープが貼られていない穴（A）に掛ける

白い穴（B）は工具袋を固定します（→P. 495）

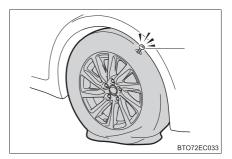
BTO72EC067

応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

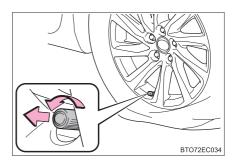
・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

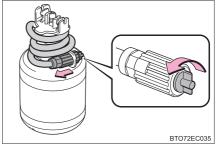
BTO72EC033

応急修理するとき

1 応急修理キットを取り出す

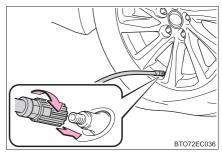
2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

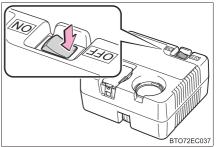
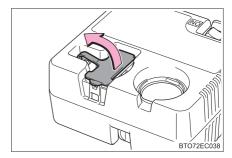
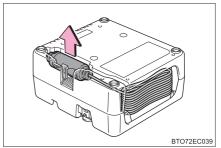
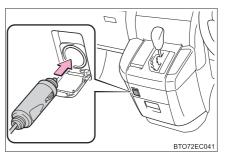
BTO72EC034

3 ホースをのばして、空気逃がしキャップを取りはずす

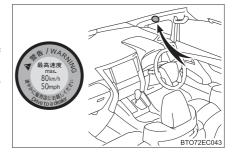
ボトルに同封されている速度制限ラベルは指定の位置へ貼り付けます。(9へ) 空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

BTO72EC035

4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

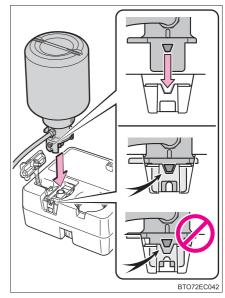
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

BTO72EC036

5 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する

BTO72EC037

6 コンプレッサーのゴム栓をはずす

7 コンプレッサーの電源プラグをはずす

8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 410）

9 付属のラベルを図のように貼り付ける

ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。

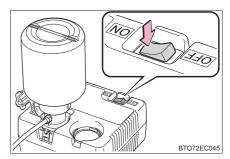
BTO72EC042

11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 441）

BTO72EC044

12 エンジンを始動する

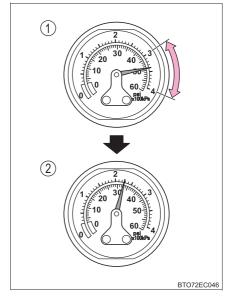
13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

BTO72EC045

14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）で実際の空気圧になります。

コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

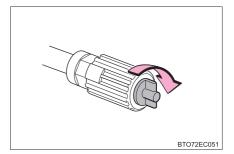
10 分以上（低温の場合は 25 分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてトヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→P. 514, 541）

15 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

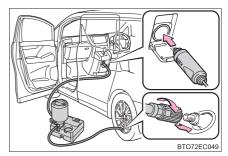
16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。

18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

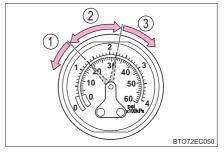
20 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

BTO72EC049

21 コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間“ON”にし、“OFF”にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

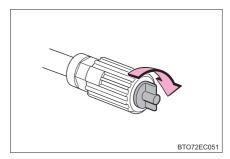
② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：22 へ

③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 541）の場合：23 へ

BTO72EC050

22 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液が漏れ、お車が汚れる可能性があります。

BTO72EC051

24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル 1 本でタイヤ 1 本を 1 回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度がー 30 ℃〜 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

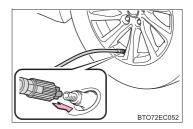
●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く

3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして数秒間経過後、スイッチを“OFF”にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。

●充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
  - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
  - ・空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 212）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 212）に従って、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 67）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 523）

● バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 518）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 523)

● ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

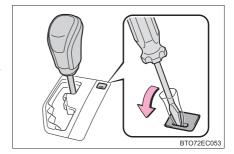
1 パーキングブレーキをかける

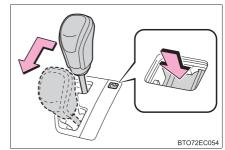
2 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 139）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠

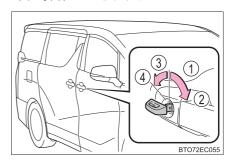
メカニカルキー（→ P. 96）を使って次の操作ができます。

① 全ドア施錠

② ドアガラスとリヤムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 550）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

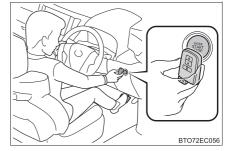
エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

▶ タイプ A（→ P. 96）

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

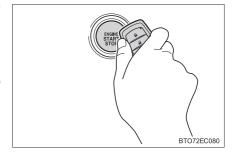
BTO72EC056

▶ タイプ B（→ P. 96）

2 電子キーの”ALPHARD”エンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

BTO72EC080

3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにスマートエントリー&スタートシステム表示灯が表示されていることを確認する

IO72VE003

4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーをPにしてエンジンスイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 452)

■モードの切りかえ

エンジン始動の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 213)

■電子キーが正常に働かない場合

- ●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→ P. 547)
- ●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→ P. 138)

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスとリヤムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやリヤムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやリヤムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

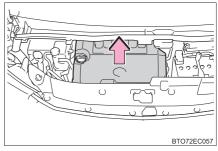
バッテリーがあがったときは

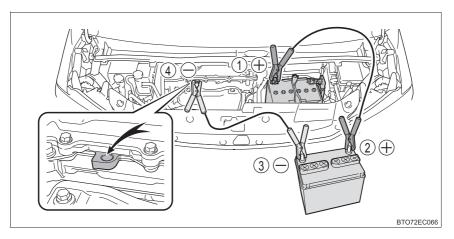
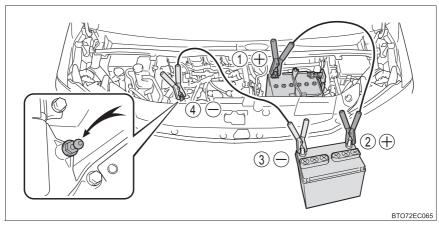
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開ける

→ P. 433

2 2GR-FE エンジン搭載車はエンジンカバーをはずす

3 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

▶ 2AR-FE エンジン搭載車

▶ 2GR-FE エンジン搭載車

① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける

7 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオ等の電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーがあがったときの留意事項

- ●バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラーム★が作動するとキーが車内に閉じ込められる場合があります。（→ P. 69）
- ●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。
- ●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- ●車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- ●バッテリーがあがったり、または端子をはずしたあと、約５分から40分はStop & Start システムは作動しないことがあります。（Stop & Start システム装着車）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリーの交換について

●装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。(Stop & Start システム 装着車)

●交換前と同一のケースサイズ、かつ２０時間率容量（２０ ＨＲ）が同等以上のバッテリーを使用してください。ケースサイズが異なると、バッテリーが正しく固定されません。

●２０時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であってもバッテリーがあがって、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。(→ P. 552)

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオ等の電源を切ってください。(Stop & Start システム★によるエンジン停止中を除く)

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

●誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近付けない

■**バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**バッテリーの交換について**

●液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。

●バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■バッテリーの－端子について

ボデーに接続されたバッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

● 水温計（→ P. 76）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
● マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示される
● エンジンルームから蒸気がでる

対処方法

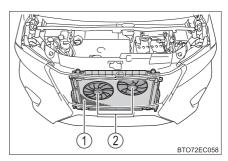
1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

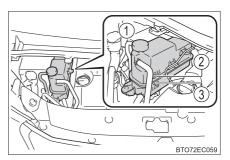
3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

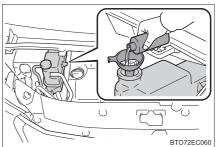
① ラジエーター
② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”(上限)と“LOW”(下限)の間にあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”(上限)

③ “LOW”(下限)

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する(→P. 539)

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

7 ファンが作動していない場合:
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合:
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認する

表示が消えていない場合:
エンジンを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合:
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

⚠警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。(2AR-FE エンジン搭載車)

●冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。また、エンジンスイッチを OFF にしても最大 13 分間作動することがあります。(2GR-FE エンジン搭載車)

●手や着衣(特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど)をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください

●異物(砂やほこりなど)を冷却水に混入させない

●市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

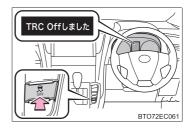
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止する
2. 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. FF 車：エンジンを再始動する
   4WD 車：エンジンを再始動し、マルチインフォメーションディスプレイで 4WD 作動状態を確認する（→ P. 89）

   手動で FF ／ 4WD を切りかえることはできません。状況に応じて自動で切りかわります。
5. シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

TRC を停止するには [OFF] を押してください。

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

● タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
● 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）....................................536
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧................................544
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目...........552

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

<table>
<tr><th>指定燃料</th><th>項目</th><th>容量［L］（参考値）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">▶2AR-FE エンジン搭載車
・無鉛レギュラーガソリン
・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※
▶2GR-FE エンジン搭載車
・無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）
・バイオ混合ガソリン（プレミアム）※</td><td>FF 車</td><td>75</td></tr>
<tr><td>4WD 車</td><td>65</td></tr>
</table>

※エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

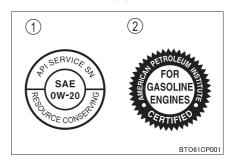
指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ キャッスル モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ キャッスル モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 トヨタ キャッスル モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 トヨタ キャッスル モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	2AR-FE	4.0	4.4
	2GR-FE	5.7	6.1

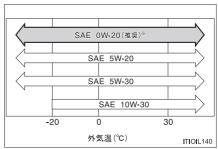
※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

① API マーク
② ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：
・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	2AR-FE	8.8
	2GR-FE	10.6

トランスミッション

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　FE	2AR-FE	7.5
トヨタ純正オートフルード　WS	2GR-FE	6.5（FF 車） 6.7（4WD 車）

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■CVT フルードについて

上記で指定のトヨタ純正フルード以外をご使用の場合、変速不良、振動などの不具合発生や破損に至るおそれがあります。

トランスファー（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT （API GL-5 SAE75W-85）	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

オイルタイプ・推奨粘度	容量［L］（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT（API GL-5 SAE75W-85）	0.5

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	175 以上

※ エンジン回転時に 490N（50kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/65R16 98H	16 × 6 1/2J	240（2.4）	
	225/60R17 99H	17 × 6 1/2J	240（2.4）	
	235/50R18 97V	18 × 7 1/2J	240（2.4）	
応急用タイヤ★	T155/80D17 100M	17 × 4T	420（4.2）	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※1

電球		W（ワット）数
車外	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H16★）	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ）※2	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯（アンバーバルブ）※2	21
	後退灯	16
車内	マップランプ（バルブタイプ★）	8
	リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）（バルブタイプ★）	5
	ドアカーテシランプ（バルブタイプ★）	5
	ラゲージランプ	5
	バニティランプ	8

※1 表に記載の無いランプは LED を採用しています。

※2 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
アルファード	AGH30W	2AR-FE（2.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	AGH35W		4WD（4 輪駆動）
	GGH30W	2GR-FE（3.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
	GGH35W		4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム★・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

以下の方法で設定変更が可能な項目は「車両カスタマイズ設定一覧」（→ P. 545）をご確認ください。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

▶ クリアランスソナーを除く

1 「設定・編集」ボタンを押す
2 ［>］を押し、「車両」画面を表示する
3 「設定・編集」画面の「車両」を選択する
4 設定を変更したいカテゴリーを選択する

BTO20EC022

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）、「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整し、⮌ を選択します。

▶ クリアランスソナー

→ P. 285

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 80

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステム★の画面操作で設定変更可能

② 車両側のスイッチなどで設定変更可能

③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ ドアロック（→ P. 104）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	○	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースライドドア★（→ P. 107）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スライドドアスイッチ反応時間	0.3 秒	OFF	—	—	○
		0.5 秒			
		0.8 秒			

■ パワーバックドア★（→ P. 125）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
バックドアスイッチの作動	長押し	短押し	—	—	○
作動の合図（ブザー）	する	しない	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 101,107,125,136）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを施錠･解錠したときの非常点滅灯の点滅（施錠・解錠時非常点滅灯応答）	あり	なし	○	—	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○
ドアを施錠･解錠したときの作動確認ブザー音量（施錠・解錠時ブザー音量調節）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
		120 秒			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム（→ P. 101,107,125,136）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	―	○
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	―	―	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 101）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	―	―	○

■ ドライビングポジションメモリー★（→ P. 163）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
降車時の運転席シート移動量調節（降車時運転席シート移動量調整）	標準	OFF 少なめ	○	―	○
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	―	―	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 232）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整（コンライト感度調整）	標準	－２～２	○	―	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 391）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間 （室内照明消灯時間調節）	15 秒	OFF 7.5 秒 30 秒	○	ー	○
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	ー	ー	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	ー	ー	○
電子キーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯	あり	なし	ー	ー	○

■ メーター（→ P. 76）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	ー	ー	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	ー	ー	○

■ エアコン（→ P. 374）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	ー	○
排ガスセンサー感度調整★	標準	－3～+3	○	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコドライブモード（→ P. 219）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
エコドライブモード時にヒーター／冷却機能を最小限にする	あり	なし	—	—	○

■ オートアラーム★（→ P. 68）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	する	しない	—	—	○

■ クリアランスソナー（→ P. 280）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
クリアランスソナー作動時のブザー音量（ブザー音量設定）	3（中）	1～5（小～大）	○※	—	○
フロントセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）★	遠い	近い	○※	—	○
フロントサイドセンサー／リヤサイドセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）★	遠い	近い	—	—	○
バックセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）	遠い	近い	○※	—	○
ナビゲーション画面★へのクリアランスソナー表示（ソナー表示）	表示	非表示	○※	—	○

※ → P. 285

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インテリジェントパーキングアシスト 2★（→ P. 304）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
障害物回避距離	標準	短い	―	―	○
		少し長い			
		長い			
並列駐車可能スペース	標準	狭い	―	―	○
		少し広い			
		広い			
縦列駐車可能スペース	標準	狭い	―	―	○
		少し広い			
		広い			

■ パワーウインドウ（→ P. 194）、リヤムーンルーフ★※（→ P. 198）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	―	―	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（ブザー）	あり	なし	―	―	○

※：パワーウィンドウの設定を変更すると、リヤムーンルーフ★の設定も連動して変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→ P. 189）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし エンジンスイッチと連動	—	—	○
リバース連動作動	あり	なし	—	—	○

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式自動ドアロック」と「シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。

・シフトレバーをＰ以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

警告

■カスタマイズを行うときは

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>参照</th></tr>
<tr><td>パノラミックビューモニター（左右確認サポート付）★</td><td rowspan="4">・バッテリーの充電・交換後の再接続時
・ヒューズ交換時</td><td>別冊「ナビゲーションシステム取扱書」</td></tr>
<tr><td>パワースライドドア</td><td>P. 114</td></tr>
<tr><td>インテリジェントクリアランスソナー★</td><td>P. 292</td></tr>
<tr><td>インテリジェントパーキングアシスト２★</td><td>P. 304</td></tr>
<tr><td>リヤムーンルーフ★</td><td rowspan="2">正常に働かないとき</td><td>P. 199</td></tr>
<tr><td>パワーウインドウ</td><td>P. 195</td></tr>
</table>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）............................554
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）...................................557
アルファベット順さくいん...............559
五十音順さくいん 561

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→P. 99）
- キーまたは電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 100）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？　（→ P. 452）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときはエンジンスイッチを OFF にしてください（→ P. 213）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 106, 139）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください
  （→ P. 111）

スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかかっていませんか？
  給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 113）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？ （→ P. 212）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 218）
- キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 136）
- ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 215）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
  （→ P. 521）
- バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 523）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
  エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 519）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 214）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 194）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 214）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 557）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 482、487 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 応急用タイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 491）

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 504）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 532）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）★が作動した※	P. 68
ドアを開閉したとき	シフトポジションが P 以外になっている	P. 489
	窓・ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 194 P. 198
	盗難防止装置（オートアラーム）★が作動した※	P. 68
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 452
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 137
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 137

※ ドアまたはバックドアを解錠する、またはエンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 482
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 225
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 482
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 218
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 207
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 267
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 362

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

4WD
（4 ホイールドライブ）. 543
A/C
（エアコン）. 374, 385
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 356, 482
ACC
（アクセサリー）. 213
AHB
（オートマチックハイビーム）. 235
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 222
ECO
（エコノミー / エコロジー）. 88
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. .356, 482
ESPO
（ECO（エコ）＋ PASSPORT（パスポート））. 91
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）. 543
ICS
（インテリジェントクリアランスソナー）. 292
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 538
IPA
（インテリジェントパーキングアシスト 2）. 304
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 58
PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 362
RF-transmitter (Radio Frequency-transmitter)
（ラジオフリクエンシートランスミッター）. 9
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 34

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリー
あがりの処置）............................523
アームレスト 145, 158, 161
アイドリングストップ.................252
アイドリング
ストップ時間........................259
SMART STOP.......................252
Stop & Start キャンセル
表示灯......................................74
Stop & Start システム 252
Stop & Start 表示灯 74
アウターミラー（ドアミラー）... 189
操作 189
アクセサリーコンセント.............411
アクセサリーソケット.................410
アクセサリーモード....................213
アシストグリップ........................422
足元照明.......................................391
アラーム 68
オートアラーム 68
音さくいん..............................557
警告ブザー.................................68
アンチロックブレーキシステム
（ABS）.......................................356
アンテナ（スマートエントリー&
スタートシステム）.................... 136
ICS（インテリジェント
クリアランスソナー）.................292
警告ブザー...............................297
操作 292
IPA（インテリジェント
パーキングアシスト 2）............304
縦列出庫機能...........................305
縦列駐車機能...........................305
前進誘導機能...........................305
操作 304
バック駐車機能.........................305

い

イージークローザー
（スライドドア／
バックドア）.....................113, 128
イグニッションスイッチ
（エンジンスイッチ）...................212
位置交換
（タイヤローテーション）...........440
イベントデータレコーダー
（EDR）...8
イモビライザーシステム.................67
イルミネーテッドエントリー
システム.......................................391
インジケーター（表示灯）...............74
インテリアランプ（室内灯）........391
操作.....................392, 393, 394
ワット数..................................542
インナーミラー............................187

う

ウインカー（方向指示灯）............224
電球（バルブ）
の交換 462, 463, 466
方向指示レバー........................224
ワット数..................................542
ウインドウ...................................194
ウォッシャー 242, 246
パワーウインドウ...................194
リヤウインドウ
デフォッガー........................377
ウインドウロックスイッチ..........194
ウェルカム
パワースライドドア...................112
ウォーニングランプ
（警告灯）.............................72, 482

ウォッシャー.....................242, 246
液の補充..................................438
スイッチ......................242, 246
タンク容量..............................540
冬の前の準備・点検...............368
動けなくなったときは
（スタック）.................................532
雨滴感知式ワイパー.....................243
運転..202
運転を補助する装置...............356
寒冷時の運転..........................368
正しい運転姿勢.........................26
手順.......................................202
運転席シートポジション
メモリー....................................163

え

エアコン............................374, 385
「ナノイー」..............................381
フィルターの交換....................446
フロントエアコン....................374
リヤエアコン...........................385
エアバッグ.....................................34
SRS エアバッグ警告灯.............72
作動条件....................................38
配置..34
エクストラスライドエリア
（助手席スーパーロング
スライドモード）.........................181
エコドライブインジケーター........88
ESPO 画面....................................91
LED デイライト...........................233
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）.................356
機能..356
パワーステアリング
警告灯............................72, 482
パワーステアリング警告
ブザー...................................482
エンジン
エンジンイモビライザー
システム.................................67
エンジンがかからない
（エンジンが始動
できない）..............................517
エンジン警告灯...............72, 482
エンジンスイッチ...................212
エンジンの始動方法...............212
オーバーヒート......................529
ボンネット.............................433
エンジンオイル............................537
冬の前の準備・点検...............368
メンテナンスデータ...............537
油圧警告灯......................72, 482
油圧警告ブザー......................482
エンジンスイッチ.........................212
イグニッション......................212
エンジンスイッチ...................212
エンジンフード（ボンネット）....433
開け方....................................433
エンジンルーム
エンジンルームから
蒸気が出ている.....................529

お

オイル（エンジンオイル）............537
応急用タイヤ................................491
空気圧....................................541
交換方法.................................491

オートアラーム......68
オートアドアロック・
アンロック機能......104
オートエアコン......374, 385
オートマチック
トランスミッション......218
操作......218
7 速スポーツシーケンシャル
シフトマチックモード......220
S モード......220
オートマチックハイビーム......235
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）......234
オーバーヒート......529
オープナー
給油口......248
ボンネット......433
おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）......413
お子さまを乗せるとき......42
ウインドウロックスイッチ......194
お子さまの安全のために......42
子供専用シート......43
シートベルトの着用......31
チャイルドシートの
取り付け......51, 58, 64
チャイルドプロテクター......111
オドメーター......76
機能......76
表示切りかえボタン......77

か

カーテンシールドエアバッグ......34
カーペット......430
洗浄......430
フロアマットの取り付け方......24
外気温度表示......76
外装の電球（バルブ）......458
交換要領......458
ワット数......542
カスタマイズ機能......544
型式......543
カップホルダー......399
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウ
デフォッガー）......377
ガレージジャッキ......436
冠水路走行......210
寒冷時の運転......368

き

キー......96
エンジンが始動できない......517
キーナンバープレート......96
キーの構成......96
キーレスエントリー......101, 136
キーをなくした......98, 100
正常に働かない......520
解錠・施錠ができない......520
電子キー......96
電池が切れた......452, 520
メカニカルキー......98
ワイヤレス
リモコン......101, 108, 126
キーレスエントリー......101, 136
スマートエントリー＆
スタートシステム......136
ワイヤレスドアロック......101
給油......248
給油のしかた......248
緊急時シートベルト固定機構......31

緊急時の対処
　エンジンが始動できない........517
　オーバーヒートした 529
　キーの電池が切れた 452, 520
　警告灯がついた 482
　警告メッセージが
　　表示された 487
　けん引...................................475
　故障したときは 470
　シフトレバーが
　　シフトできない 519
　車両を緊急停止する 474
　スタックした 532
　電子キーが正常に働かない....520
　発炎筒...................................472
　バッテリーがあがった...........523
　パンクした...................491, 504

く

空気圧（タイヤ）..........................541
　メンテナンスデータ 541
区間距離計
（トリップメーター）.....................76
　機能 76
　表示切りかえボタン 77
曇り取り
　フロントウインドウ
　　ガラス................................377
　ミラーヒーター......................377
　リヤウインドウ
　　デフォッガー 377
クラクション（ホーン)...............185
クリアランスソナー....................280
　警告メッセージ 287
　警告ブザー.............................283
　操作 280
クリアランスランプ（車幅灯）....232
　スイッチ 232
　電球（バルブ）
　　の交換 466
クリップ
　フロアマット 24
クルーズコントロール.................263
グローブボックス 397
グローブボックスランプ............397

け

警音器（ホーン)..........................185
計器類（メーター)..........................76
　警告灯 72
　表示灯 74
　照度調整 77
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ 80
　メーター 76
警告灯..72
　ABS &ブレーキアシスト 482
　ICS OFF 表示灯....................484
　PCS.......................................483
　SRS エアバッグ.....................482
　エンジン 482
　エンジンオイル圧力...............483
　高水温 484
　充電 483
　シートベルト非着用...............483
　Stop & Start
　　キャンセル表示灯................484
　スリップ表示灯.......................484
　燃料残量 483
　パーキングブレーキ...............484
　パワーステアリング...............482
　半ドア 483
　プリテンショナー...................482

ブレーキ 482
ブレーキオーバーライド
システム 484
ブレーキホールド 484
マスターウォーニング 483
警告ブザー
ICS 484
エンジンオイル圧力 483
クリアランスソナー 283
シートベルト非着用 483
シフトダウン制限 221
スマートエントリー＆
スタートシステム 137
パワーステアリング 482
パーキングブレーキ
未解除走行時 227
半ドア 102, 137
半ドア走行時 106
PCS 483
ブレーキ 482
窓開 195
ランプ消し忘れ 233
リバース 222
リヤムーンルーフ開 199
レーダークルーズ
コントロール 272
警告メッセージ 487
化粧ミラー（バニティミラー） 409
けん引 475
けん引のしかた 475
フック 476

こ

交換
エアコンフィルター 446
キーの電池 452
タイヤ 491
電球（バルブ） 458
ヒューズ 455
工具（ツール） 492, 505
後席用サンシェード 419
航続可能距離 83
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換 464
ワット数 542
コーナリングランプ 233
子供専用シート 43
選択方法 52, 60
取り付け方 51, 58, 64
小物入れ 402
コンビニフック
（買い物フック） 422
コンソールボックス 397
コンライト
（自動点灯・消灯装置） 232

さ

サイドエアバッグ 34
サイドテーブル 420
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換 466
方向指示レバー 224
サイドミラー（ドアミラー） 189
操作 189
坂道発進補助機能 255
サンシェード
スライドドア 419
ムーンルーフ 199
サンバイザー 409

サードシート 161

し

シート...................... 143, 148,161
子供専用シート 43
サードシート 161
シートアレンジ 172
セカンドシート 148
正しい運転姿勢 26
調整 143, 148, 161
手入れ.................................... 430
ドライビングポジション
メモリー.............................. 163
パワーイージーアクセス
システム.............................. 163
フロントシート 143
ヘッドレスト 169
メモリーコール機能 165
シートアレンジ.......................... 172
シートヒーター.......................... 388
シートベルト 28
お子さまの着用 31
緊急時シートベルト固定機構 ... 31
シートベルト非着用
警告灯.......................... 72, 482
正しく着用するには 28
着け方・はずし方 28, 29
手入れ.................................... 430
妊娠中の方の着用 32
シートベルトプリテンショナー..... 31
機能 31
プリテンショナー
警告灯.......................... 72, 482
室内灯
読書灯.................................... 394
マップランプ 393
ルーフカラー
イルミネーション 394
リヤパーソナルランプ 393
ワット数 542
始動のしかた...............................212
シフトポジション 218
シフトレバー...............................218
シフトレンジの切りかえ 218
シフトロックシステム
（解除ボタン）........................519
操作 218
リバース警告ブザー 222
シフトレバーがシフト
できないときは 519
締め付けトルク（ホイール）........500
ジャッキ
ガレージジャッキ...................436
車載ジャッキ 492, 505
ジャッキハンドル 492, 505
車幅灯
スイッチ 232
電球（バルブ）の交換 466
車両型式.......................................543
車両仕様（スペック）..................536
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには.............474
ジュニアシート 52
瞬間燃費...83
仕様（車両仕様）.........................536
助手席スーパーロングスライドモード
（エクストラスライドエリア）...181

す

スイッチ
イグニッション.......................212
IPA（インテリジェント
パーキングアシスト 2）.......306

ウインドウロック 194
ウォッシャー 242, 246
ECO MODE........................... 219
エンジンスイッチ 212
オートマチックハイビーム.... 235
クルーズ
コントロール 263, 267
シート調整................... 143, 148
シートヒーター 388
シートベンチレーター........... 388
シートポジション
メモリー.................... 163, 167
車間距離切りかえ
（レーダークルーズ
コントロール）..................... 267
ステアリングヒーター........... 388
ドアミラー............................. 189
ドアロック............................. 103
パワーウインドウ 194
パワースライドドア 111
パワーバックドア 125
非常点滅灯
（ハザードランプ)................ 471
PCS OFF.............................. 363
VSC OFF.............................. 357
フォグランプ.......................... 240
フロントワイパー
デアイサー 377
ランプ.................................... 232
リヤウインドウ
デフォッガー 377
ワイパー...................... 242, 246
スタック 532
ステアリングホイール
（ハンドル）............................... 185
位置調整................................. 185
スイッチ.........................82、424
ステアリングヒーター 388
ステアリングロック 214
解除できないとき...................215
警告灯 72, 482
警告メッセージ.......................215
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換...........466
スノータイヤ（冬用タイヤ）........368
スピードメーター 76
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧 541
交換方法 491
スペック（車両仕様）..................536
スマートエントリー＆
スタートシステム......................136
アンテナの位置.......................136
エンジンの始動.......................212
カスタマイズ設定...................544
警告メッセージ.......................487
警告ブザー 137, 487
作動範囲 136
正常に働かないとき...............520
節電機能 138
電波がおよぼす影響
について 142
ドアの解錠・
施錠 101, 107, 125
SMART STOP..........................252
アイドリング
ストップ時間.......................259
キャンセルスイッチ...............255
SMART STOP......................252

Stop & Start
キャンセル表示灯............72, 74
Stop & Start システム 252
Stop & Start 表示灯 74
スモールランプ（車幅灯）........... 232
スイッチ.................................. 232
電球（バルブ）の交換........... 466
スライドドア 107
スライドドア
イージークローザー............ 113
スマートエントリー&
スタートシステム................ 136
ドアガラス............................. 194
半ドア警告灯.......................... 483
半ドア走行時警告ブザー........ 106
パワースライドドア 110
窓開警告ブザー 195
ロックレバー.......................... 107
ワイヤレスリモコン 108

せ

清掃...................................426, 430
アルミホイール 427
外装 426
シートベルト.......................... 430
内装 430
レーダーセンサー 279
制動灯
電球（バルブ）の交換........... 466
セカンドシート............................ 148
シートヒーター 388
シートベンチレーター........... 388
シートポジションメモリー.... 167
正しい運転姿勢 26
調整 148
手入れ.................................... 430
セカンドシート
ポジションメモリー..................167
積算距離計（オドメーター）...........77
機能..77
表示切りかえボタン 77
セキュリティインジケーター.........67
センサー
インナーミラー.......................188
雨滴感知センサー...................244
オートマチックハイビーム 239
ライトセンサー.......................233
レーダーセンサー...................275
洗車 426
前照灯（ヘッドランプ)................232
スイッチ 232
電球（バルブ）
の交換 466
ライトセンサー.......................233
ランプ消し忘れ警告ブザー 234
ランプ消し忘れ防止機能........233

そ

速度計（スピードメーター）...........76

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）.............................224
電球（バルブ）
の交換 462, 463, 466
方向指示レバー.......................224
ワット数 542
タイヤ...440
応急用タイヤ 491
空気圧..........................444, 541
交換...491
締め付けトルク.......................500
点検...440

パンクしたときは........491, 504
ホイールサイズ........541
ローテーション
（位置交換）........440
タイヤが空まわりする
（スタックした）........532
タイヤチェーン........368

ち

チェーン（タイヤチェーン）........368
チャイルドシート........43
ISOFIX バーでの取り付け........58
シートベルトでの固定........51
選択方法........43
チャイルドプロテクター........111
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）........225
操作........225
警告灯........73
警告ブザー........227

つ

ツインムーンルーフ........198
リヤムーンルーフ開
警告ブザー........199
ツール（工具）........492, 505

て

ディファレンシャル........540
手入れ........426, 430
アルミホイール........427
外装........426
シートベルト........430
内装........430
デッキフック........407
デッキボード........405
テールランプ（尾灯）........232
スイッチ........232
電球（バルブ）の交換........466
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）........377
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）........458
ワット数........542
点検基準値
（メンテナンスデータ）........536
電子キー........96
作動範囲........136
正常に働かないとき........520
節電機能........138
電池が切れた........452, 520
電池交換........452
電池交換（キー）........452

と

ドア........101, 107, 125
スマートエントリー＆
スタートシステム........136
チャイルドプロテクター........111
ドアガラス........194
窓開警告ブザー........195
ドアロックスイッチ........103
半ドア警告灯........483
半ドア走行時警告ブザー........106
ロックレバー........103, 107
ワイヤレス
リモコン........101, 108
ドアカーテシランプ........391
位置........391
ワット数........542
ドアミラー........189
操作........189

盗難防止装置
エンジンイモビライザー
システム.................................67
オートアラーム.........................68
読書灯.......................................394
時計..409
トップテザーアンカー...................64
Toyota Stop &
Start System.........................252
アイドリングストップ
時間.......................................259
キャンセルスイッチ..............255
SMART STOP.....................252
Stop & Start
キャンセル表示灯...........72, 74
Stop & Start システム........252
Stop & Start 表示灯..............74
ドライビングポジション
メモリー.........................163, 167
パワーイージーアクセス
システム.............................163
ポジションメモリー..............164
メモリーコール機能..............165
ドライブインフォメーション........83
トラクションコントロール
(TRC)......................................356
トランスミッション....................218
操作.......................................218
メンテナンスデータ..............539
トリップメーター.........................77
機能...77
表示切りかえボタン.................77

な

内装
収納装備.................................396
手入れ....................................430
「ナノイー」...............................381

に

ニーエアバッグ...............................34
荷物
積むときの注意.......................211

ぬ

ぬかるみにはまった
(スタックした)..........................532

ね

燃費
瞬間燃費...................................83
平均燃費...................................83
燃費画面......................................91
燃料..536
給油.......................................248
種類.......................................536
燃料残量警告灯...............72, 483
容量.......................................536
燃料計...76

は

パーキングブレーキ....................225
操作.......................................225
警告灯.............................73, 484
警告ブザー............................227
パーソナルランプ.......................393
操作.......................................393
ワット数.................................542
排気ガス......................................66

ハイビーム（ヘッドランプ）....... 232
オートマチックハイビーム.... 235
スイッチ................................ 232
電球（バルブ）の交換........... 466
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換........... 466
バイオ混合ガソリン..................... 248
ハザードランプ（非常点滅灯）... 471
スイッチ................................ 471
電球（バルブ）
の交換............. 462, 463, 466
ワット数................................ 542
挟み込み防止機能
スライドドア......................... 115
バックドア............................. 130
パワーウインドウ 194
ムーンルーフ 199
発炎筒.. 472
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換........... 464
ワット数................................ 542
バックドア 125
バックドア
イージークローザー............ 128
スマートエントリー&
スタートシステム................ 136
半ドア警告灯......................... 483
半ドア走行時警告ブザー........ 106
パワーバックドア 125
ワイヤレスリモコン .... ,126
バッテリーがあがった................. 523
バニティ（化粧用）ミラー 409
バルブ（電球）
交換要領（外装バルブ).......... 458
ワット数................................ 542
パワーイージーアクセス
システム 163
パワーウインドウ 194
ウインドウロックスイッチ 194
閉めることができない
ときは 195
操作... 194
挟み込み防止機能................... 194
巻き込み防止機能................... 195
パワーステアリング 356
機能...356
警告灯 482
警告メッセージ.......................487
パワースライドドア 111
操作... 111
挟み込み防止機能................... 115
パワーバックドア 125
パンクした
応急用タイヤ装着車................491
タイヤパンク応急修理キット
装着車 504
番号灯
（ライセンスプレートランプ）...232
スイッチ 232
電球（バルブ）の交換...........466
ハンドル
（ステアリングホイール)...........185
位置調整 185
スイッチ 82, 424

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）............... 356
ヒーター
シートヒーター 388
ステアリングヒーター............ 388
フロントエアコン 374
リヤエアコン 385
非常点滅灯
（ハザードランプ）...................... 471
スイッチ.................................. 471
電球（バルブ）
の交換............. 462, 463, 466
ワット数.................................. 542
尾灯（テールランプ）................... 232
スイッチ.................................. 232
電球（バルブ）の交換............ 466
ヒューズ...................................... 455
表示灯.. 74
日よけ（サンバイザー）............... 409
ヒルスタートアシスト
コントロール............................. 356
PCS（プリクラッシュ
セーフティシステム）................ 362

ふ

ブースターケーブル
のつなぎ方................................ 523
フォグランプ 240
スイッチ.................................. 240
電球（バルブ）の交換............ 460
ワット数.................................. 542
ブザー
クリアランスソナー 283
シートベルト非着用 483
シフトダウン制限 221
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）.......................272
PCS..362
ICS...297
スマートエントリー＆
スタートシステム.................137
パワーステアリング................482
半ドア............................137, 483
半ドア走行時 106
ブレーキ 482
窓開..195
油圧..483
ランプ消し忘れ.......................234
リバース 222
リヤムーンルーフ開...............199
フック
買い物フック 422
けん引フック 476
コートフック 423
フロアマット固定フック 24
デッキフック 407
フューエルメーター（燃料計）.......76
フューエルリッド（給油口）........248
冬の前の準備（寒冷時の運転）....368
冬用タイヤ....................................368
PCS（プリクラッシュ
セーフティシステム）.................362
機能..362
PCS OFF スイッチ 363
PCS 警告灯 483
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル............356
警告ブザー 227, 482
警告メッセージ.......................487
パーキングブレーキ................225
ブレーキ警告灯................72, 482
ブレーキホールド...................229
メンテナンスデータ 540

ブレーキアシスト 356
　ABS ＆ブレーキアシスト
　　警告灯 72, 482
　機能 356
ブレーキ付近からキーキー音が
**　聞こえる** 207
ブレーキフルード 540
ブレーキホールド 229
フロアマット 24
フロントシート 143
　シートヒーター 388
　シートポジションメモリー 163
　正しい運転姿勢 26
　調整 143
　手入れ 430
　ドライビングポジション
　　メモリー 163
　ヘッドレスト 169
パーソナルランプ 393
　操作 393
　ワット数 542
フロントフォグランプ 240
　スイッチ 240
　電球（バルブ）の
　　交換 460, 466
　ワット数 542
フロント方向指示灯 224
　電球（バルブ）の交換 462
　方向指示レバー 224
　ワット数 542
フロントワイパーデアイサー 377

へ

平均燃費 83
ヘッドランプ 232
　コーナリングランプ 233
　スイッチ 232
　電球（バルブ）
　　の交換 458, 466
　ライトセンサー 233
　ランプ消し忘れ警告ブザー 234
　ランプ消し忘れ防止機能 233
ヘッドランプオートレベリング
**　システム** 234
ヘッドレスト 169
ベビーシート 52

ほ

ホイール
　交換（タイヤ） 491
　メンテナンスデータ 541
方向指示灯 224
　電球（バルブ）
　　の交換 462, 463, 466
　方向指示レバー 224
　ワット数 542
ホーン（警音器） 185
保証 9
補助確認装置 193
ボトルホルダー 400
ボンネット 433
　開け方 433

ま

マスター
**　ウォーニング** 72, 483, 487
マルチインフォメーション
**　ディスプレイ** 80
　ドライブインフォメーション 83
　警告メッセージ 487
　設定 86

み

ミラー
　インナーミラー 187

ドアミラー............................189
バニティミラー......................409

む

ムーンルーフ............................198
挟み込み防止機能..................199
リヤムーンルーフ開
警告ブザー..........................199

め

メーター（計器類）........................76
警告灯.......................................72
照度調整....................................77
表示灯.......................................74
マルチインフォメーション
ディスプレイ..........................80
メーター....................................76
メカニカルキー...............................98
メモリーコール機能......................165
メンテナンスデータ......................536

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.........544
雪道ですべって動けない
（スタックした）.........................532
油脂類..536

よ

4WD...543

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..................................232
スイッチ..................................232
電球（バルブ）の交換...........466
ラゲージルーム内装備.................405
デッキフック..........................407
デッキボード..........................405
ラジエーター
オーバーヒート......................529
メンテナンスデータ...............539
ランプ
インテリアランプ...................392
室内灯.....................................391
電球（バルブ）の交換...........458
パーソナルランプ...................393
非常点滅灯
（ハザードランプ）...............471
フロントフォグランプ...........240
ヘッドランプ（前照灯）.........232
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..........224
ライトセンサー.......................233
ランプ消し忘れ警告ブザー....234
ランプ消し忘れ防止機能........233
ワット数..................................542
ランプ消し忘れ警告ブザー..........234
ランプ消し忘れ防止機能..............233

り

リヤウインドウデフォッガー
スイッチ...................................377
リヤエアコン...............................385
リヤ方向指示灯...........................224
電球（バルブ）の交換...........463
方向指示レバー......................224
ワット数..................................542
リヤワイパー...............................246

る

ルーフカラー
イルミネーション......................394
ルームミラー
（インナーミラー）.....................187

ルームランプ（室内灯）............... 391
操作 392
ワット数................................ 542

れ

レーダークルーズ
コントロール.............................. 267
警告メッセージ 487
接近警報................................ 272
レーダーセンサー 275
冷却水.. 539
水温警告灯....................... 73, 484
水温計.. 76
冬の前の準備.......................... 368
メンテナンスデータ 539
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 529
メンテナンスデータ 539
レバー
給油口.................................... 251
シフト.................................... 218
ハンドル位置調整レバー........ 185
方向指示................................ 224
ボンネット解除 433
ロック（レバー）.......... 103, 107

ろ

ロック
ウインドウロック 194
シフトロック.......................... 519
スマートエントリー＆
スタートシステム................ 136
チャイルドプロテクター........ 111
ドア 103, 107
ワイヤレス
リモコン.................... 101, 108

わ

ワイパー＆
ウォッシャー 242, 246
ワイパーゴムの交換 449
ワイパーブレード（寒冷地用）....370
ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）.........................413
ワイヤレスリモコン 101, 108
作動の合図 102
操作...............................101, 108
電池の交換 452
半ドア警告ブザー...................102
ワックス.......................................426
ワット数.......................................542

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	給油口
P. 433	P. 251

ボンネット解除レバー	給油口オープナー	タイヤ空気圧
P. 433	P. 251	P. 541

項目	内容
燃料の容量（参考値）	FF 車：75L 4WD 車：65L
燃料の種類	P. 536
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 541
エンジンオイル容量（参考値）	2AR-FE　2GR-FE オイルのみ交換時：4.0L　5.7L オイルとフィルター交換時：4.4L　6.1L
エンジンオイルの種類	トヨタ キヤッスル モーターオイル ・ SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・ SN 10W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30）

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp